

グローバル・トレンド 2017年版 (未来洞察データ集)

時流に先んじた戦略立案に向けて

2017年3月
中部経済産業局

●本資料の利用上の注意

本資料には、見通し等の将来に関する記述が含まれています。

これらの将来に関する記述は、各機関が公表しているデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

また、各機関が公表しているデータについては、出典元をご参照いただくとともに、今後の内外の状況変化等により、将来における実際の結果と大きく異なる可能性があることをご留意ください。

目次

【はじめに】「グローバル・トレンド」の狙い

1. エネルギートレンド
2. 資源トレンド
3. 経済トレンド
4. 市場トレンド（自動車分野）
5. 市場トレンド（航空機分野）
6. 市場トレンド（産業用ロボット分野）
7. まとめ

【参考 1】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化

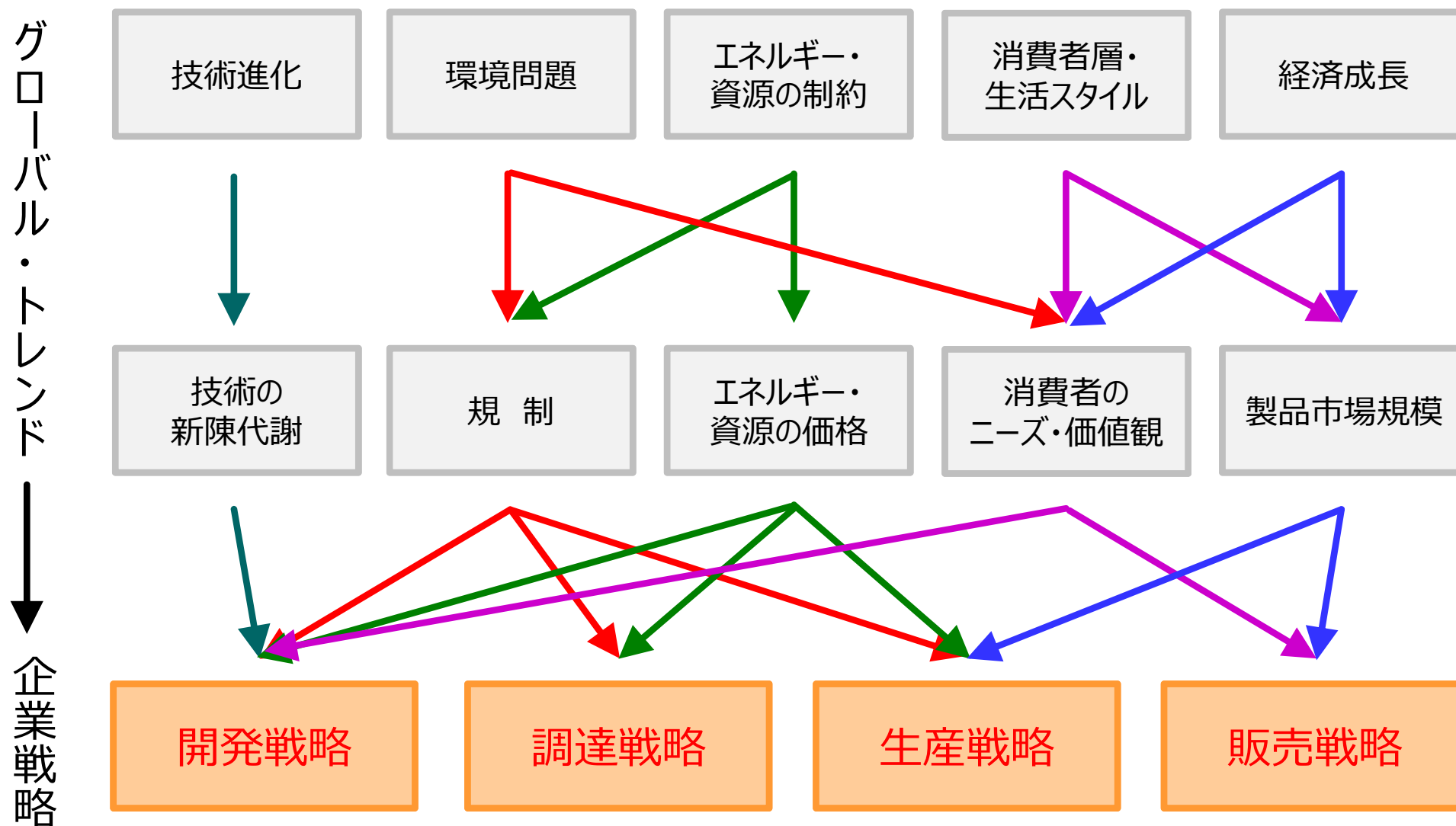
【参考 2】補足データ

【はじめに】

「グローバル・トレンド」の狙い

【はじめに】「グローバル・トレンド」の狙い

- グローバル競争に勝つには、将来の取り巻く環境変化を見据えた事業展開が重要に。
- 各機関の予測データを取りまとめ、分析することで、時流に先んじた戦略立案を促進。

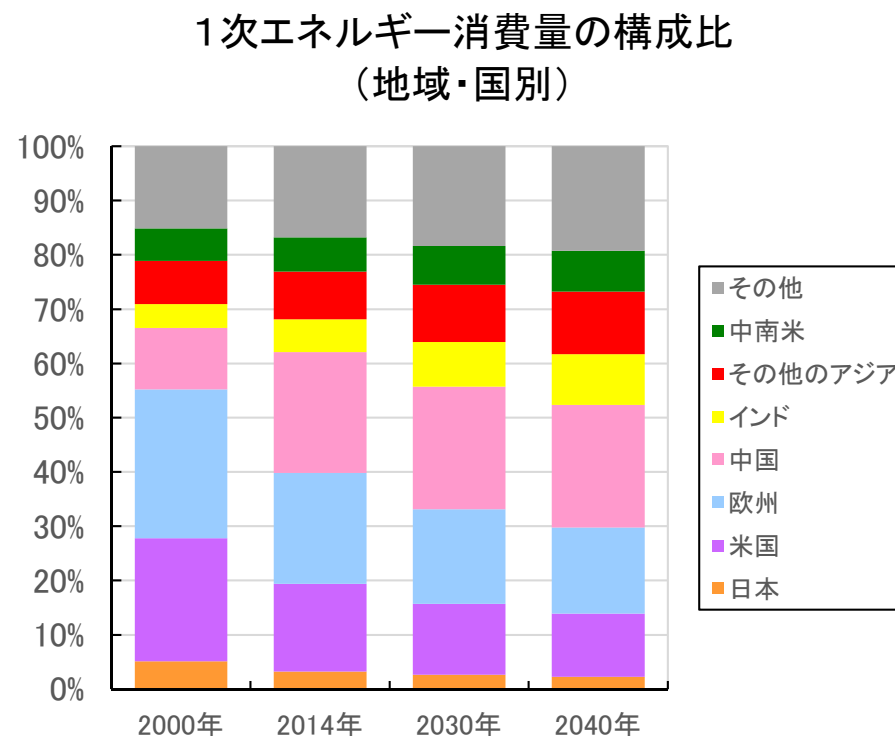
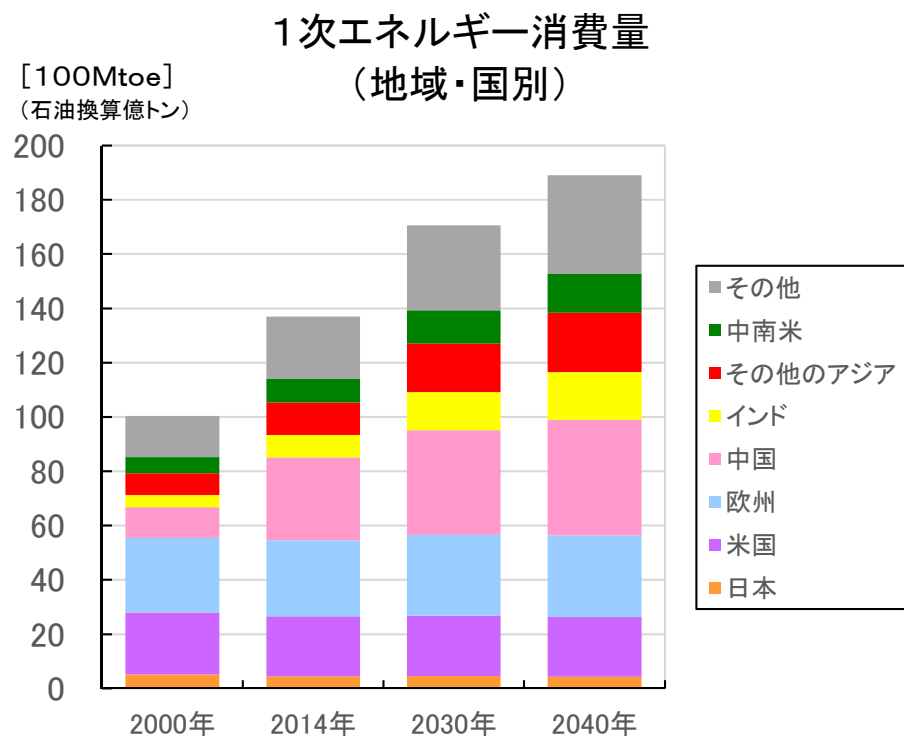


1. エネルギートレンド

～ エネルギー使用量の増加に伴う地球温暖化への影響 ～

1. (1) 1次エネルギー消費量 (①地域・国別)

- データを見ると、世界の1次エネルギー消費量は、中国、インド、その他のアジアを中心に増加する見通し。
- 日本、米国、欧州は、横ばいで推移する見通し。



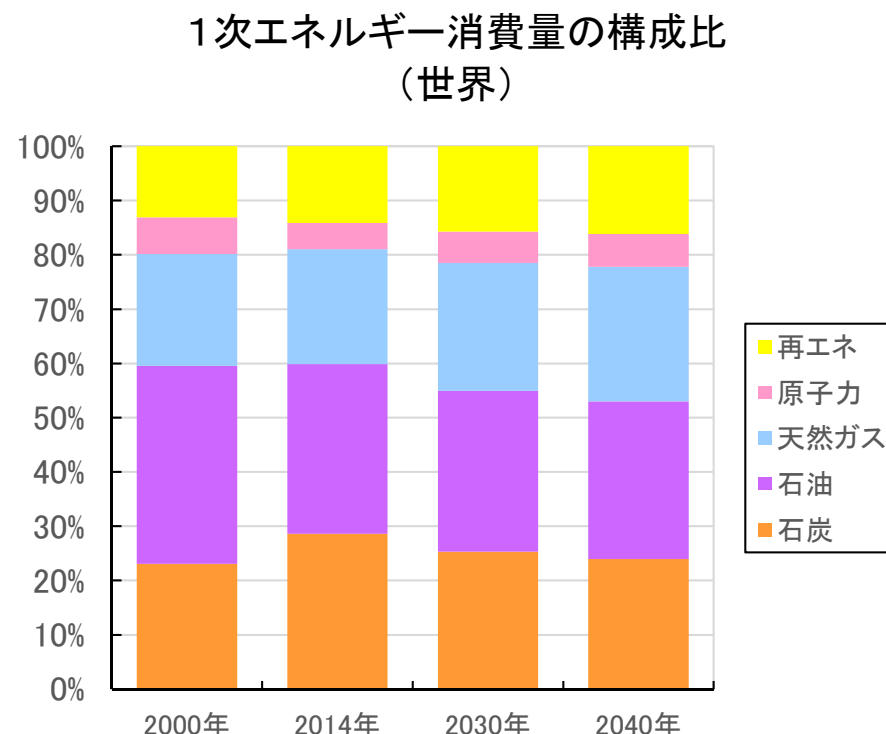
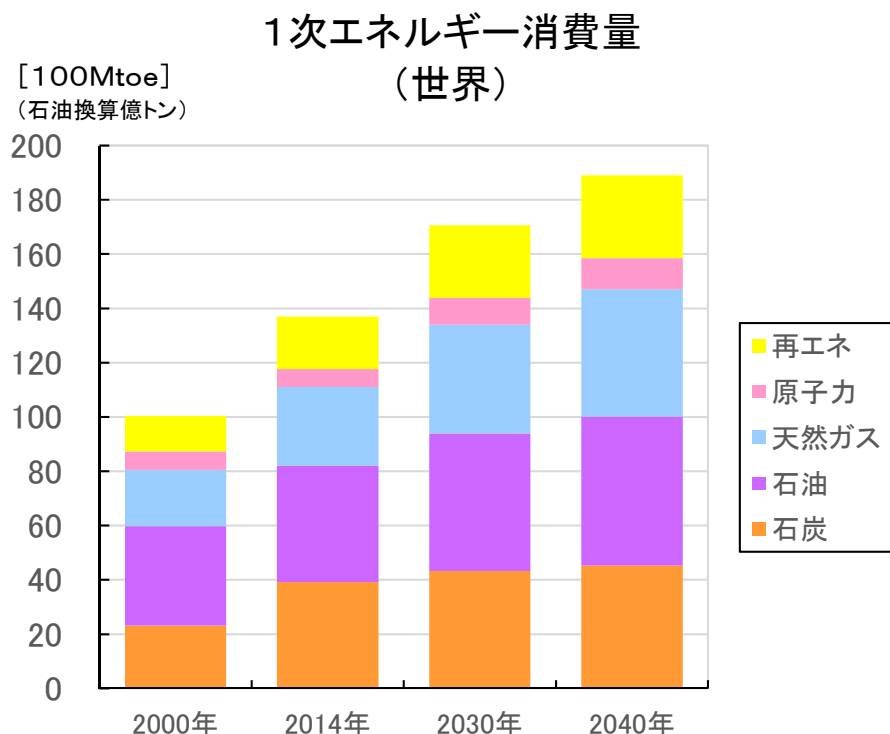
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」((一財) 日本エネルギー経済研究所 (I E E J))
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (②世界のエネルギー別)

- データを見ると、1次エネルギー消費量の構成比は、再生可能エネルギー、天然ガスの割合が増加する見通し。



※予測はレファレンスケース

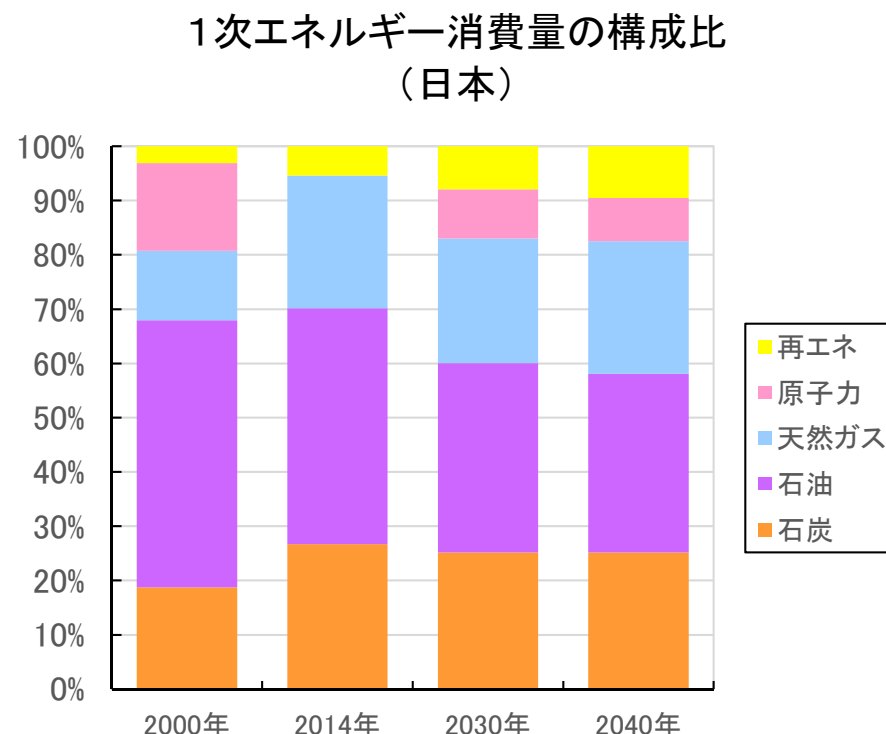
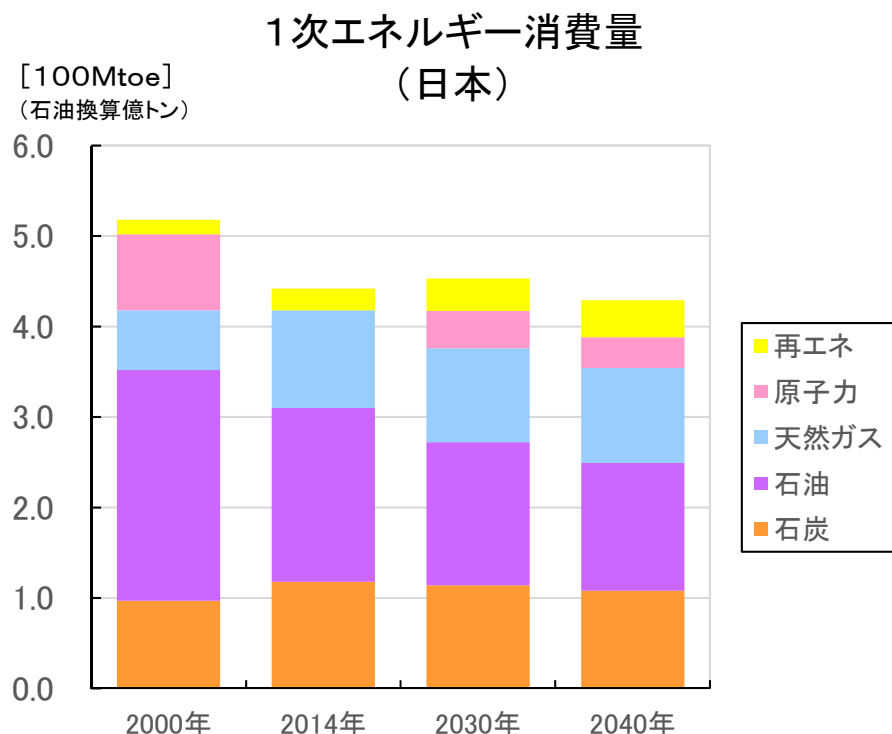
出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」((一財) 日本エネルギー経済研究所 (I E E J))

http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータととりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (③日本のエネルギー別)

- データを見ると、日本の1次エネルギー消費量は、長期的には減少する見通し。
- 構成比は、再生可能エネルギー、天然ガスの割合が増加する見通し。



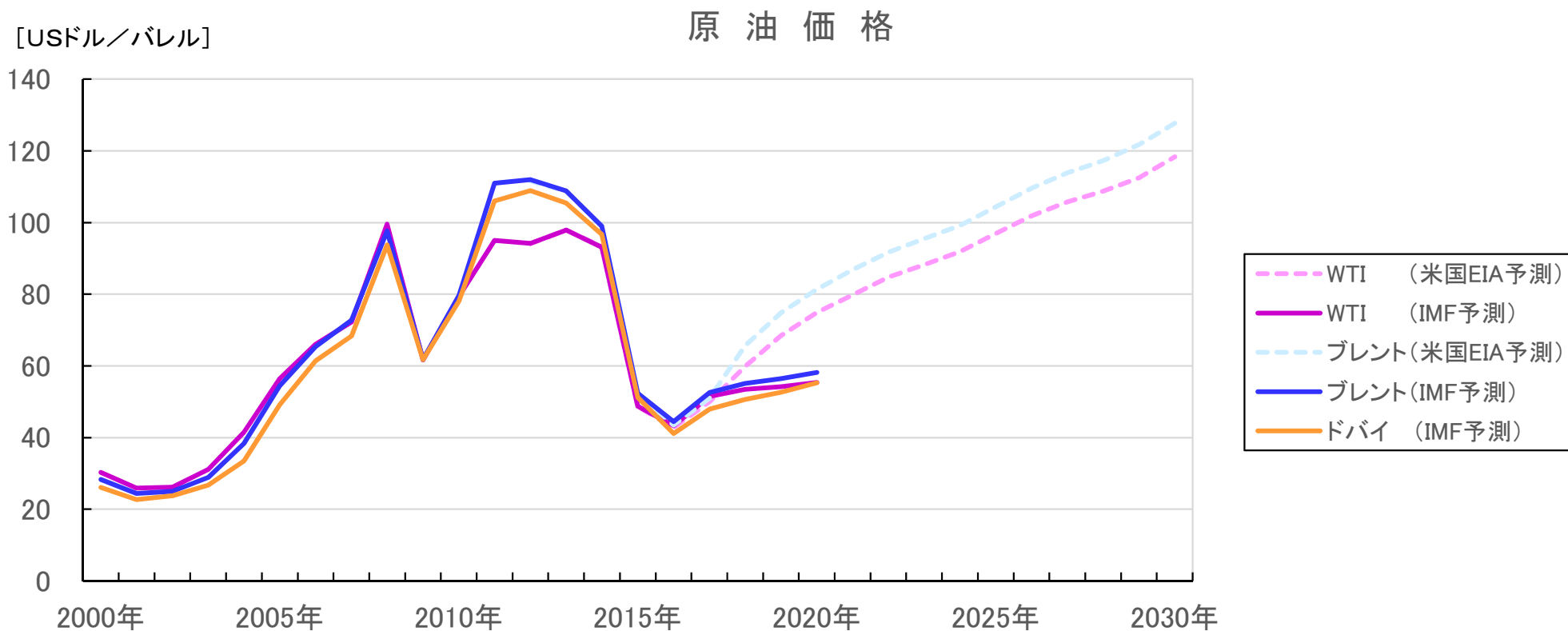
※予測はレファレンスケース
※その他の主な地域・国のデータは巻末に掲載

出典：「アジア／世界エネルギーアウトルック2016」(一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ)
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

1. (2) エネルギー価格 (①原油価格)

- データを見ると、原油価格は、長期的には上昇する見通し。



※価格は名目価格

出典：「World Economic Outlook Database October 2016」(IMF)

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2016/02/weodata/index.aspx>

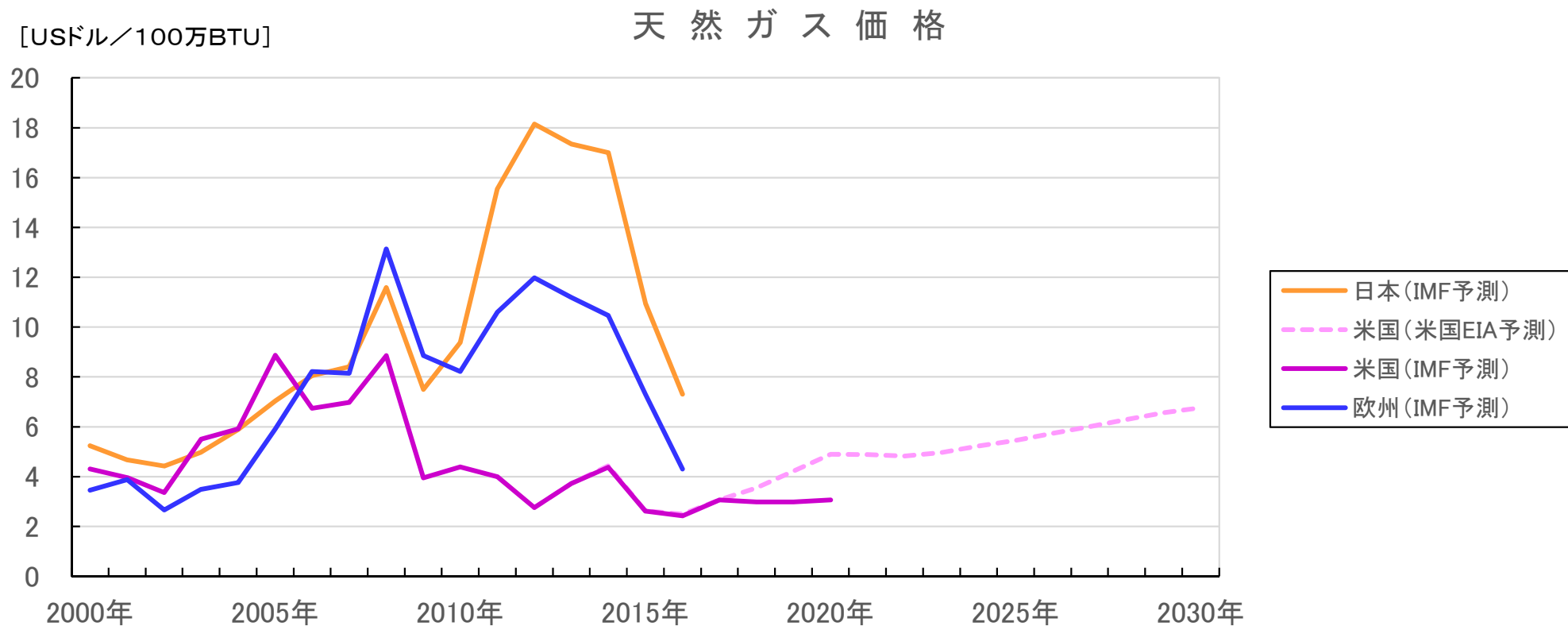
出典：「Annual Energy Outlook 2017」(米国EIA)

<http://www.eia.gov/beta/aeo/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

1. (2) エネルギー価格 (②天然ガス価格)

- データを見ると、米国の天然ガス価格は、緩やかに上昇する見通し。



※価格は名目価格

出典：「World Economic Outlook Database October 2016」(IMF)

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2016/02/weodata/index.aspx>

出典：「Annual Energy Outlook 2017」(米国EIA)

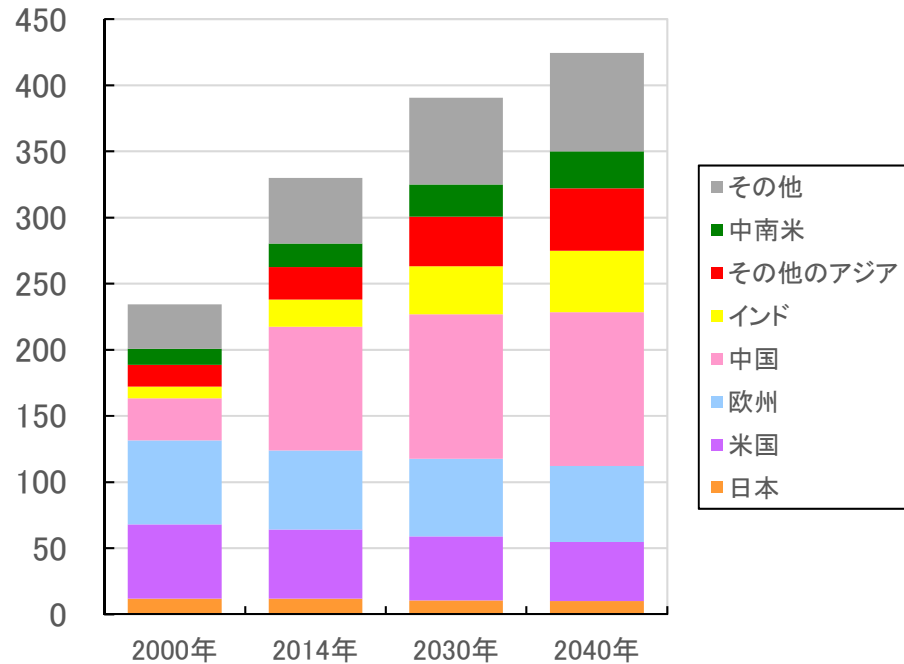
<http://www.eia.gov/beta/aeo/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

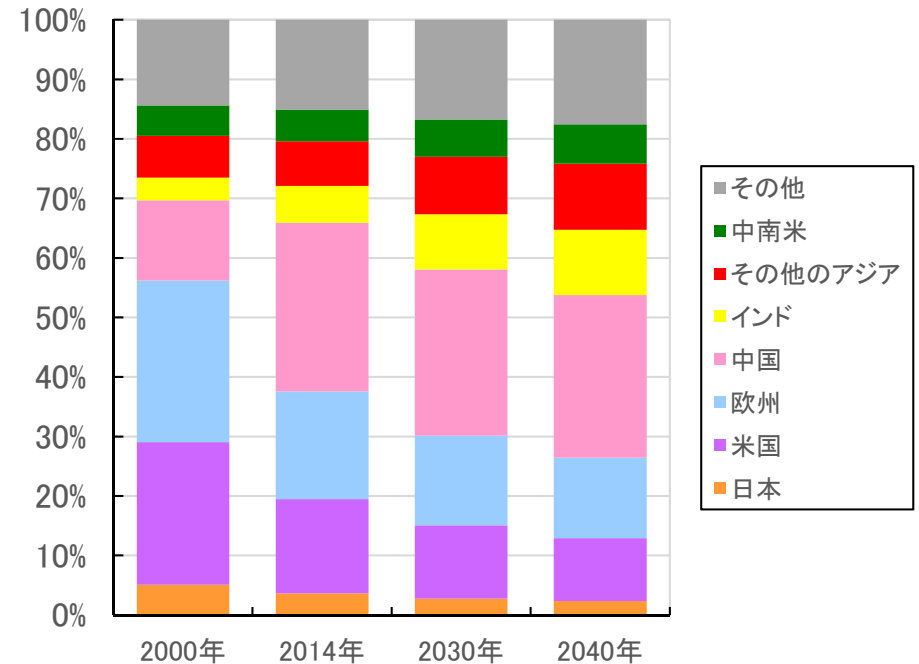
1. (3) CO₂排出量

- データを見ると、CO₂排出量は、中国、インド、その他のアジアを中心に増加する見通し。
- 日本、米国、欧州は、緩やかに減少する見通し。

[億トン] CO₂排出量(地域・国別)



CO₂排出量の構成比(地域・国別)



※予測はレファレンスケース

※CO₂排出量はエネルギー起源の排出量

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」（（一財）日本エネルギー経済研究所（IEEJ））

http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

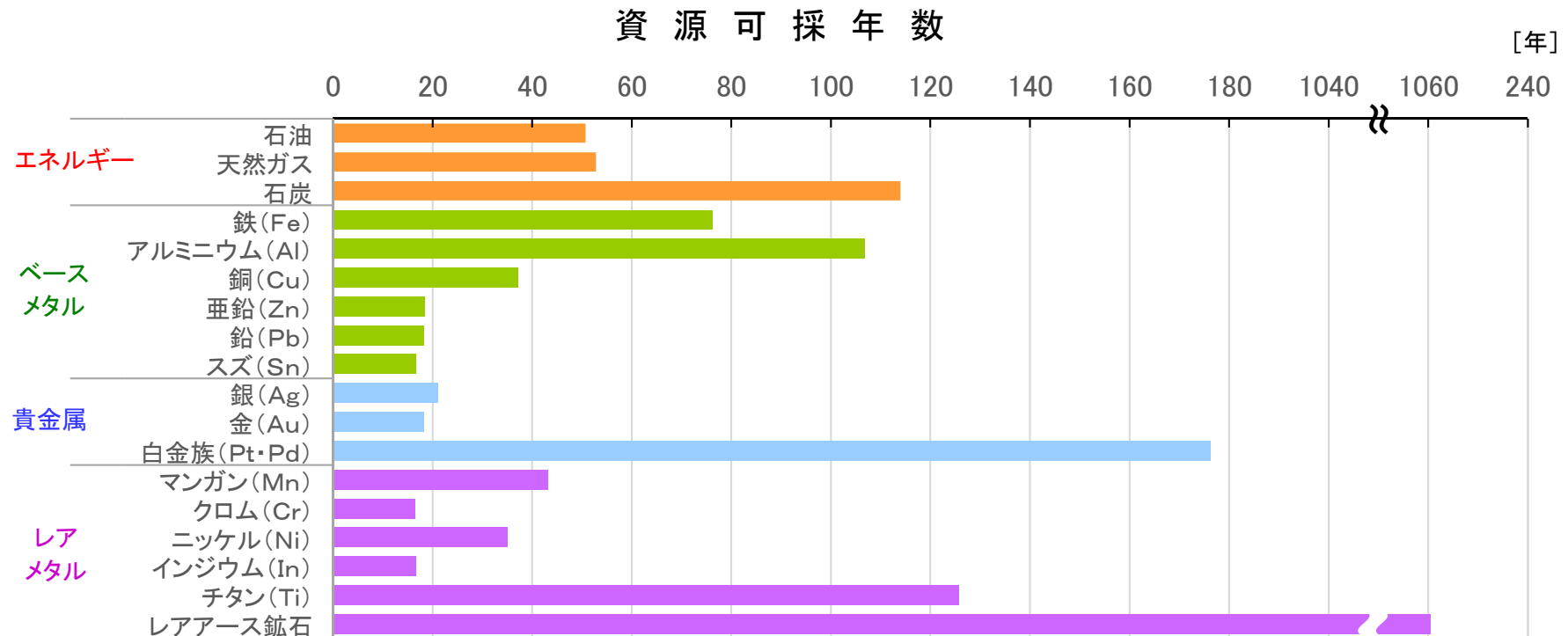
注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

2. 資源トレンド

～ 資源獲得競争の激化 ～

2. (1) 資源の可採年数

- データを見ると、主な資源の可採年数は、ベースメタルでは亜鉛、鉛、スズが、貴金属では金、銀が、レアメタルではクロム、インジウムが、概ね20年未満となっている。



※可採年数 = 確認可採埋蔵量 / 年間生産量

(エネルギー資源は2015年実績に基づき算出、鉱物資源は2016年実績に基づき算出(インジウムの確認可採埋蔵量は2007年実績に基づき算出))

※可採年数は、今後の採掘技術の進歩や消費動向(生産動向)が加味されていないため、それらの変化に伴って変動することに注意を要する

※レアアース鉱石については、各元素が鉱石中に共存し化学的性質が似ており、特定の元素だけを分離・抽出する技術は確立されていないため、レアアース鉱石としての可採年数を掲載している

出典：「Statistical Review of World Energy 2016」(BP)

<http://www.bp.com/en/global/corporate/energy-economics/statistical-review-of-world-energy.html>

出典：「Mineral Commodity Summaries 2017」(USGS)

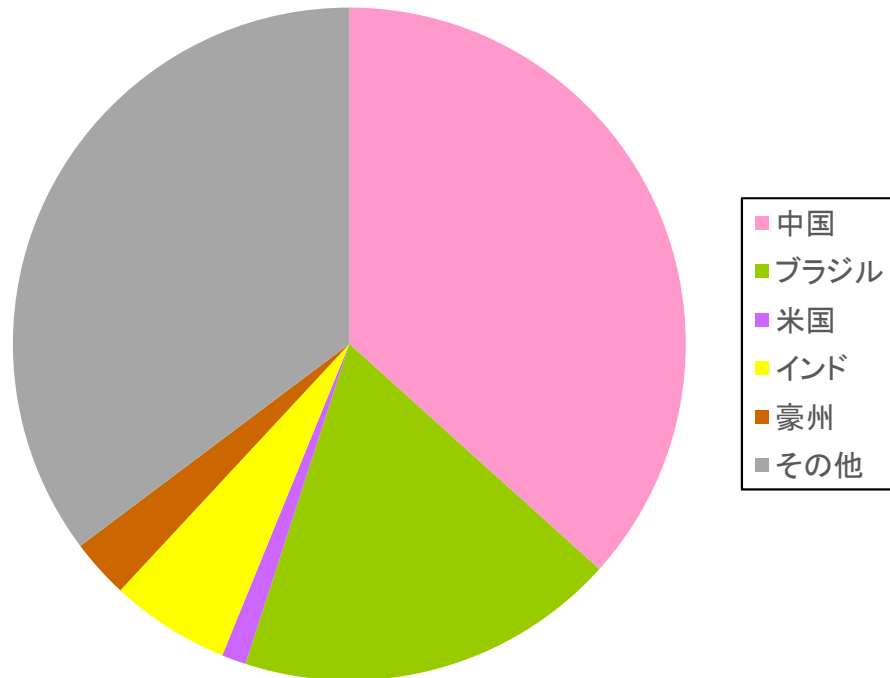
<http://minerals.usgs.gov/minerals/pubs/mcs/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

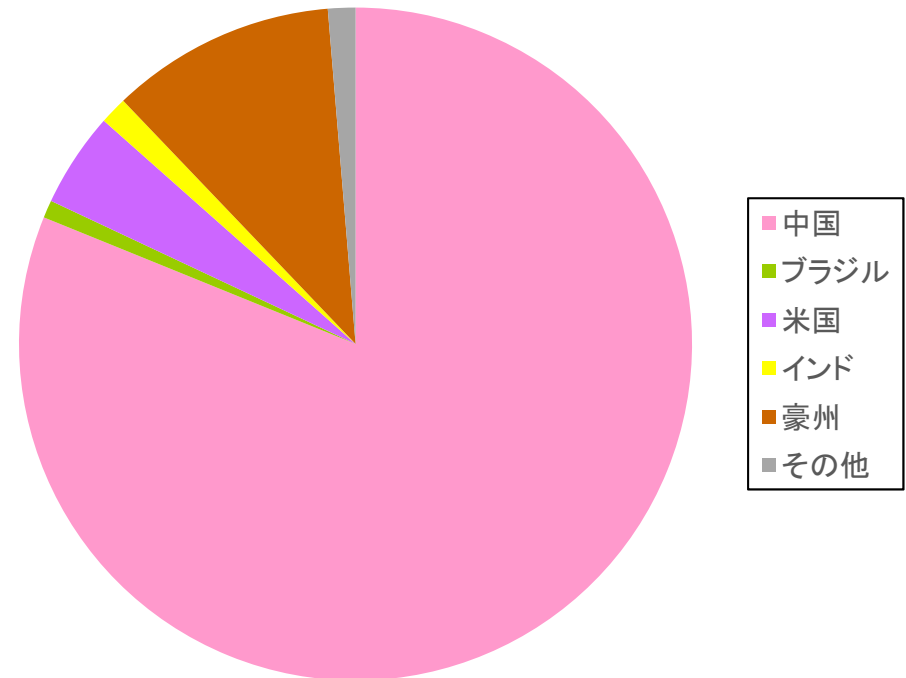
2. (2) レアアース埋蔵量・生産量

- データを見ると、レアアース埋蔵量の構成は、中国が約4割、ブラジルが約2割を占めている。
- レアアース生産量の構成は、中国が約8割を占めている。

レアアース埋蔵量の構成比



レアアース生産量の構成比



※ 2016年実績に基づき算出（アメリカの生産量は2015年実績に基づき算出）

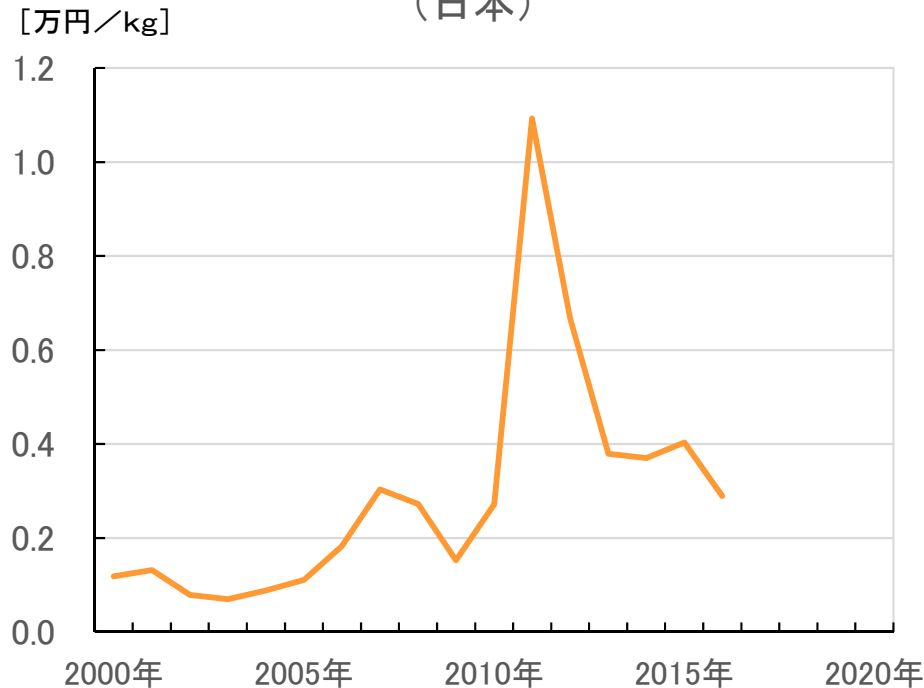
出典：「Mineral Commodity Summaries 2017」（USGS）
<http://minerals.usgs.gov/minerals/pubs/mcs/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

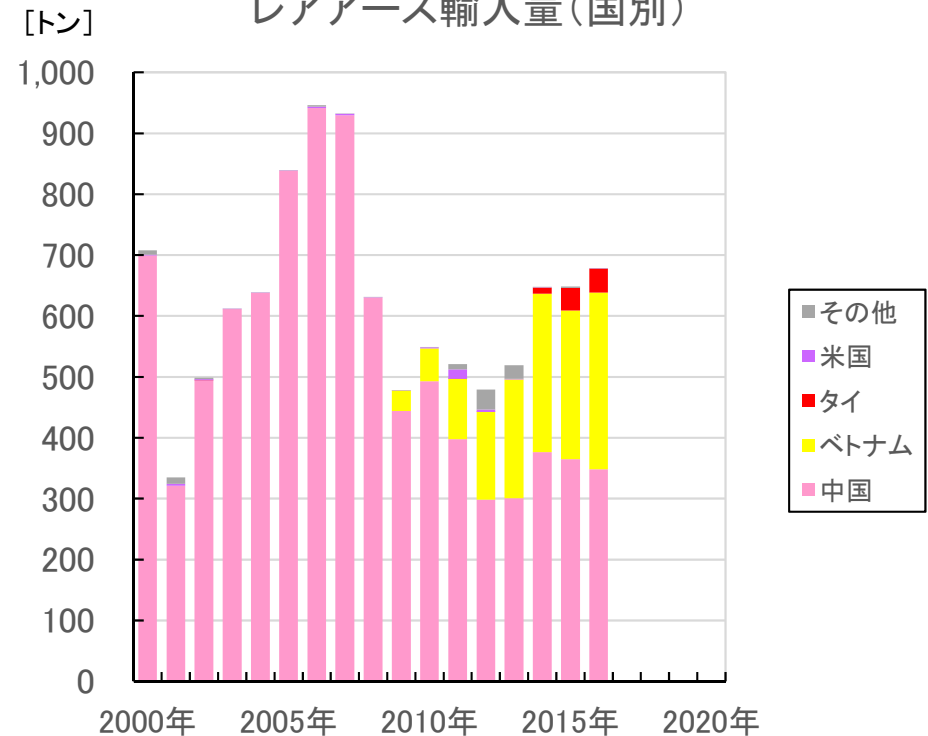
2. (3) レアアース価格

- データを見ると、日本のレアアース輸入価格は、一時、高騰したものの落ちついている。
- 日本のレアアース輸入先は、中国が大部分を占めていたが、ベトナムほかからの輸入割合が増加している。

レアアース輸入価格
(日本)



レアアース輸入量(国別)



※輸入価格は、HSコード：2805.30（希土類金属、スカンジウム及びイットリウム（これらの相互の混合物又は合金にしてあるかないかを問わない。））の輸入額／輸入量により算出

出典：「貿易統計（品別国別表）」（財務省）

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm>

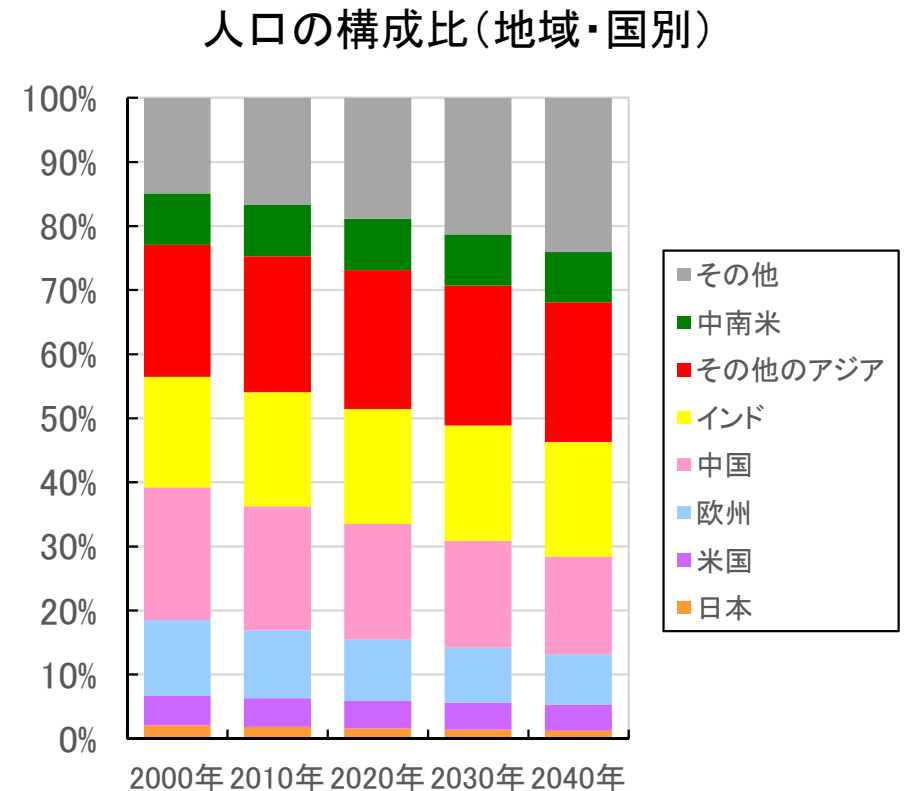
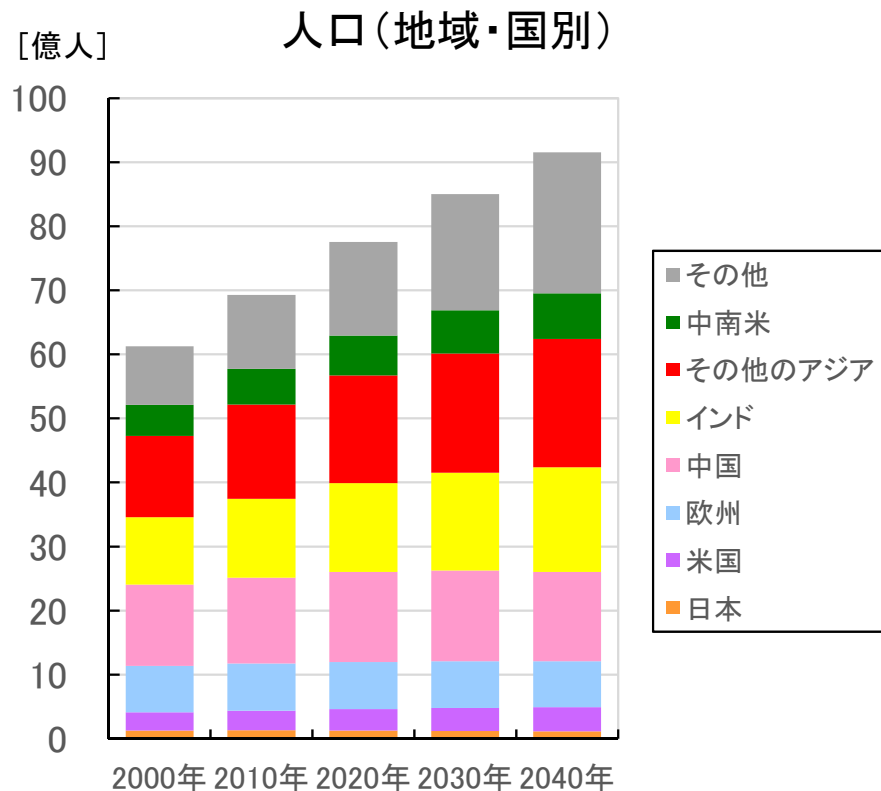
注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

3. 経済トレンド

～ 人口構成や購買力の変化 ～

3. (1) 人口 (①地域・国別)

- データを見ると、世界の人口は、インド、その他のアジアを中心に増加する見通し。
- 中国は、2040年までに減少に転じる見通し。



※予測は中位推計

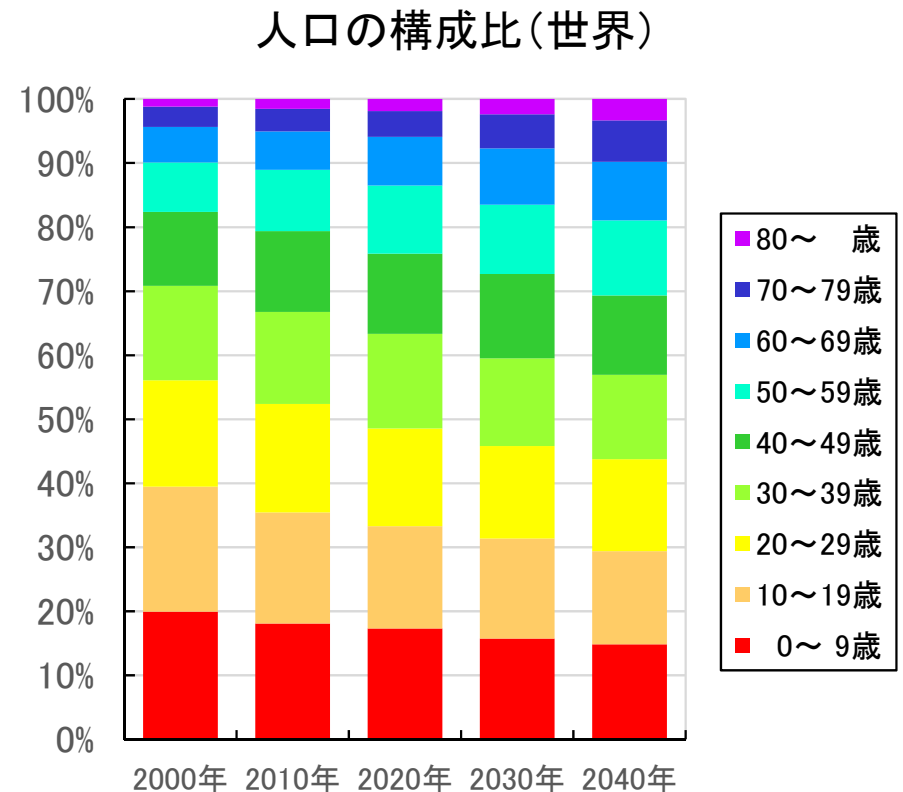
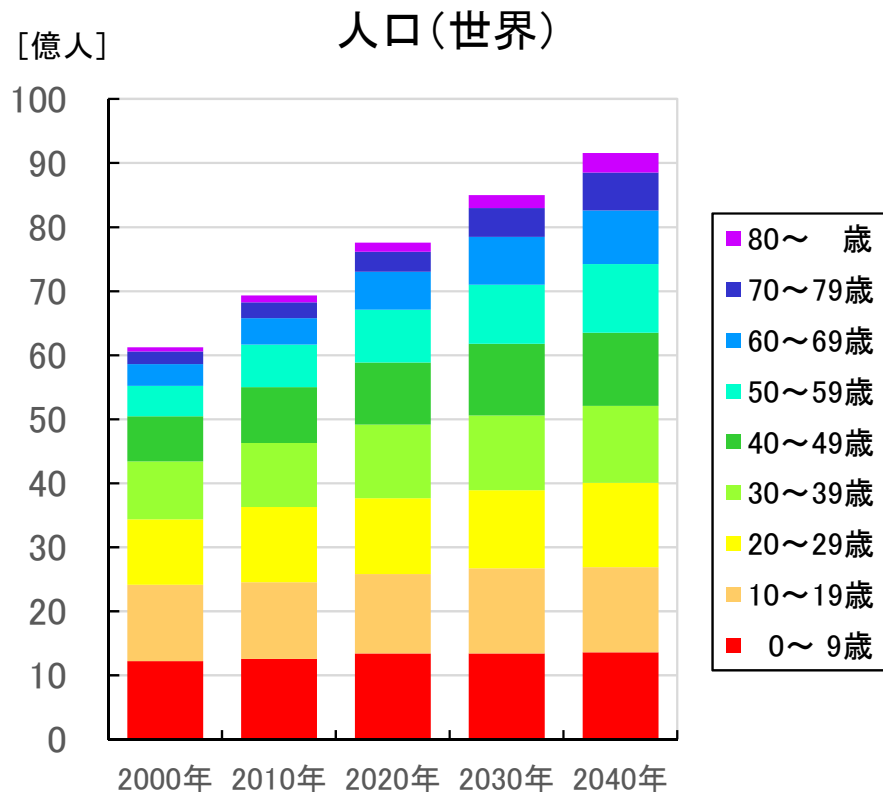
出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

3. (1) 人口 (②世界の年齢別)

- データを見ると、世界の人口の構成比は、2040年には、60歳以上が2割近くになる見通し。



※予測は中位推計

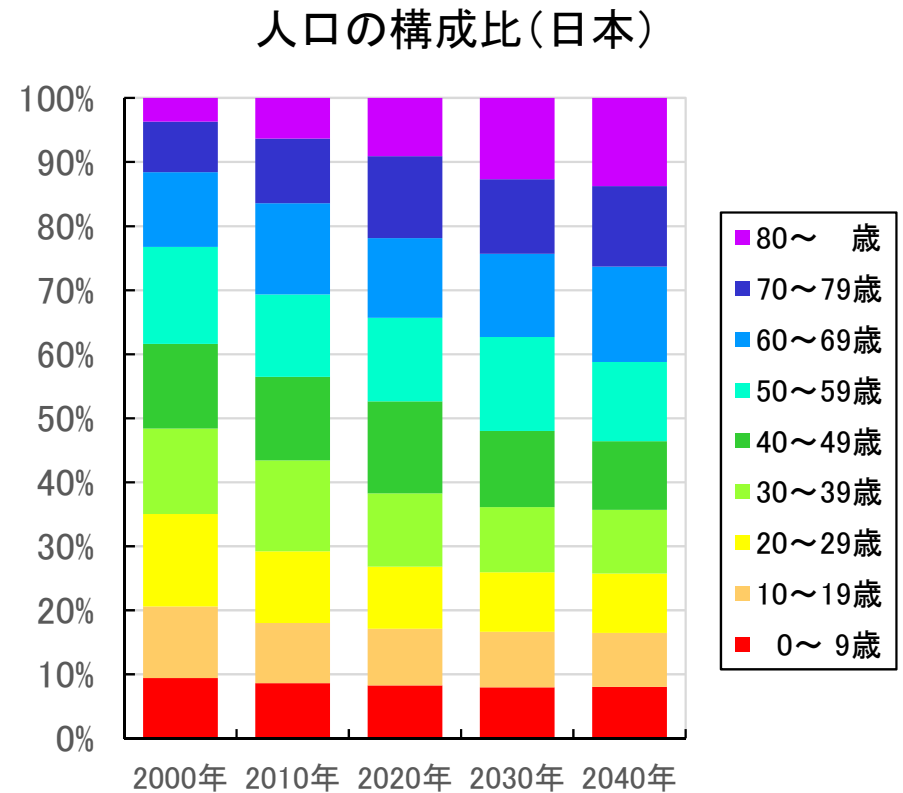
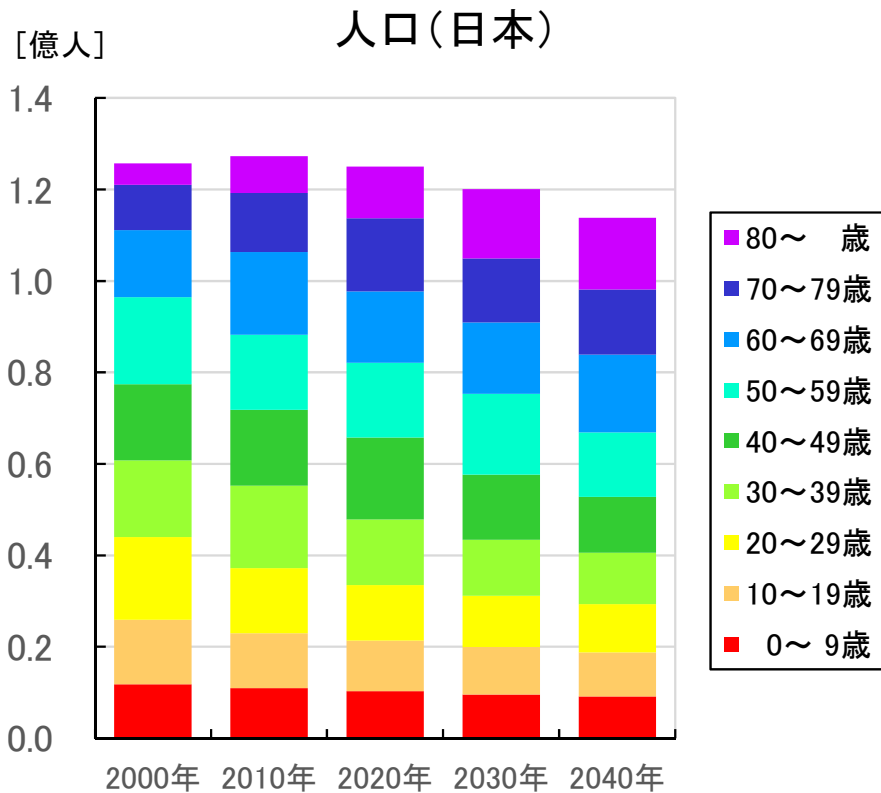
出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

3. (1) 人口 (③日本の年齢別)

- データを見ると、日本の人口は、減少していく見通し。
- 構成比は、2040年には、60歳以上が4割を超える見通し。



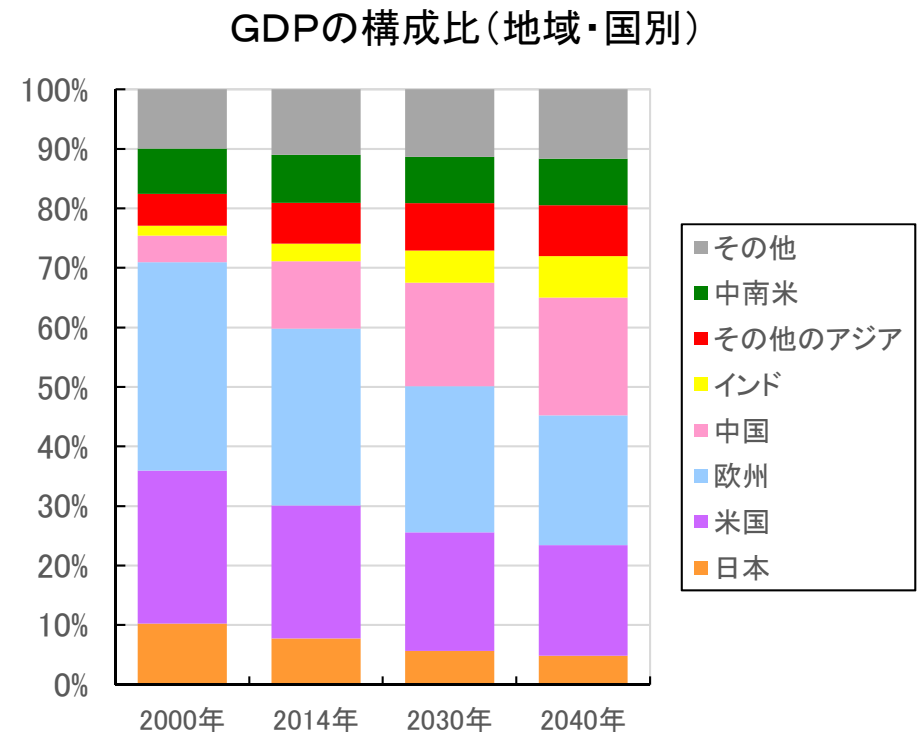
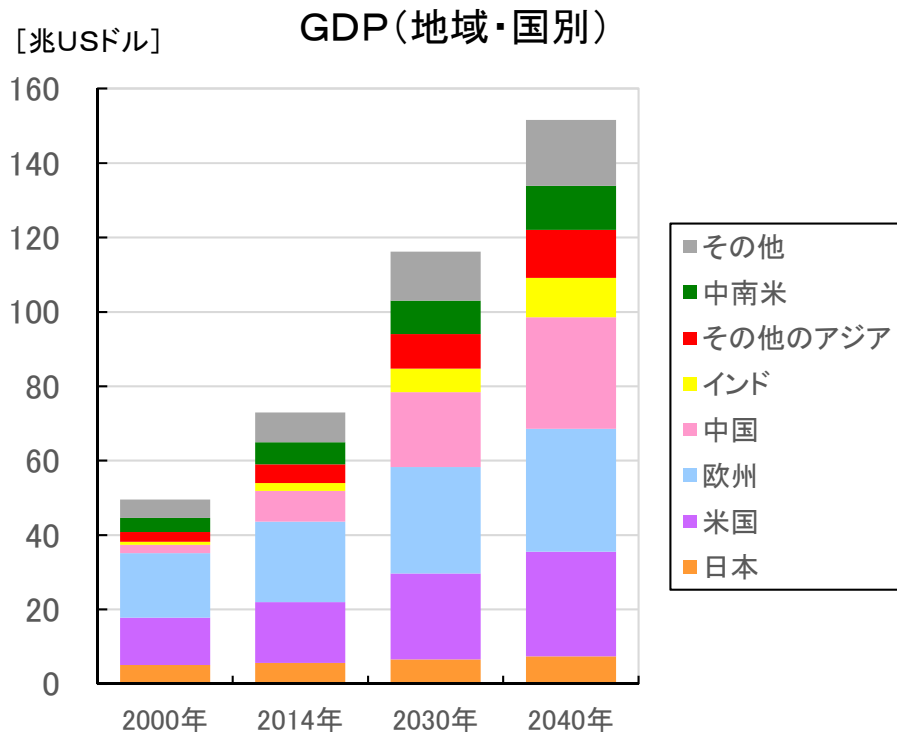
※予測は中位推計
 ※その他の主な地域・国のデータは巻末に掲載

出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)
<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

3. (2) GDP

- データを見ると、世界のGDPは、中国、インド、その他のアジアを中心に増加する見通し。
- 構成比は、2040年には、日本、米国、欧州を除く地域で5割を超える見通し。



※予測はレファレンスケース

※USドルへの換算は2010年の為替レートによる

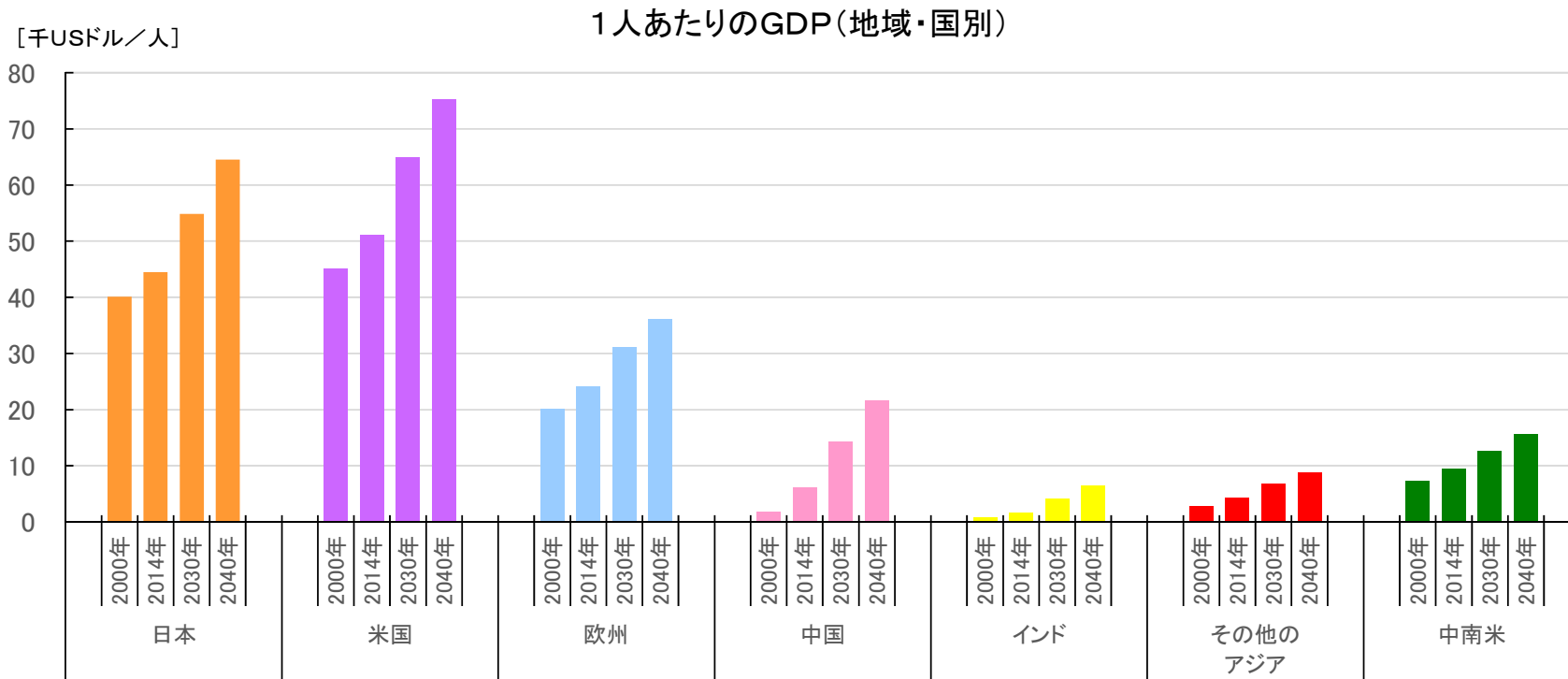
出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」（（一財）日本エネルギー経済研究所（IEEJ））

http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

3. (3) 1人あたりのGDP

- データを見ると、1人あたりのGDPは、中国、インドなどが金額は小さいものの、伸び率は大きい見通し。
- 日本、米国などは金額は大きいものの、伸び率は小さい見通し。



※予測はレファレンスケース

※USドルへの換算は2010年の為替レートによる

出典：「アジア/世界エネルギーアウトック2016」((一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ))

http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注)本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. 市場トレンド（自動車分野）

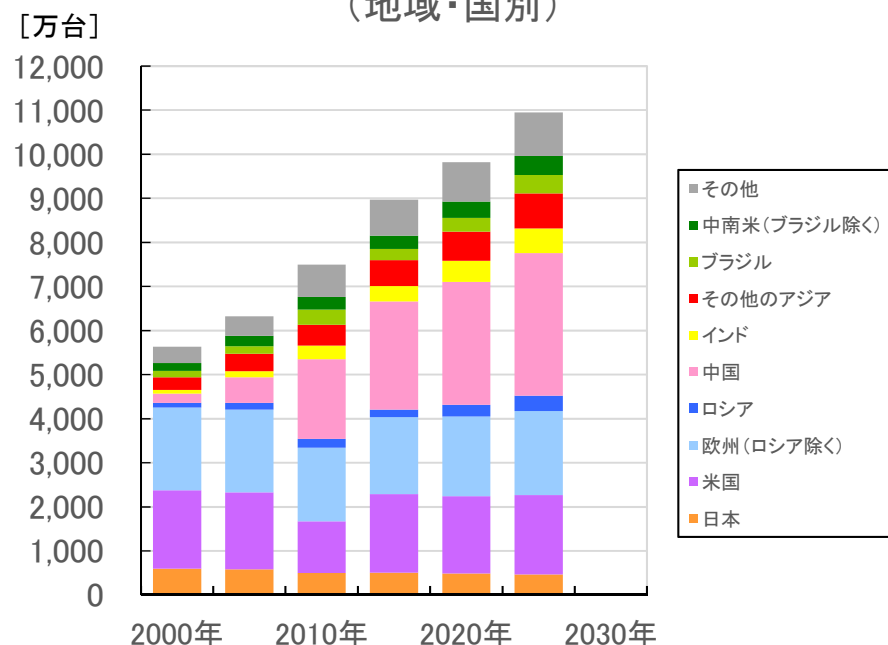
～ 国内市場の電動化の進展と新興国市場の拡大 ～

(※) H V、P H V、E V、F C Vをあわせて「電動自動車」と称している

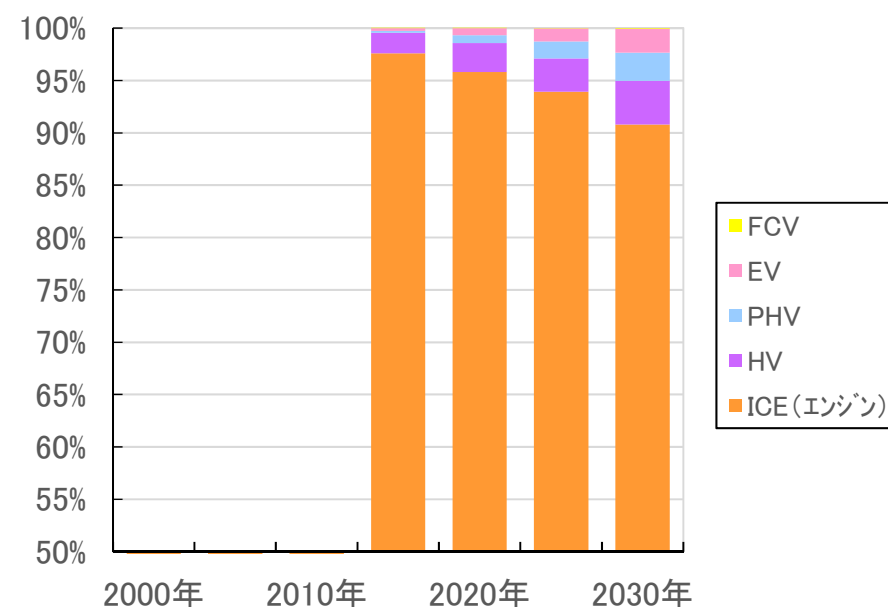
4. (1) 世界の自動車販売台数

- データを見ると、世界の自動車販売台数は、中国を中心に増加する見通し。
- パワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約1割の見通し。

世界の自動車販売台数
(地域・国別)



世界の自動車販売台数の
構成比(パワートレイン別)



※パワートレイン別の構成比については、2010年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成

<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

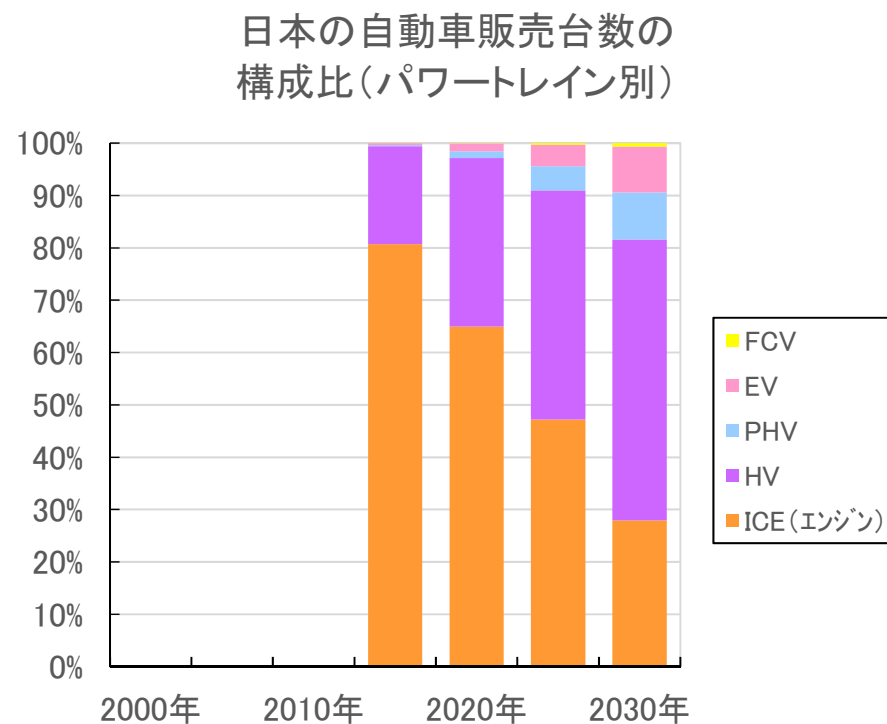
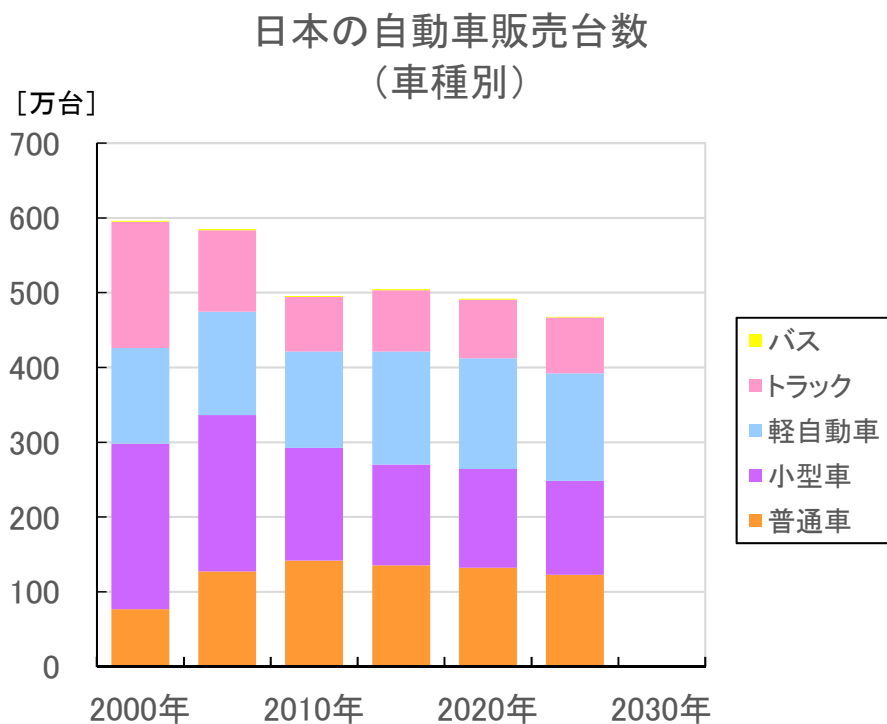
出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成

<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (2) 日本の自動車販売台数

- データを見ると、日本の自動車販売台数は、長期的には減少する見通し。
- パワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約7割まで増加する見通し。



※パワートレイン別の構成比については、2010年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成

<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成

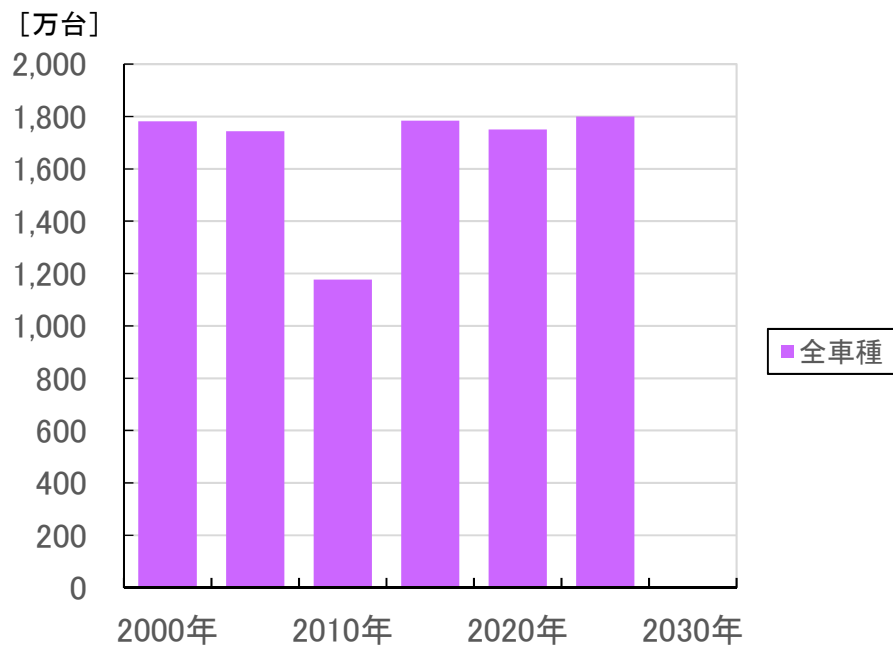
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

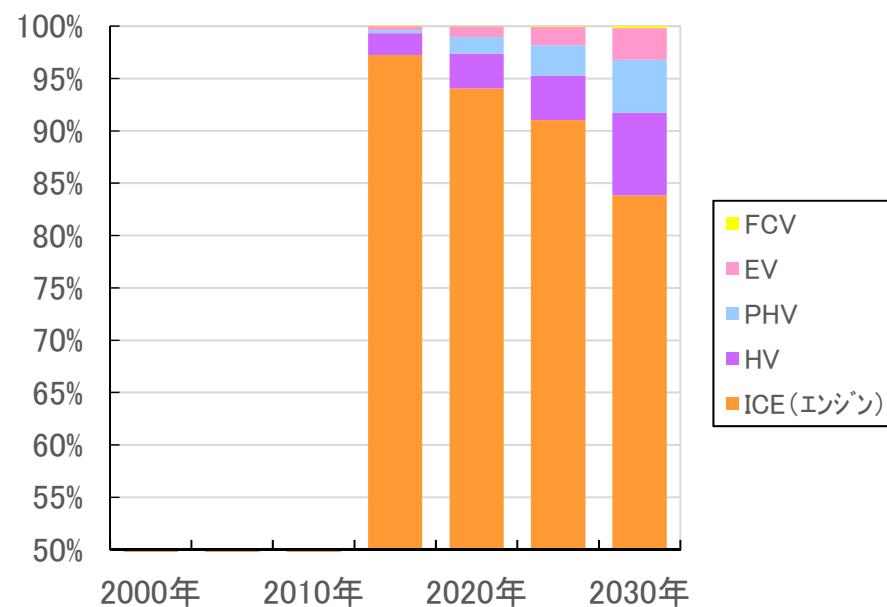
4. (3) 米国の自動車販売台数

- データを見ると、米国の自動車販売台数は、横ばいで推移する見通し。
- パワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は1割強の見通し。

米国の自動車販売台数



北米の自動車販売台数の
構成比(パワートレイン別)



※パワートレイン別の構成比については、2010年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成

<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

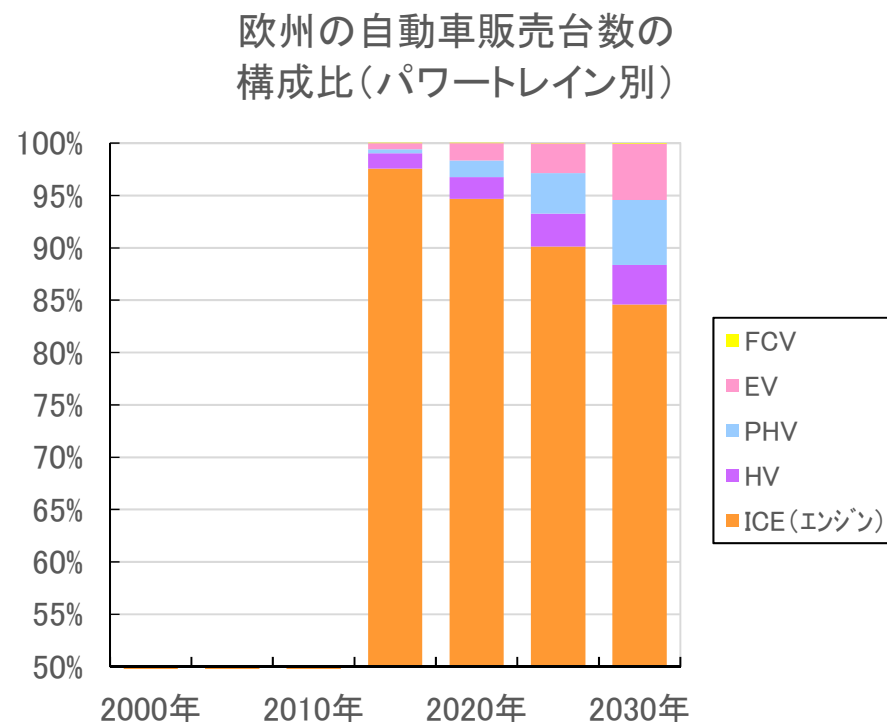
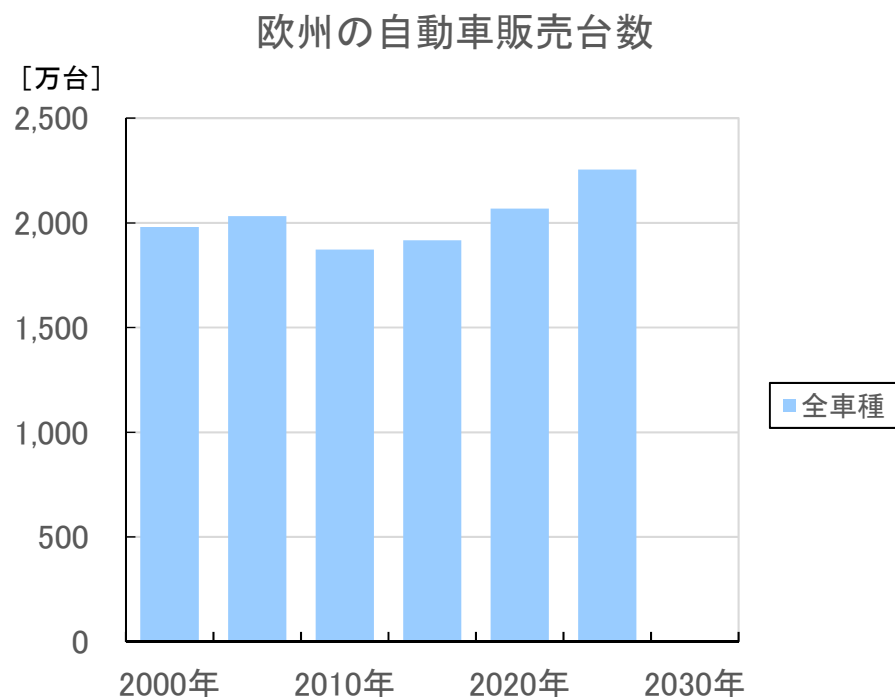
出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成

<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (4) 欧州の自動車販売台数

- データを見ると、欧州の自動車販売台数は、一時、減少したものの、緩やかに増加する見通し。
- パワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は1割強の見通し。



※パワートレイン別の構成比については、2010年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成

<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

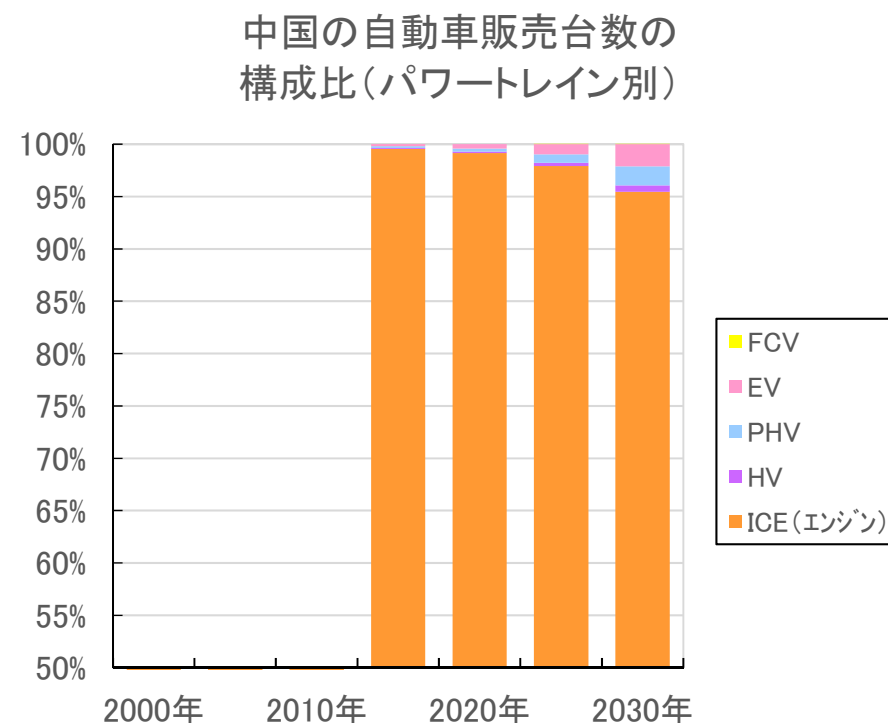
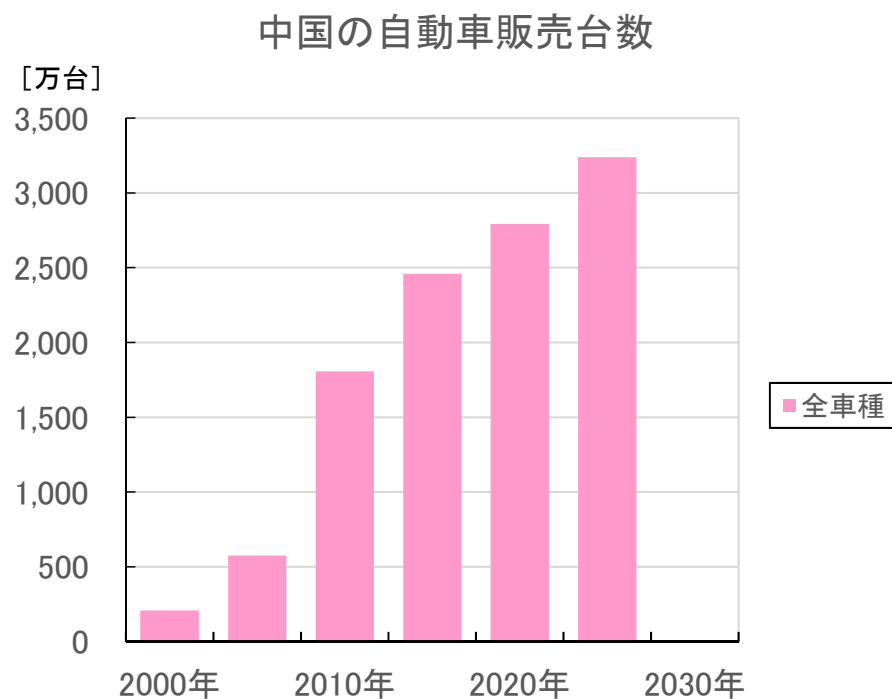
出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成

<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (5) 中国の自動車販売台数

- データを見ると、中国の自動車販売台数は、大幅に増加する見通し。
- パワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約5%の見通し。



※パワートレイン別の構成比については、2010年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成

<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

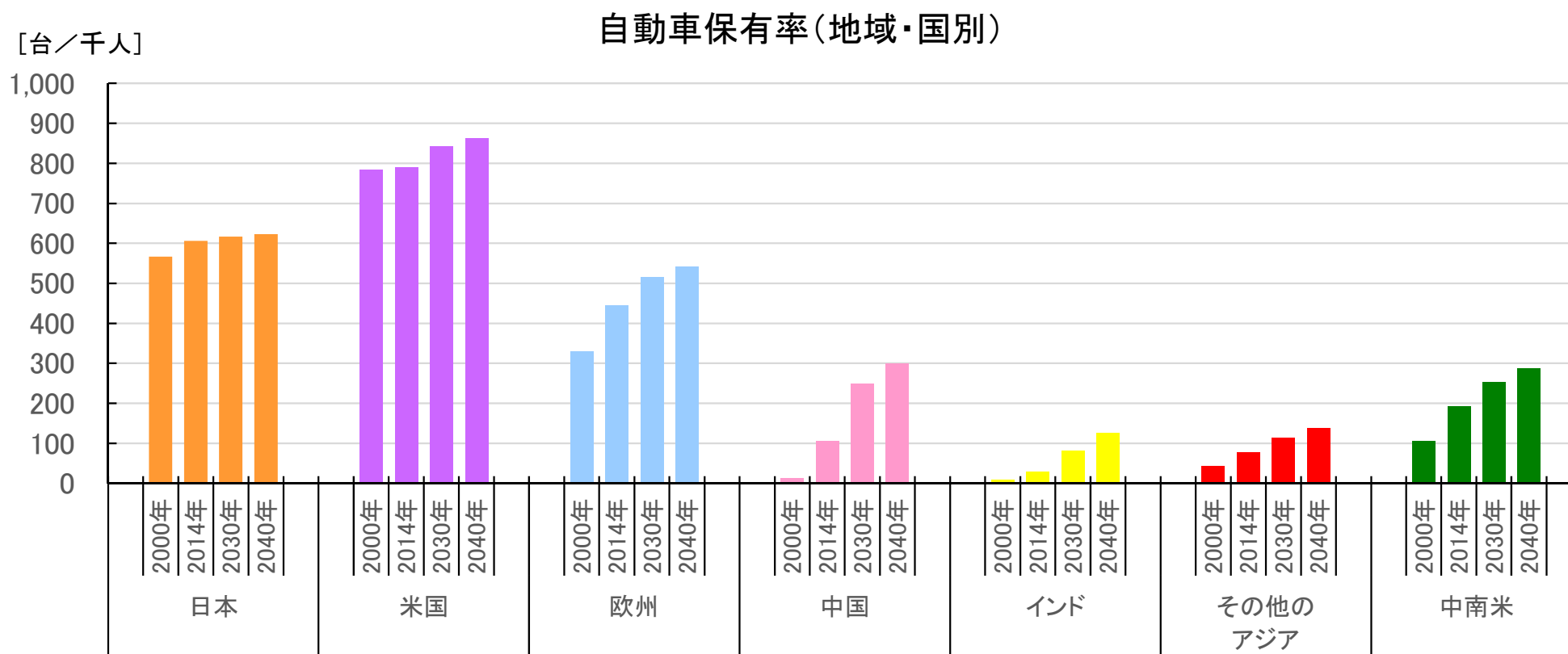
出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成

<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (6) 自動車保有率

- データを見ると、自動車の保有率は、日本は横ばいで推移し、米国、欧州は、増加する見通し。
- 中国、インド、その他のアジア、中南米は、増加し、伸び率も大きい見通し。



※予測はレファレンスケース

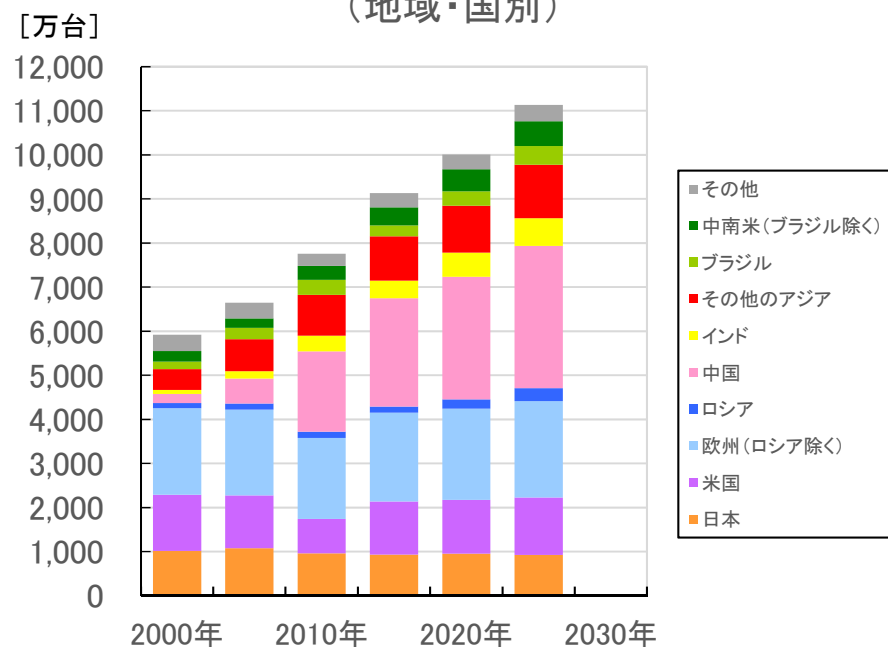
出典：「アジア/世界エネルギーアウトック2016」((一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ))
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりとまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

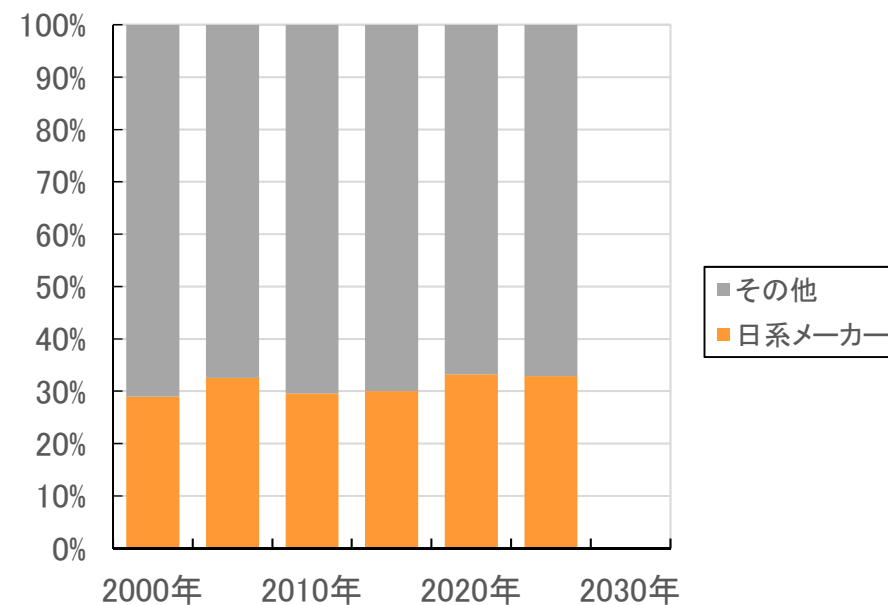
4. (7) 世界の自動車生産台数

- データを見ると、世界の自動車生産台数は、中国、インド、その他のアジアを中心に増加する見通し。
- 日系メーカーのシェアは、横ばいで推移する見通し。

世界の自動車生産台数
(地域・国別)



世界の自動車生産台数の
シェア(メーカー別)



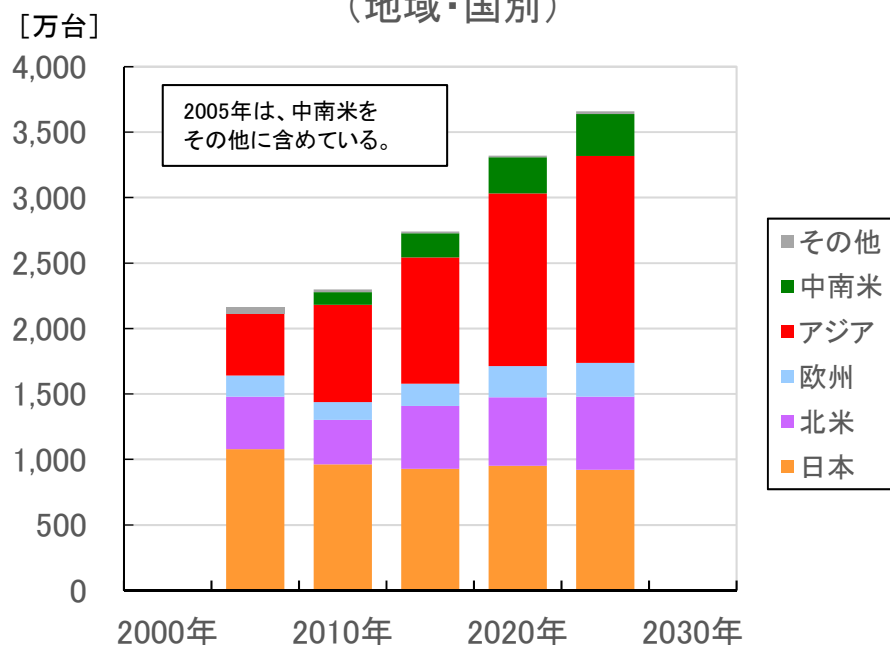
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

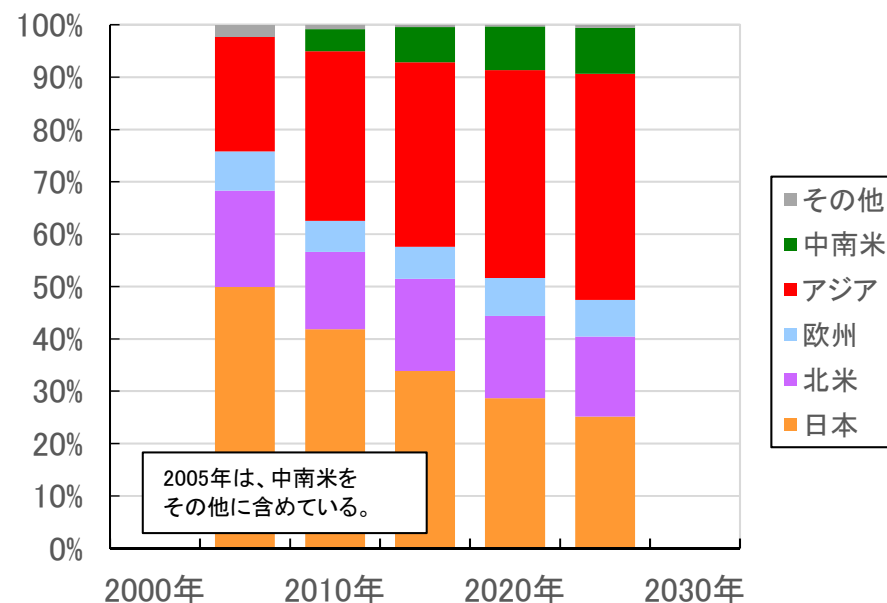
4. (8) 日系メーカーの自動車生産台数

- データを見ると、日系メーカーの自動車生産台数は、アジア、中南米を中心に増加する見通し。
- 国内生産比率は、2025年時点で、約25%まで減少する見通し。

日系メーカーの自動車生産台数
(地域・国別)



日系メーカーの自動車生産台数の
構成比(地域・国別)



※ 2000年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシー)を参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

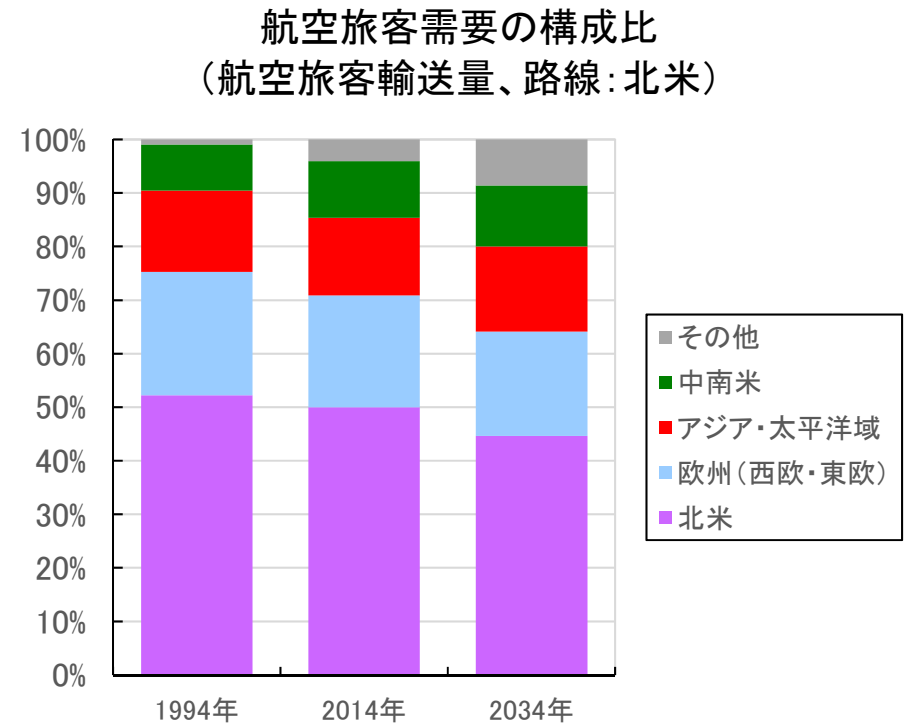
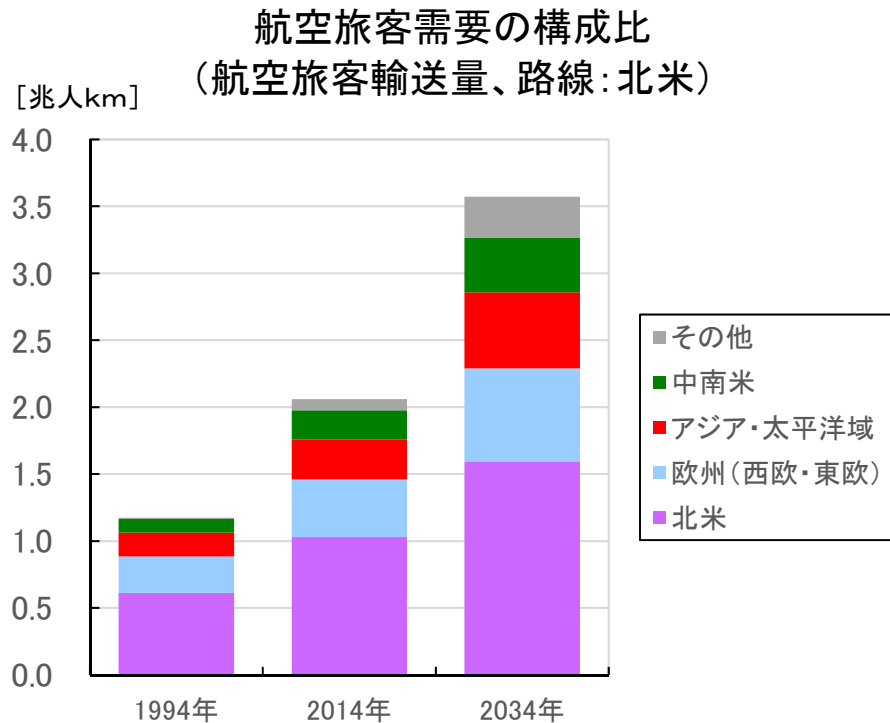
注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. 市場トレンド（航空機分野）

～ 航空旅客の増加に伴う航空機需要の急拡大 ～

5. (1) 航空旅客需要 (①路線：北米)

- データを見ると、北米路線の航空旅客需要は、20年後には、約1.7倍に増加する見通し。
- 域内、欧州間よりも、アジア・太平洋域間、中南米間の方が大きく増加する見通し。



※欧州は西欧・東欧のみ（C I Sは含まない）

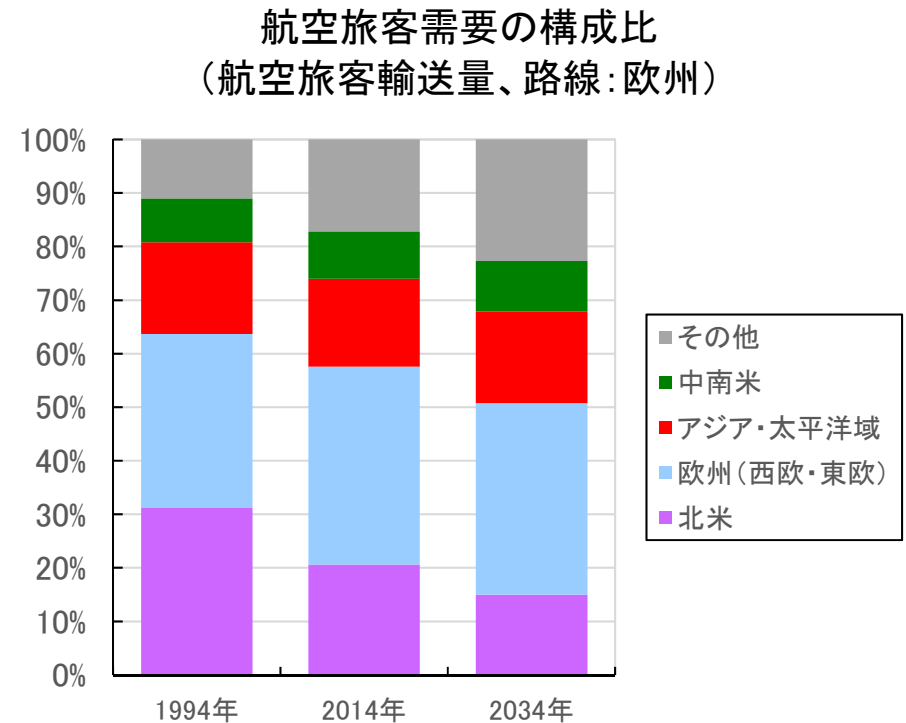
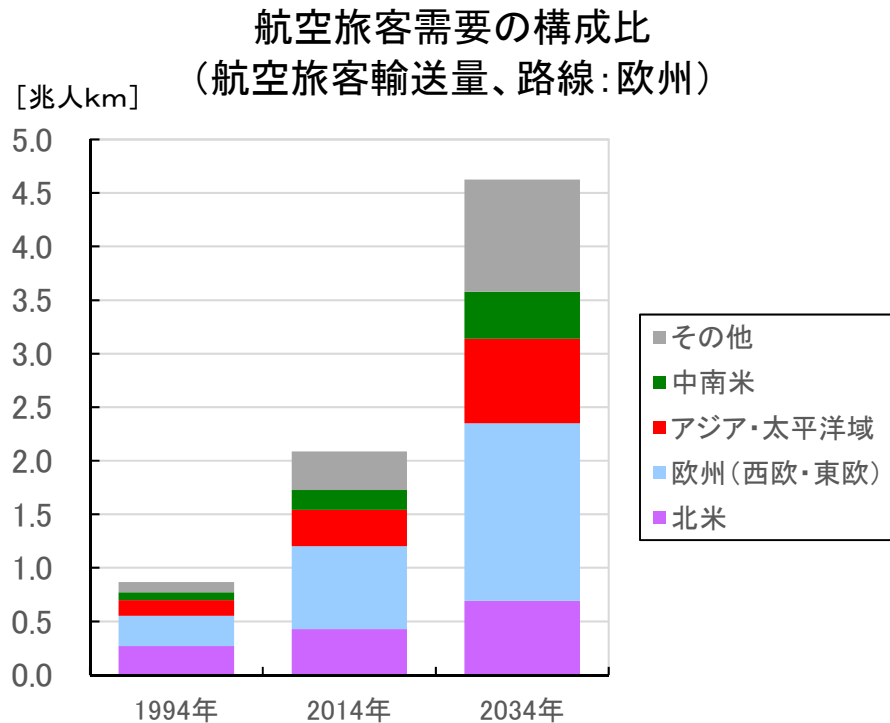
出典：「民間航空機に関する市場予測2015-2034」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. (1) 航空旅客需要 (②路線：欧州)

- データを見ると、欧州路線の航空旅客需要は、20年後には、約2.2倍に増加する見通し。
- 域内、北米間よりも、アジア・太平洋域間、中南米間の方が大きく増加する見通し。



※欧州は西欧・東欧のみ（C I Sは含まない）

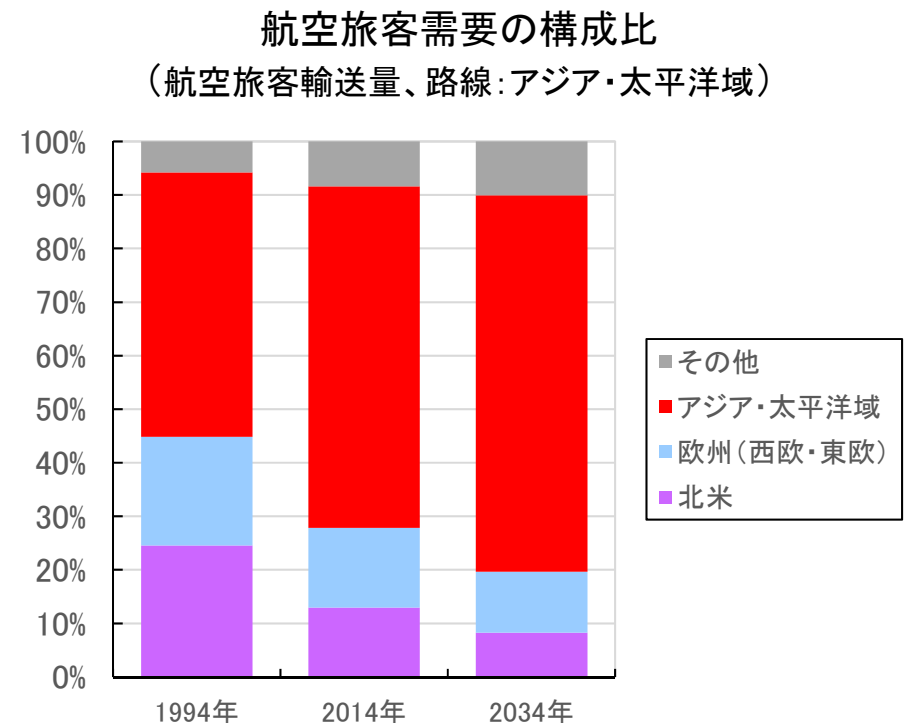
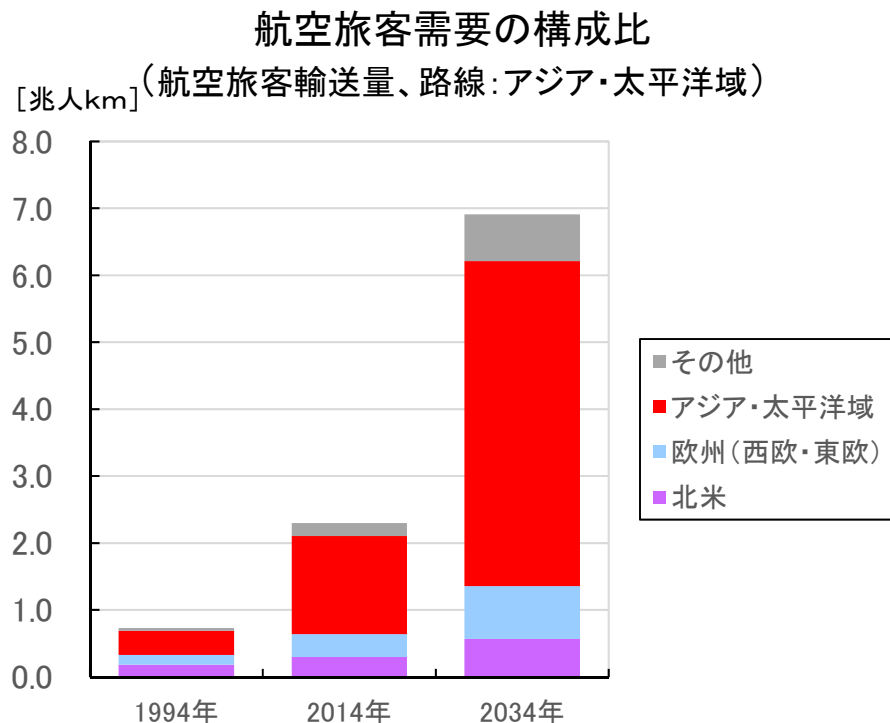
出典：「民間航空機に関する市場予測2015-2034」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. (1) 航空旅客需要 (③路線：アジア・太平洋域)

- データを見ると、アジア・太平洋域路線の航空旅客需要は、20年後には、約3倍に増加する見通し。
- 特に、域内が大きく増加する見通し。



※欧州は西欧・東欧のみ（C I Sは含まない）

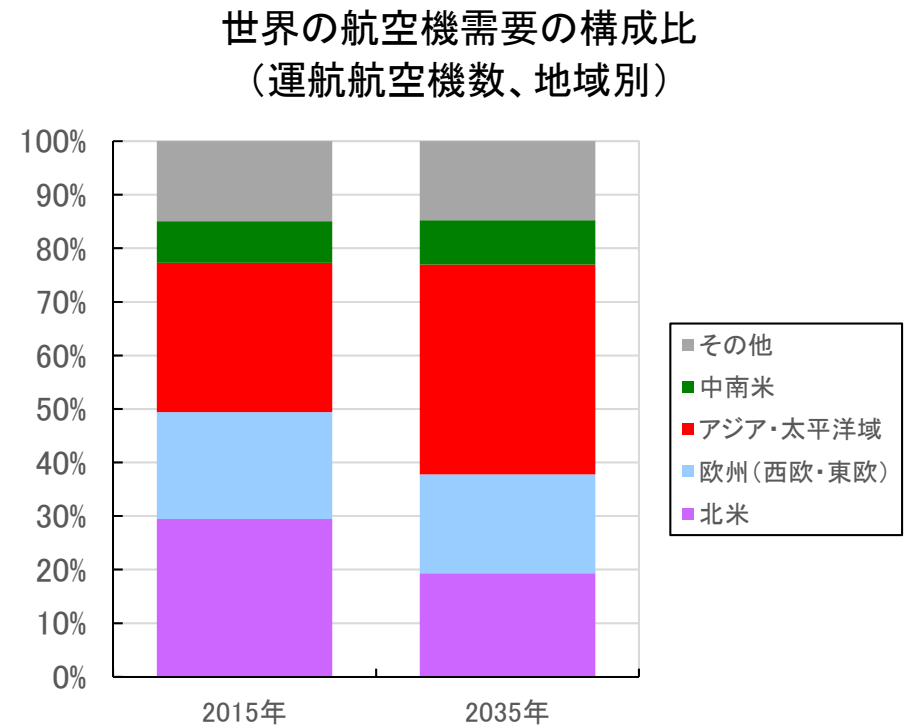
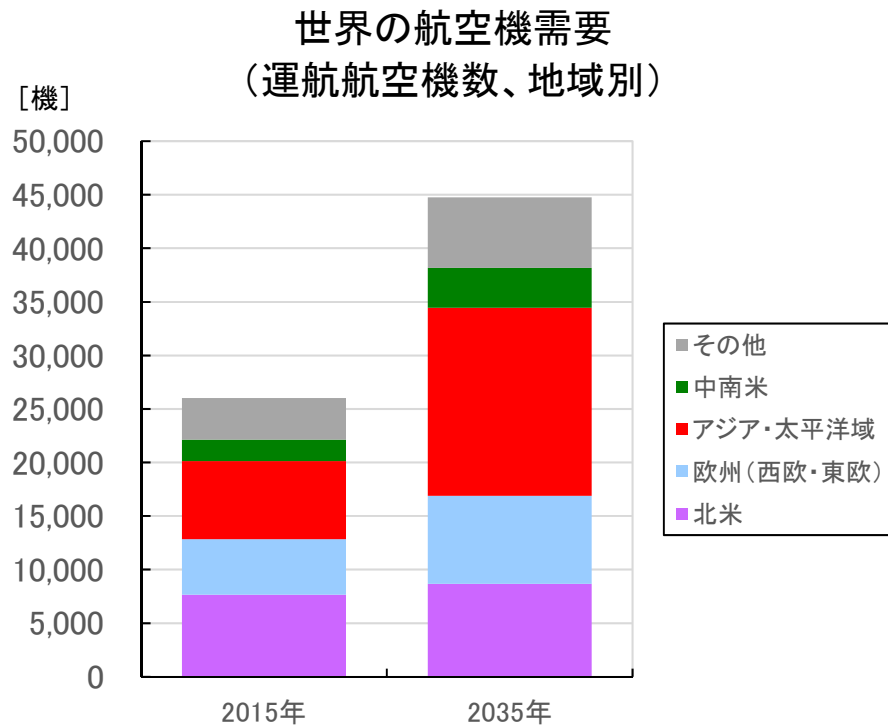
出典：「民間航空機に関する市場予測2015-2034」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. (2) 世界の航空機需要 (①地域別)

- データを見ると、世界の航空機需要は、アジア・太平洋域を中心に増加する見通し。
- 構成比は、20年後には、アジア・太平洋域が約4割を占める見通し。



※欧州は西欧・東欧のみ（C I Sは含まない）

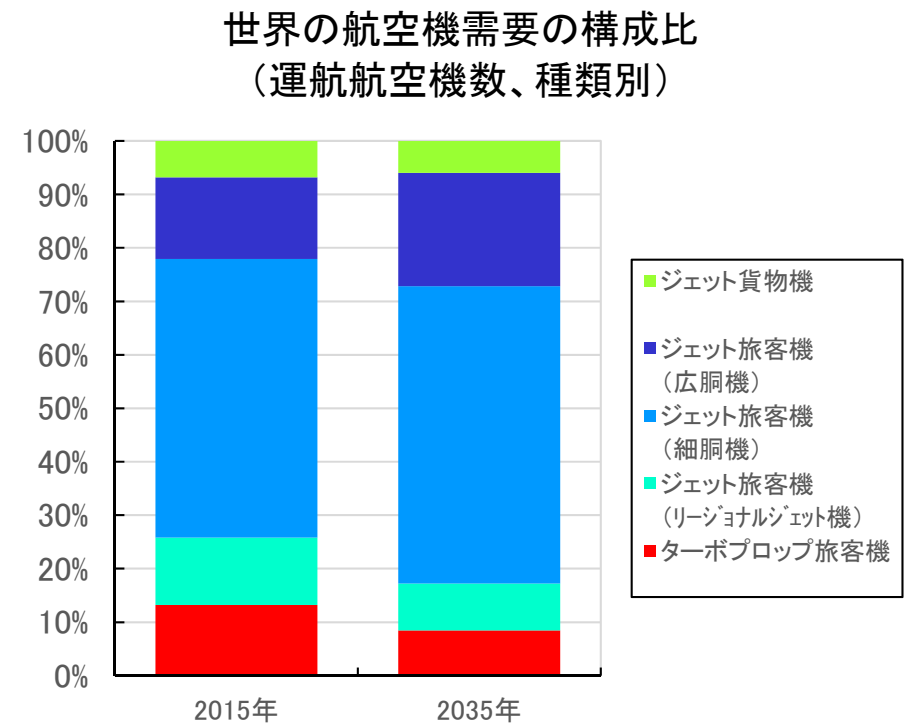
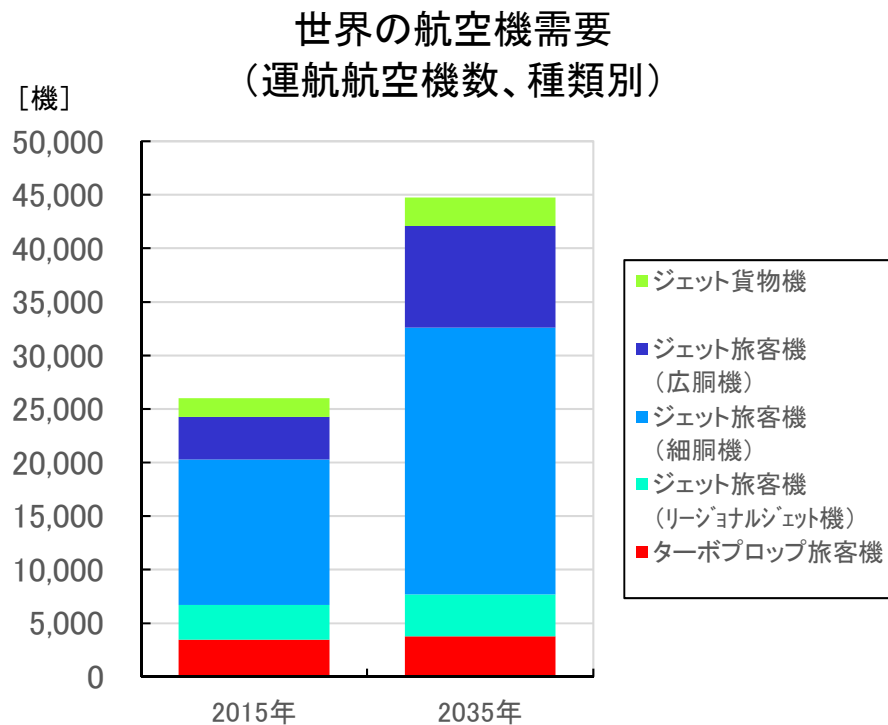
出典：「民間航空機に関する市場予測2016-2035」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. (2) 世界の航空機需要 (②種類別)

- データを見ると、世界の航空機需要は、20年後には、約1.7倍に増加する見通し。
- ジェット旅客機（細胴機）、ジェット旅客機（広胴機）を中心に増加する見通し。



※「リージョナルジェット機」：～99席、「細胴機」：100席～229席、「広胴機」：230席～

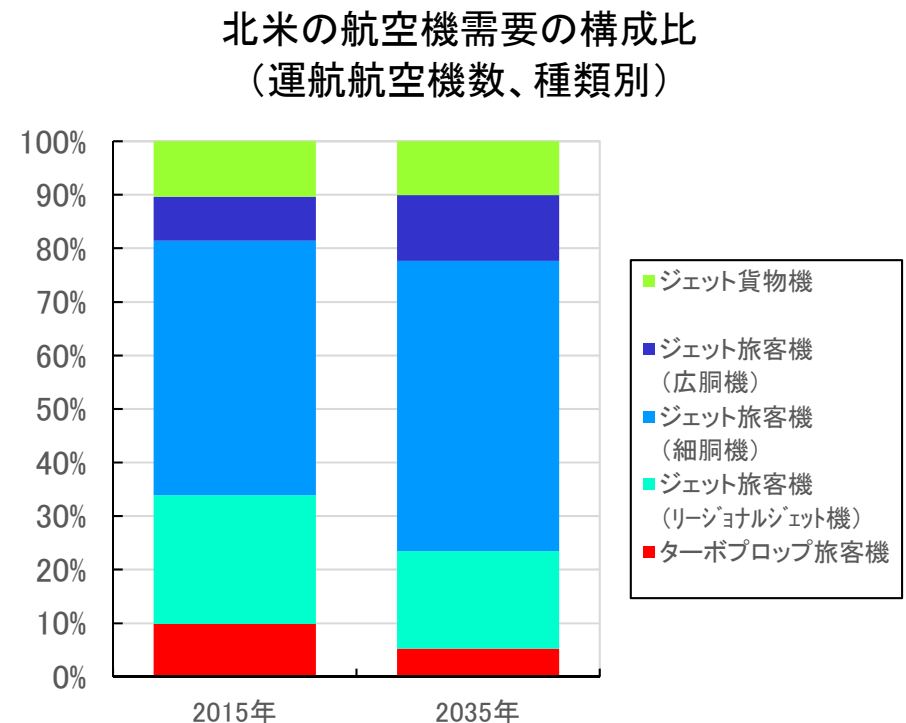
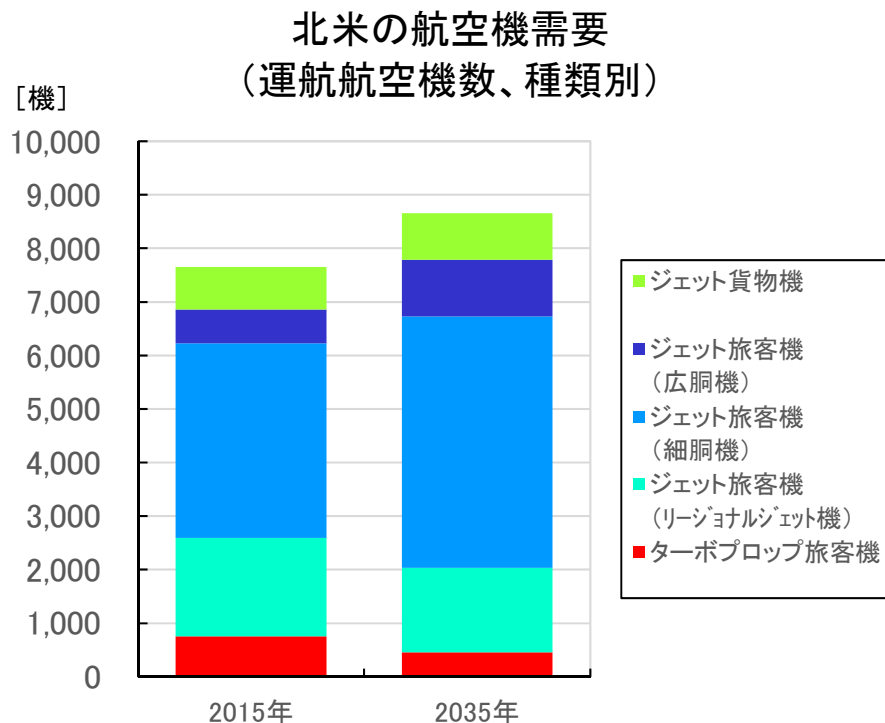
出典：「民間航空機に関する市場予測2016～2035」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

5. (3) 北米の航空機需要 (種類別)

- データを見ると、北米の航空機需要は、20年後には、約1.1倍に増加する見通し。
- ジェット旅客機（細胴機）、ジェット旅客機（広胴機）を中心に増加する見通し。



※「リージョナルジェット機」：～99席、「細胴機」：100席～229席、「広胴機」：230席～

出典：「民間航空機に関する市場予測2016～2035」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

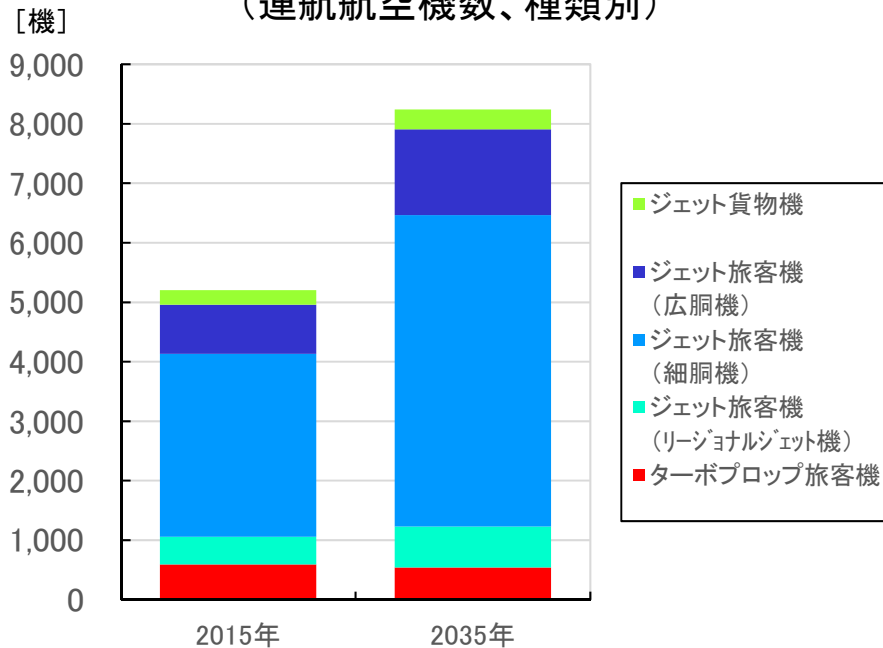
<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

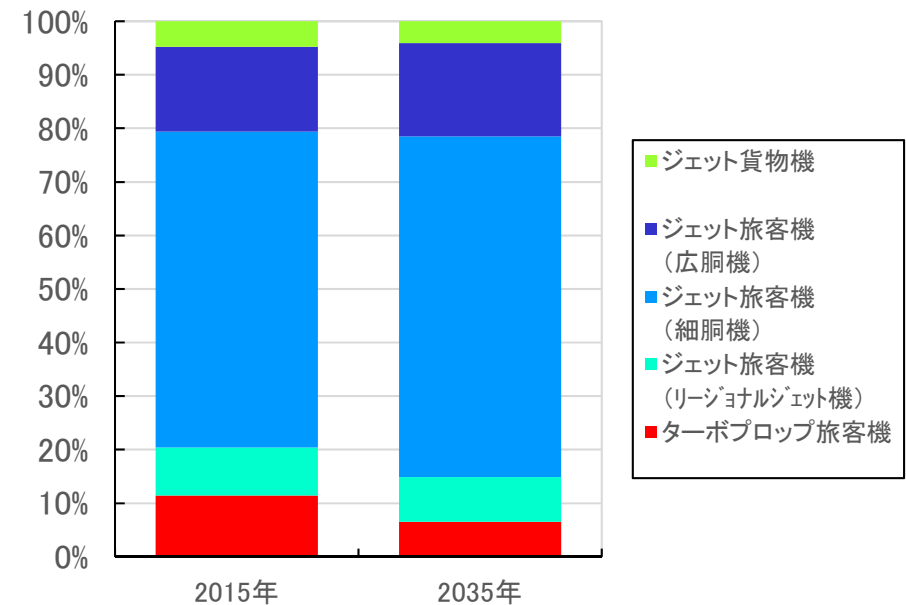
5. (3) 欧州の航空機需要 (種類別)

- データを見ると、欧州の航空機需要は、20年後には、約1.6倍に増加する見通し。
- ジェット旅客機 (細胴機)、ジェット旅客機 (広胴機) を中心に増加する見通し。

欧州の航空機需要
(運航航空機数、種類別)



欧州の航空機需要の構成比
(運航航空機数、種類別)



※欧州は西欧・東欧のみ (C I Sは含まない)

※「リージョナルジェット機」: ~99席、「細胴機」: 100席~229席、「広胴機」: 230席~

出典: 「民間航空機に関する市場予測2016-2035」(一財)日本航空機開発協会(JADC)

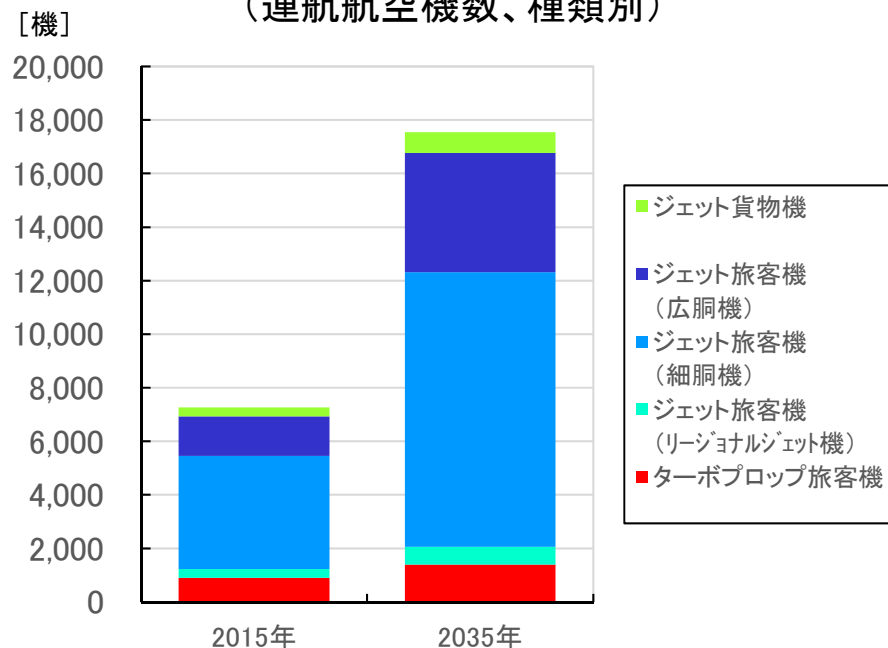
<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

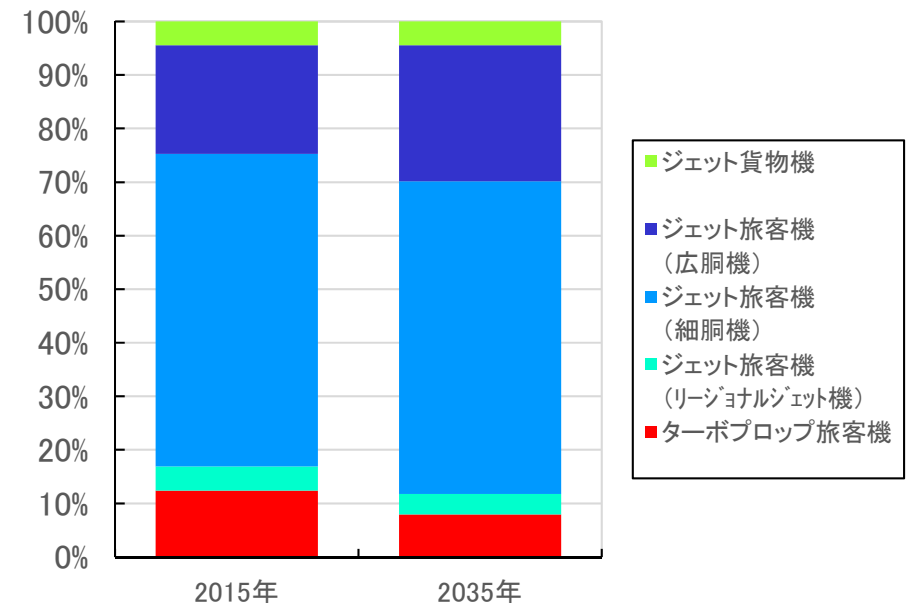
5. (3) アジア・太平洋地域の航空機需要 (種類別)

- データを見ると、アジア・太平洋地域の航空機需要は、20年後には、約2.4倍に増加する見通し。
- ジェット旅客機 (細胴機)、ジェット旅客機 (広胴機) を中心に増加する見通し。

アジア・太平洋地域の航空機需要
(運航航空機数、種類別)



アジア・太平洋地域の航空機需要の構成比
(運航航空機数、種類別)



※「リージョナルジェット機」：～99席、「細胴機」：100席～229席、「広胴機」：230席～

出典：「民間航空機に関する市場予測2016-2035」（（一財）日本航空機開発協会（JADC））

<http://www.jadc.jp/data/forecast/>

注）本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

6. 市場トレンド（産業用ロボット分野）

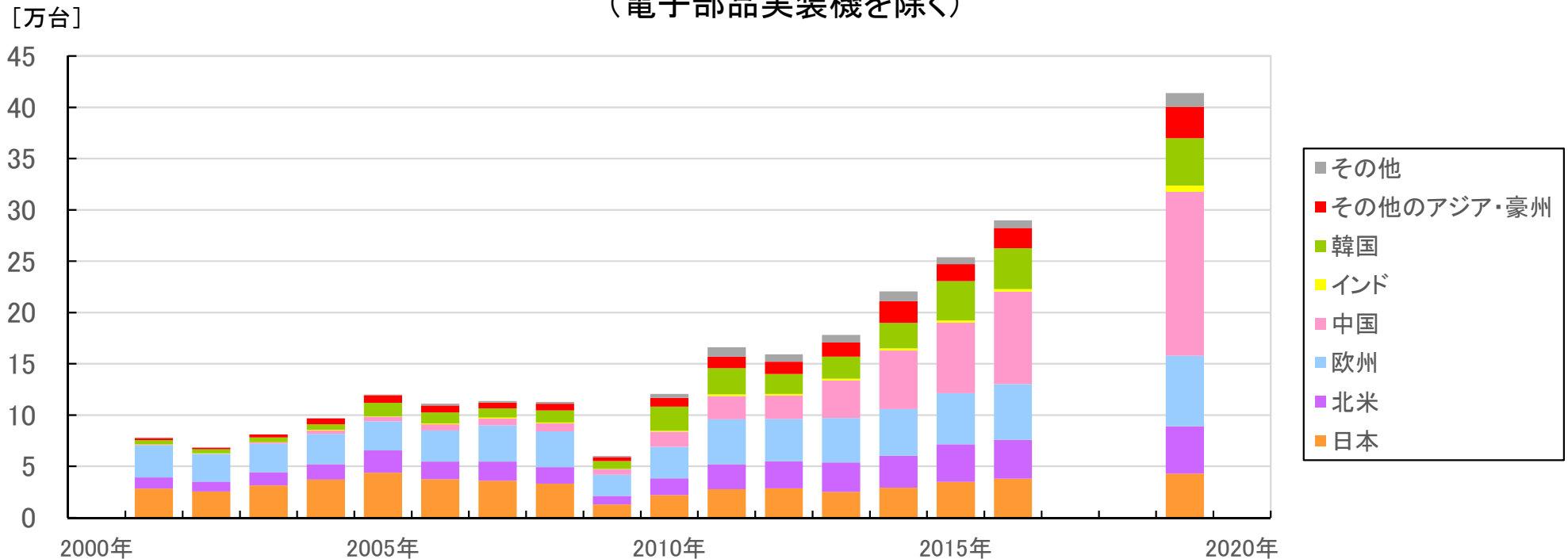
～ 新興国における導入拡大に伴う生産の自動化の進展 ～

（※）産業用ロボット・・・生産環境にて使用されるロボット

6. (1) 世界の産業用ロボット販売台数 (①地域・国別の台数)

- データを見ると、世界の産業用ロボット販売台数は、増加し、2019年には40万台以上となる見通し。

世界の産業用ロボット販売台数(地域・国別)
(電子部品実装機を除く)



※ 2000年は表示していない

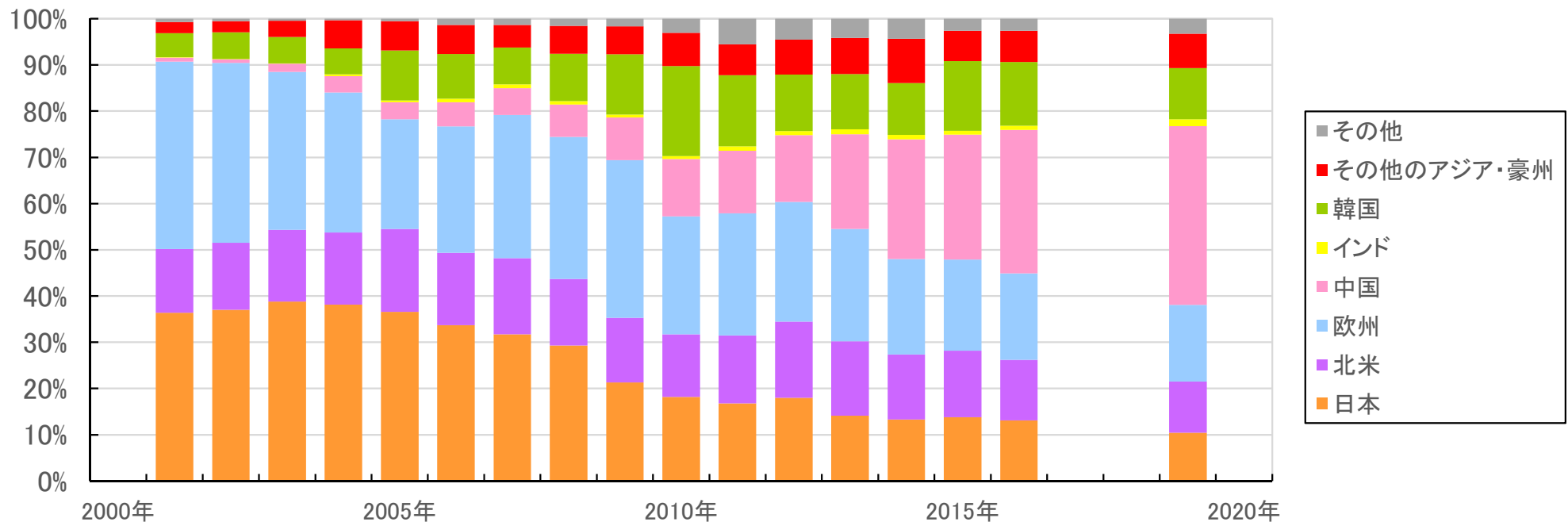
出典：「World Robotics 2016」(国際ロボット連盟)
<http://www.ifr.org/industrial-robots/statistics/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

6. (1) 世界の産業用ロボット販売台数 (②地域・国別のシェア)

- データを見ると、世界の産業用ロボット販売台数の地域・国別のシェアは、中国が大きく増加する見通し。
- 一方、日本、米国、欧州は、シェアが縮小する見通し。

世界の産業用ロボット販売台数の構成比(地域・国別)
(電子部品実装機を除く)



※ 2000年は表示していない

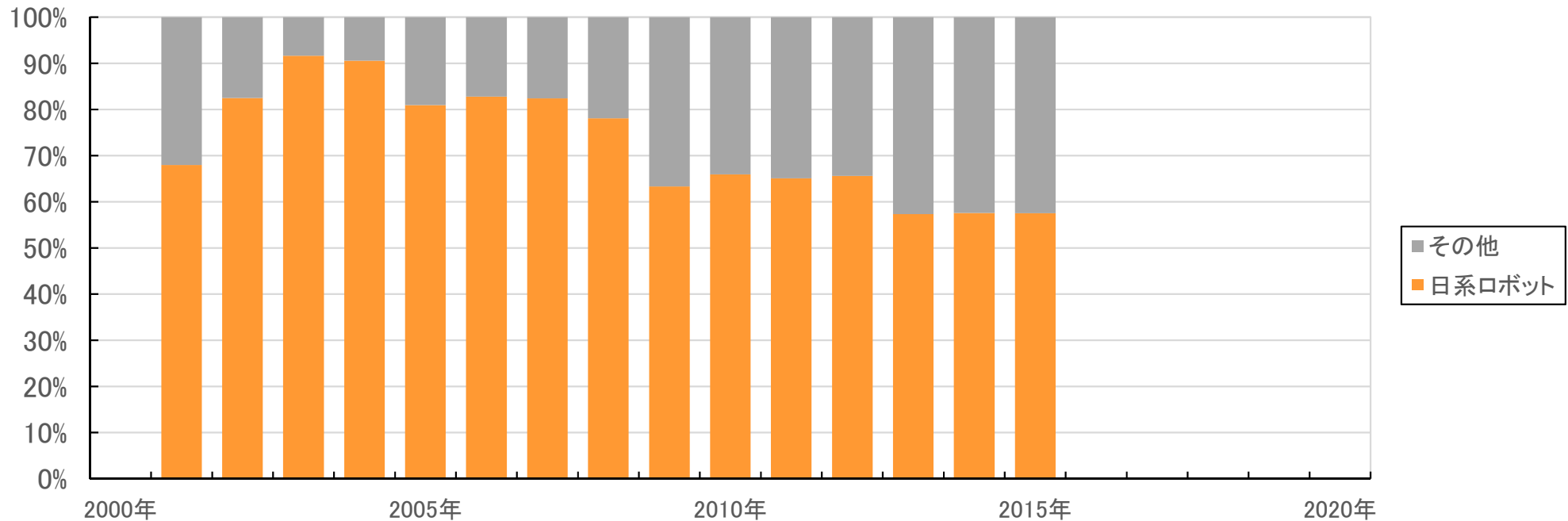
出典：「World Robotics 2016」(国際ロボット連盟)
<http://www.ifr.org/industrial-robots/statistics/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

6. (1) 世界の産業用ロボット販売台数 (③生産国別のシェア)

- データを見ると、世界の産業用ロボット販売台数の日系ロボットのシェアは減少傾向。

世界の産業用ロボット販売台数の構成比(ロボット生産国別)
(電子部品実装機を除く)



※日系ロボットの販売台数は、電子部品実装用ロボットの販売台数は含んでいないが、世界のロボット販売台数とは統計対象が異なることに注意を要する
※2000年は表示していない

出典：「World Robotics 2016」(国際ロボット連盟)

<http://www.ifr.org/industrial-robots/statistics/>

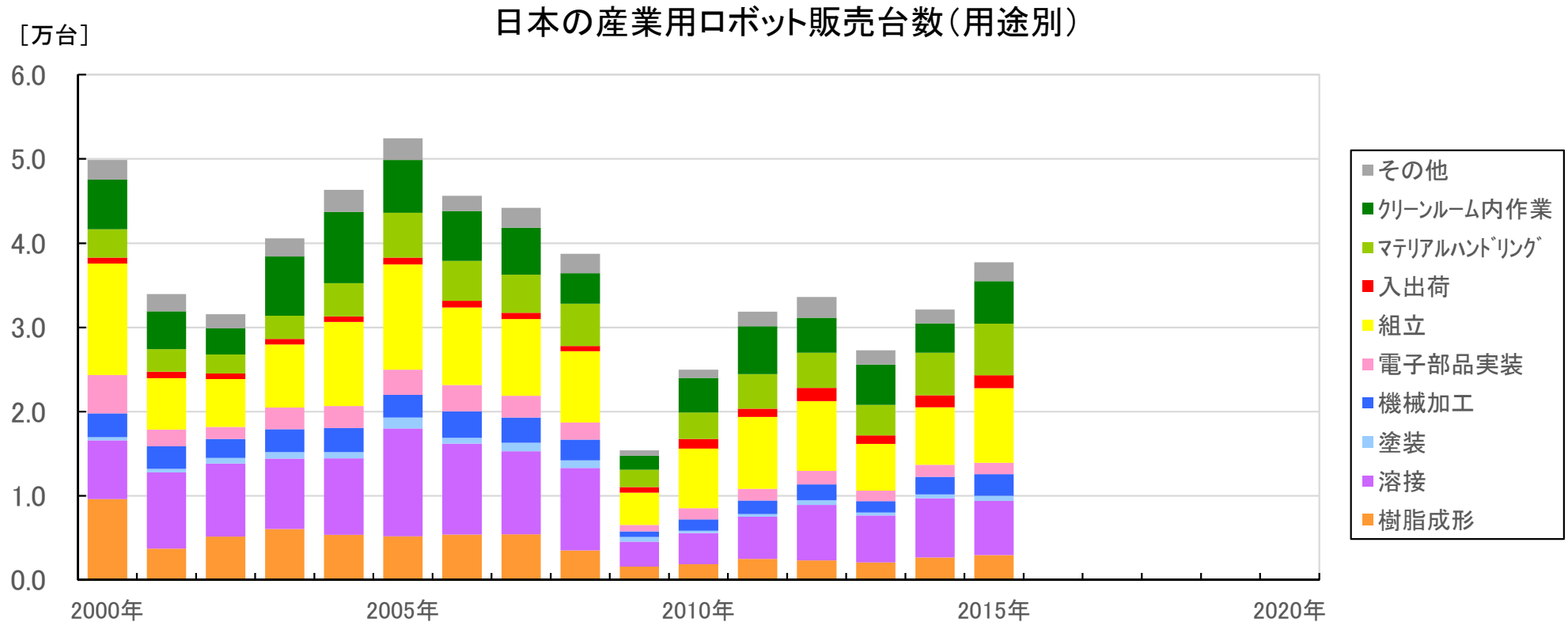
出典：「マニピュレータ、ロボット統計」(日本ロボット工業会)

<http://www.jara.jp/data/02.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

6. (2) 日本の産業用ロボット販売台数 (①用途別の台数)

- データを見ると、日本の産業用ロボット販売台数は、近年、増加傾向。



※国際ロボット連盟の販売台数とは統計対象が異なり、電子部品実装用ロボットなどの販売台数が含まれている。

出典：「マニピュレータ、ロボット統計」(日本ロボット工業会)

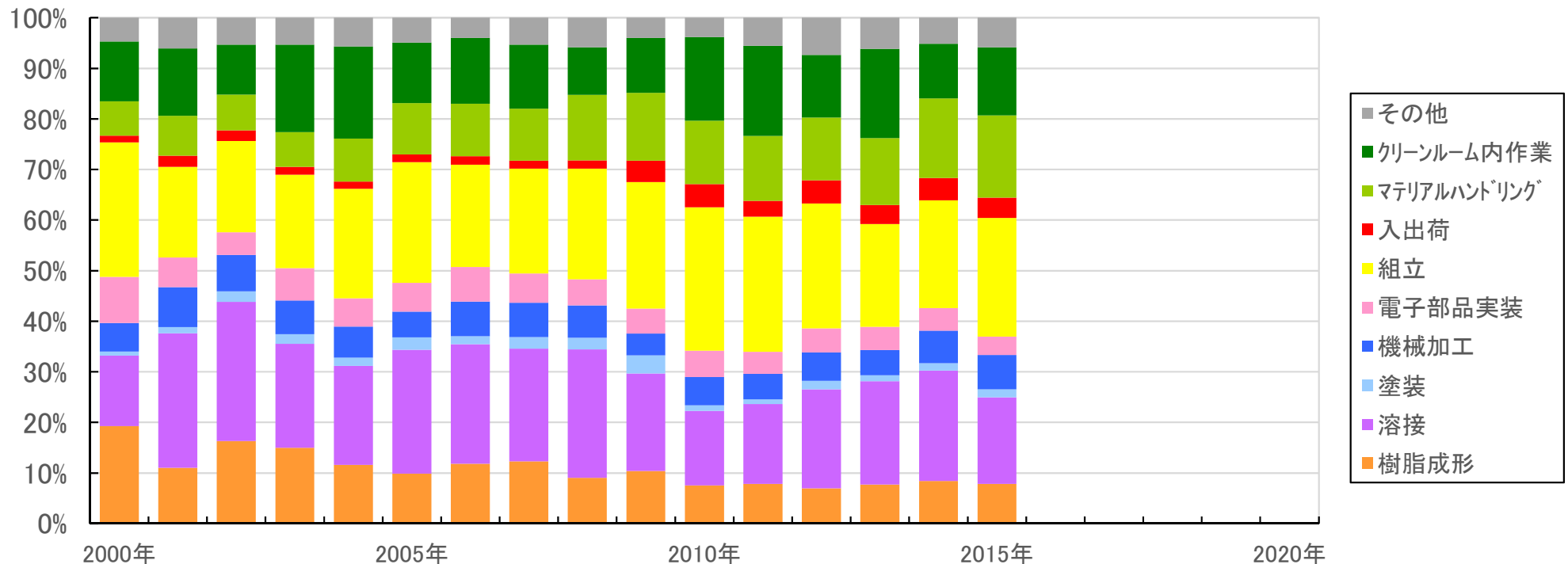
<http://www.jara.jp/data/02.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

6. (2) 日本の産業用ロボット販売台数 (②用途別の構成比)

- データを見ると、日本の産業用ロボット販売台数の用途別の構成比は、組立、溶接、マテリアルハンドリングが大きくなっている。

日本の産業用ロボット販売台数の構成比(用途別)



※国際ロボット連盟の販売台数とは統計対象が異なり、電子部品実装用ロボットなどの販売台数が含まれている。

出典：「マニピュレータ、ロボット統計」(日本ロボット工業会)

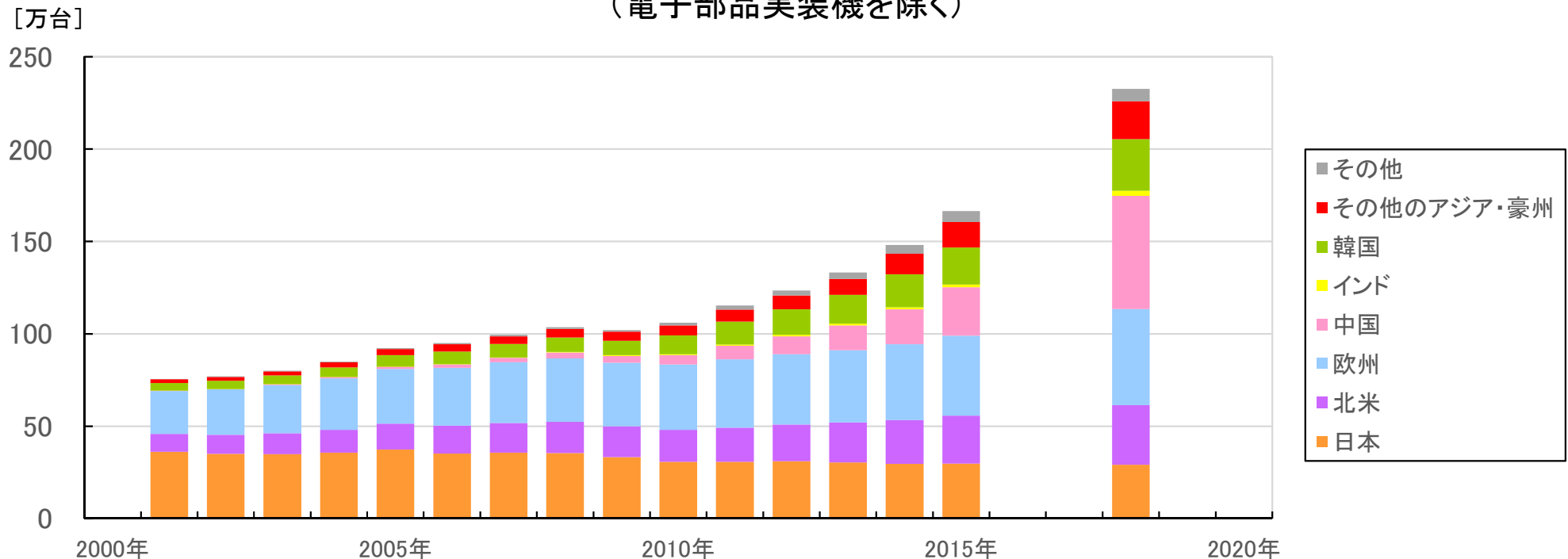
<http://www.jara.jp/data/02.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

6. (3) 世界の産業用ロボット稼働台数 (①地域・国別の台数)

- データを見ると、世界の産業用ロボット稼働台数は、増加し、2018年には230万台以上となる見通し。

世界の産業用ロボット稼働台数(地域・国別)
(電子部品実装機を除く)



※ 2000年は表示していない

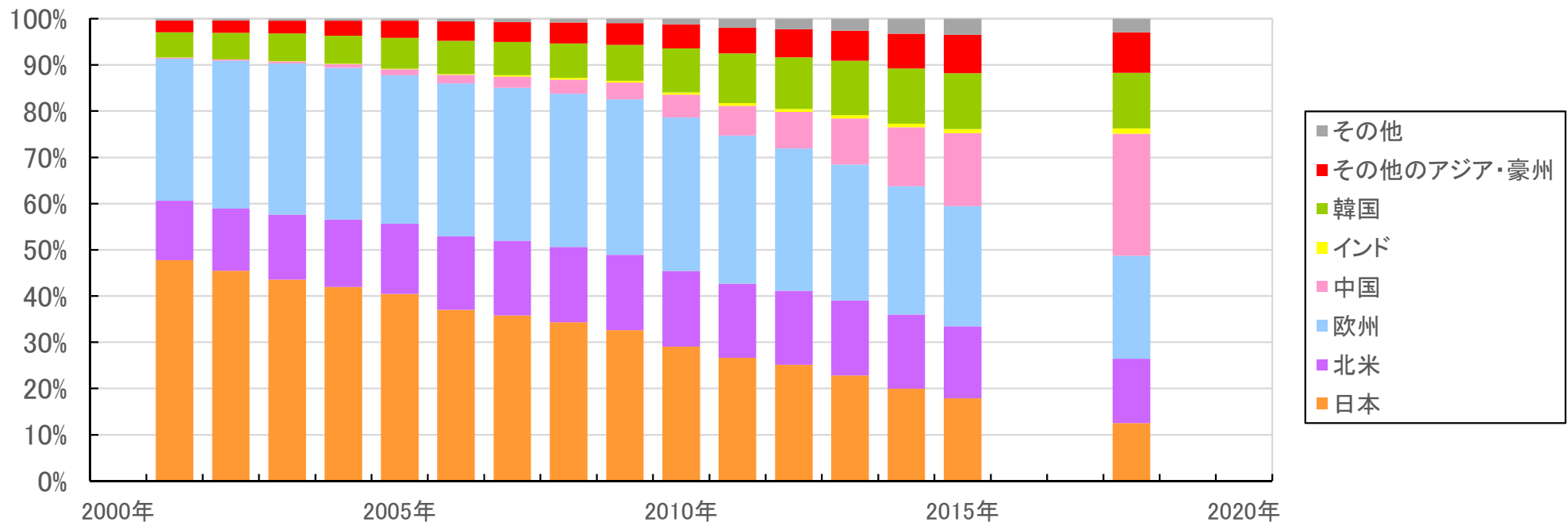
出典：「World Robotics 2016」(国際ロボット連盟)
<http://www.ifr.org/industrial-robots/statistics/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

6. (3) 世界の産業用ロボット稼働台数 (②地域・国別のシェア)

- データを見ると、世界の産業用ロボット稼働台数の地域・国別のシェアは、中国が大きく増加する見通し。
- 一方、日本、米国、欧州は、シェアが縮小する見通し。

世界の産業用ロボット稼働台数の構成比(地域・国別)
(電子部品実装機を除く)



※ 2000年は表示していない

出典：「World Robotics 2016」(国際ロボット連盟)

<http://www.ifr.org/industrial-robots/statistics/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

7. まとめ

6. データから読み取れる環境変化と企業戦略の方向性のポイント

エネルギートレンド

- 中国、インド、その他のアジアにおける1次エネルギー消費量、CO₂排出量の増加
- エネルギー価格の上昇
- 再生可能エネルギー、天然ガスの増加

資源トレンド

- 鉱物資源の枯渇の可能性
＜可採年数20年未満＞
ベースメタル（亜鉛、鉛、スズ）
貴金属（金）
レアメタル（クロム、インジウム）
- レアアース埋蔵量・生産量の偏在

経済トレンド

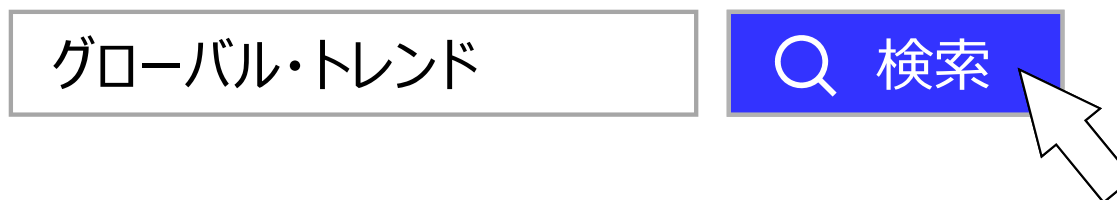
- インド、その他アジアを中心とした世界人口の増加
- 世界人口に占める60歳以上の割合増加
（2040年：2割近くに）
- 世界GDPに占める中国、インド、その他のアジアの増加



企業戦略の方向性

- 高度化するニーズとマスニーズを捉えたものづくりの推進
- 環境制約・資源制約への対応を通じた市場価値の創造
- 環境調和と企業価値の最大化の両立を目指した省エネルギーの促進、新エネルギーの導入

【参考】「グローバル・トレンド」（未来洞察データ集）のホームページ



http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/global_trends.html

【お問い合わせ先】

経済産業省 中部経済産業局 調査課

(TEL : 0 5 2 - 9 5 1 - 2 7 2 3)

【参考 1】

**日本のものづくりを取り巻く
インパクトのある環境変化**

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化①

分類	環境変化	キーワードの概要
人口・労働の変化	日本における総人口・労働力人口の減少	
	新興国における総人口・労働力人口の増加	
	高齢労働者の割合の増加	
	労働者の多様化（性別、年齢、国籍等）	
	働き方の多様化（テレワーク、共働き、バーチャルオフィス等）	
消費の変化	長寿・高齢化	
	価値観の多様化（ニーズのパーソナル化・高度化等）	
	価値観の変化（環境意識・健康意識の高まり）	
	価値観の変化（所有から体験・共有へのシフト）	
	E C（電子商取引）、デジタルマーケティング（※）へのシフト	※W e b、S N S等の電子メディアを通じて、プロモーションを行うようになる。
	自由時間の増加（労働時間の減少）	
社会・経済の変化	グローバル化（経済、サプライチェーン等）	
	先進国市場の成熟	
	新興国市場の拡大	
	新興国におけるモータリゼーション	
	新興国企業の競争力の上昇	

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化②

分類	環境変化	キーワードの概要
まちの変化	都市圏の都市化	
	地方圏の過疎化	
	社会インフラの老朽化	
	スマートシティ化（※）、スマートグリッド化（※）	※家庭や企業等を結んだ電力網で電力を効率よく供給するようになる
資源需給の変化	資源（鉱物・水・食料等）の調達競争の激化	
	環境配慮関連の規制の強化	
エネルギー需給の変化	エネルギー（原油、天然ガス、石炭等）の調達競争の激化	
	エネルギー価格の上昇	
	地球温暖化に対する規制の強化	
環境問題の深刻化	新興国における環境汚染問題の深刻化	
情報のオープン化	生活情報（ヒト・家庭・交通・小売等）の流通量の増加	
	製品使用情報・トレーサビリティ情報（※）の活用の拡大	※生産、加工、流通、販売等の履歴情報や所在情報を活用するようになる
デジタル化の進展	デジタル化・サイバー化・CPS化（モックアップ、生産・加工工程等）	※実世界とサイバー空間が相互連携したサイバーフィジカルシステムが普及する
	情報処理能力の向上	
	クラウド化・サーバーレス化（※）	※データやソフトウェアをネットワーク経由で提供するようになる
	モバイル端末などの情報端末の個人持ち	
	サイバーセキュリティリスクの増加	

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化③

分類	環境変化	キーワードの概要
製品の変化、 I o Tの普及	製品のネットワーク化・コネクテッド化、M 2 M（V 2 X等）（※）	※機械と機械がネットワークを介して互いに情報をやりとりするようになる
	製品への通信機能の搭載化	
	製品・部品単位におけるサイバーセキュリティの強化	
	製品のR F I D化（※）	※電波によってタグからモノの識別情報をやりとりするようになる
	製品のソフトウェアのアップデートによる機能向上	
	製品のトリオンセンサ化（※）	※毎年、1兆個規模の大量のセンサを社会が消費し、情報収集するようになる
	製品のメモリ化	
	製品へのバッテリーの搭載化、エネルギーハーベスティング（※）の増加	※光、熱、電磁波、振動、人の動作等から電力を得るようになる（環境発電）
	製品の自律化（クルマの自動運転等）	
スマートファクトリー化	スマートファクトリー化（※）	※工場内データをリアルタイムでつなぐことで効率的・自律的に生産するようになる
	インダストリー 4. 0（※）への対応	※ドイツが進める製造業のデジタル化等の革新への対応が求められるようになる
	工場内の生産設備のネットワーク化、プラグアンドプレイ（※）	※生産設備をネットワークに接続すれば直ぐに稼働できるようになる
	企業内のエンジニアリングチェーンのネットワーク化	※製品企画、開発、設計、試作、生産準備に関するデータを連携させるようになる
	企業間のサプライチェーンのネットワーク化	※受注、調達、生産、物流、販売、サービスに関するデータを連携させるようになる

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化④

分類	環境変化	キーワードの概要
人工知能（A I） の技術革新・普及	ビッグデータ解析（※）の利用の拡大	※処理・管理が困難な巨大で複雑なデータを解析するようになる
	人工知能（A I）の利用の拡大	※人間の知的営み（理解、推論、学習等）をコンピュータに行わせるようになる
	ディープラーニング・機械学習（※）の利用の拡大	※人間が関与することなく、コンピュータが特徴・概念を認識・表現できるようになる
	顧客の需要、生産設備の故障・異常等の予測	
	C A D、生産ライン、加工等の設計の最適化・自動化	
	調達・生産・販売等の計画の予測、最適化・自動化	
設計の技術革新	モジュール化設計（部品共通化設計）（※）の導入の拡大	※部品を機能単位にまとめたモジュールの組み合わせによって設計するようになる
	リバースエンジニアリング（※）の導入の拡大	※他社製品を分解し、仕組み、仕様、部品、要素技術等を応用するようになる
	モデルベース開発（※）の導入の拡大	※シミュレーションに基づいて、構想・設計・試作・検証等の開発をするようになる
	デザイン思考（※）の導入の拡大	※共感、問題定義、発想、試作、検証によって、人間中心の設計をするようになる
	デライト設計（※）の導入の拡大	※ニーズ、価値、性能等に、デライト（喜び・満足）を加えて設計するようになる
	リサイクル設計（環境配慮設計）（※）の導入の拡大	※ごみの発生を抑制する製品や、リサイクルしやすい製品を設計するようになる
	バイオメテイクス（※）の導入の拡大	※生物の優れた構造や機能を模倣した設計をするようになる

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化⑤

分類	環境変化	キーワードの概要
材料の技術革新	軽量材料への代替（アルミ・樹脂・炭素系材料等）	※CFRP、セルロースナノファイバー、CMC（セラミック複合材料）等
	レアメタルレス・レアメタルフリーな材料への代替	
	インテリジェント材料（※）の利用の拡大（自己修復、自己診断等）	※変化に応じて特性・構造が変化する材料が利用されるようになる
	材料の設計革新（分子シミュレーション（※）等）	※原子・分子レベルの構造・挙動から、材料物性を解析・設計するようになる
	材料の設計革新（高機能バイオマテリアル（※）等）	※遺伝子操作によって、バイオマテリアルの物性を設計するようになる
加工技術・ 生産技術の革新、 ロボットの普及	3Dプリンタ・付加製造（AM）（※）の利用の拡大	※複雑形状、一体成形、世界同時生産、保守等の部品を造形するようになる
	ハイブリッド複合加工機（※）の利用の拡大	※切削複合機に金属3Dプリント技術を融合させた加工をするようになる
	フレキシブル生産（FMS）（※）	※生産設備を大幅に変えることなく、複数製品を柔軟に混流生産するようになる
	スマートロボットの普及（多能工、協調作業、人アシスト等）	
ヒトを支援する 端末・デバイスの 普及	モバイル端末の普及	
	ウェアラブルデバイス（※）の普及	※身体に装着して利用することを想定した端末が普及する
	AR（拡張現実）（※）の普及	※現実空間のオブジェクトに情報を付加して重ね合わせるデバイスが普及する
	VR（仮想現実）（※）の普及	※仮想空間を作り出し、現実空間のように感じさせるデバイスが普及する
	HMI（※）の普及	※人間と機械との間で行うやりとりの手段の負担が軽減されたデバイスが普及する
	BMI（※）の普及	※脳の情報を読み取って機械を制御するデバイスが普及する

【参考】ものづくりを取り巻くインパクトのある環境変化⑥

分類	環境変化	キーワードの概要
ビジネスモデルの 変化	売り切りだけからサービス付加のビジネスモデルへのシフト	
	手段を売るビジネスモデルから成果を売るビジネスモデルへのシフト	※製品（モノ）ではなく、顧客にもたらず顧客価値（コト）を提供するようになる
	課金方法の変化（利用量課金等）	
	製品・サービス提供のマス・カスタマイゼーション対応（※）	※顧客の個別ニーズに応えた個別仕様の製品を多品種少量生産するようになる
	製品・サービス提供のオンデマンド化（※）	※ユーザのリクエストに応じて即時に製品・サービスを提供するようになる
ビジネス体制の 変化	生産委託によるファブレスの拡大	
	クラウドマニュファクチャリング（※）、メイカーズ（※）の増加	※一般の市民によって製品の製作・流通が行われるようになる
	オープンイノベーションの拡大（内外の資源の活用）	
	B C P 対応（※）（ブリッジ生産、サプライチェーンの見える化等）	※災害や事故等の不測の事態を想定した事業継続計画が立てられるようになる

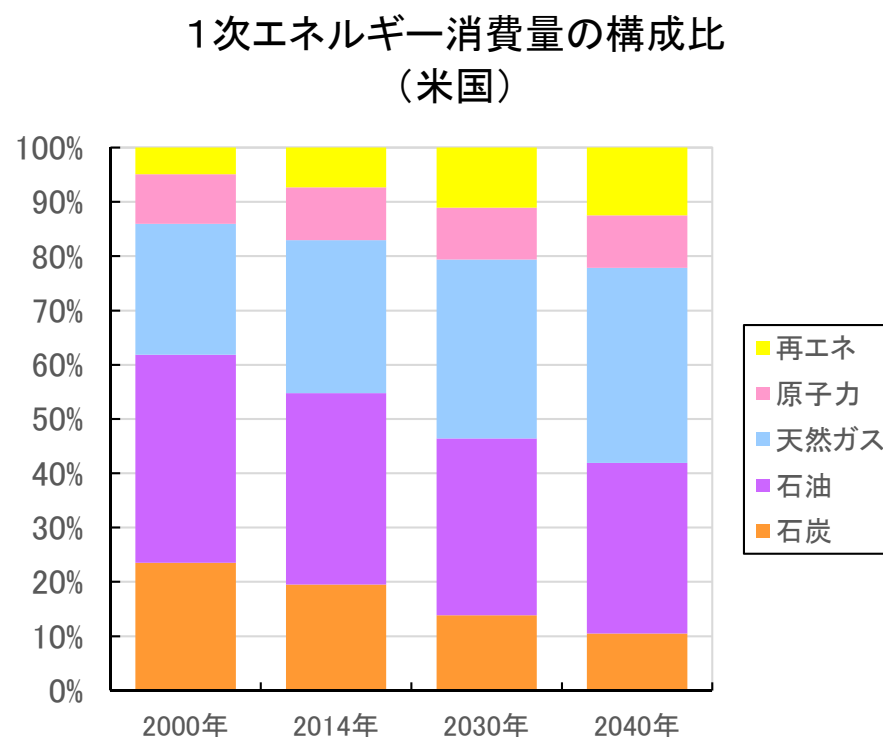
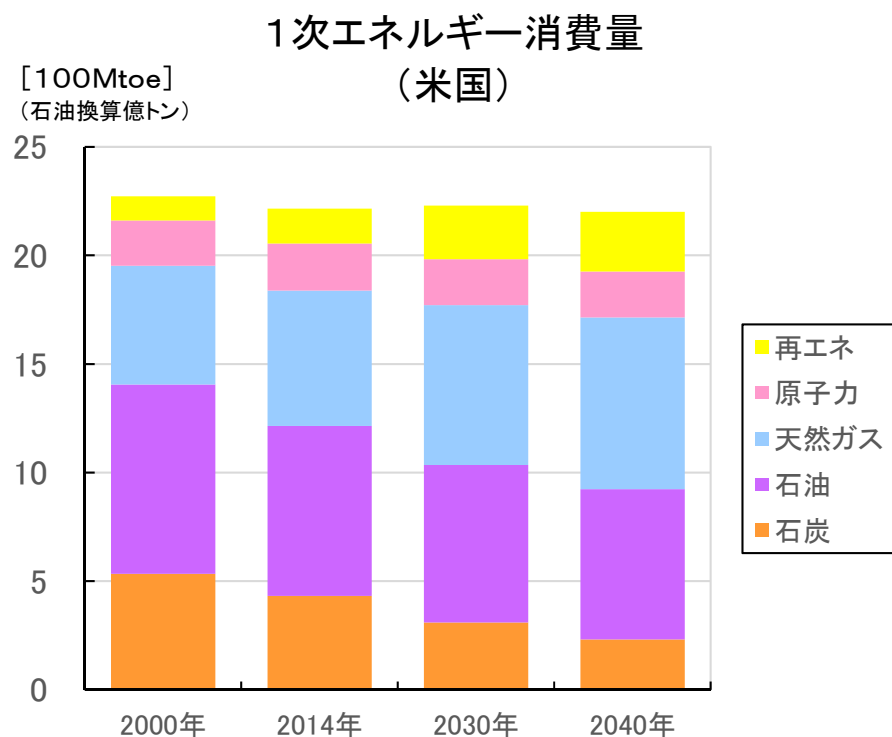
【参考 2】

補足データ

(1 次エネルギー消費量)

1. (1) 1次エネルギー消費量 (④米国)

- データを見ると、米国の1次エネルギー消費量は、横ばいで推移する見通し。
- 構成比は、再生可能エネルギー、天然ガスの割合が増加する見通し。



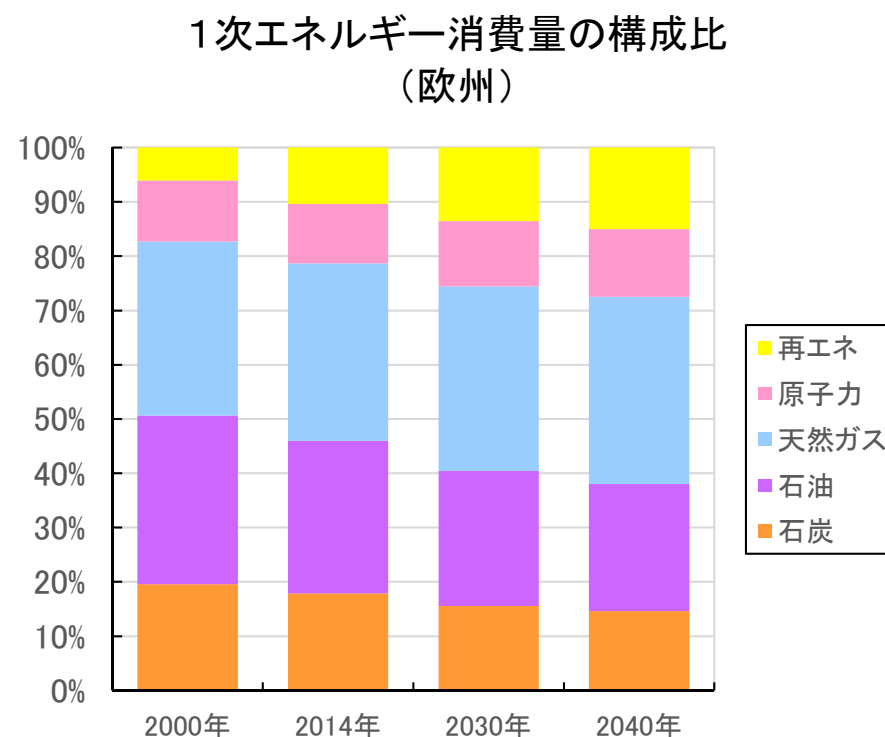
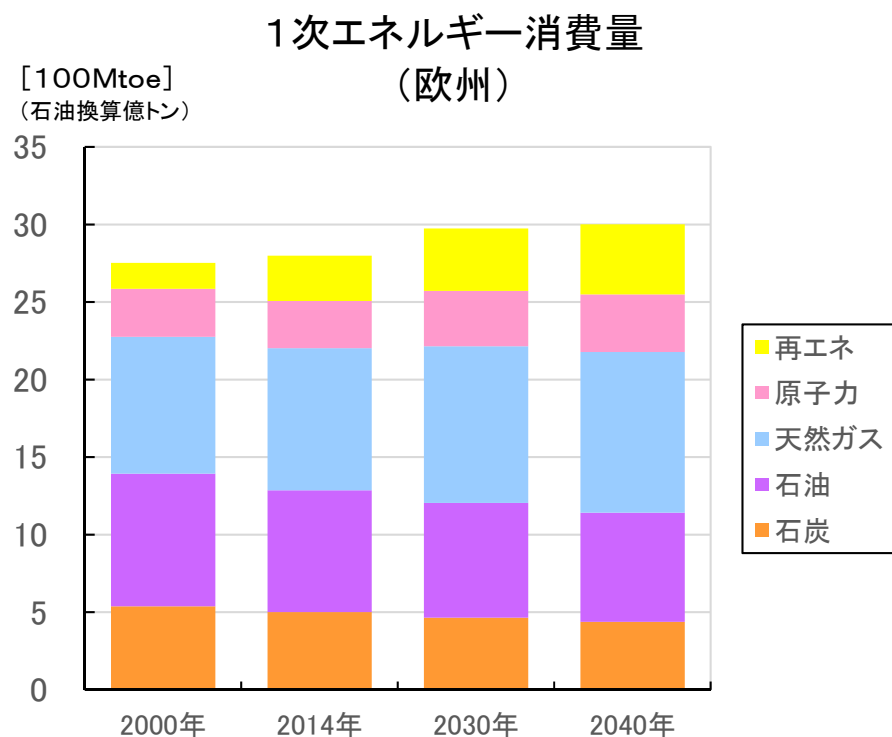
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」(一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ)
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (⑤欧州)

- データを見ると、欧州の1次エネルギー消費量は、緩やかに増加する見通し。
- 構成比は、再生可能エネルギーの割合が増加する見通し。



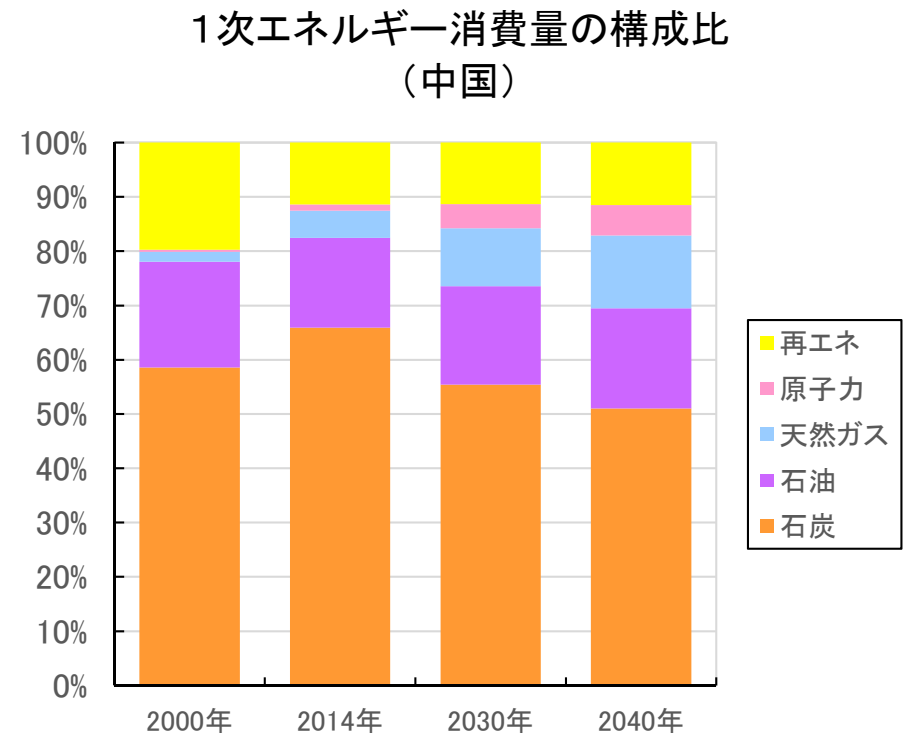
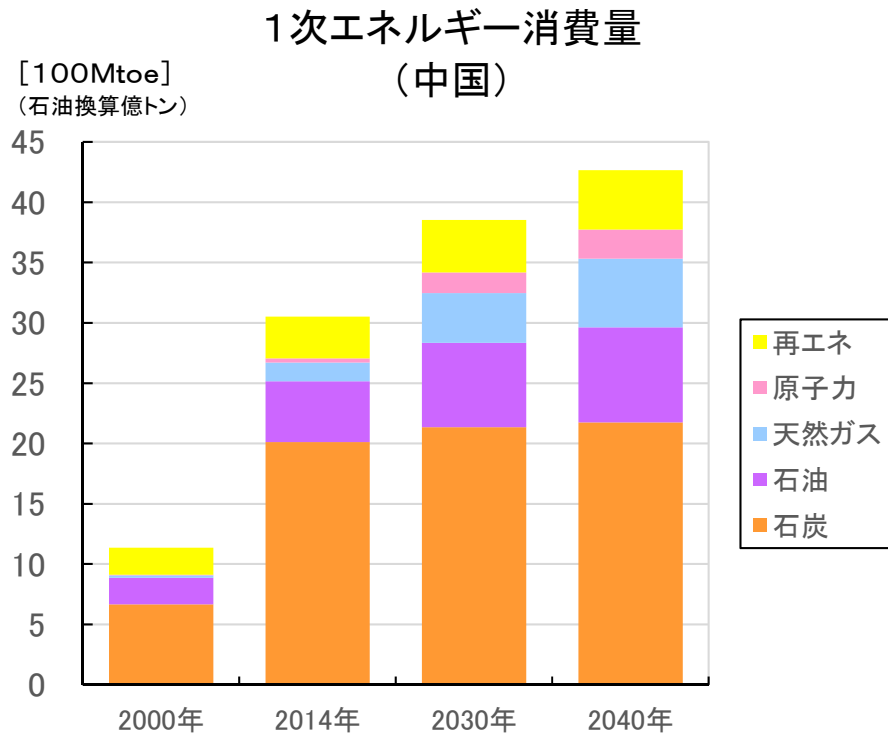
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」((一財) 日本エネルギー経済研究所 (I E E J))
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (⑥中国)

- データを見ると、中国の1次エネルギー消費量は、大きく増加する見通し。
- 構成比は、石炭の割合が減少し、天然ガス、原子力が増加する見通し。



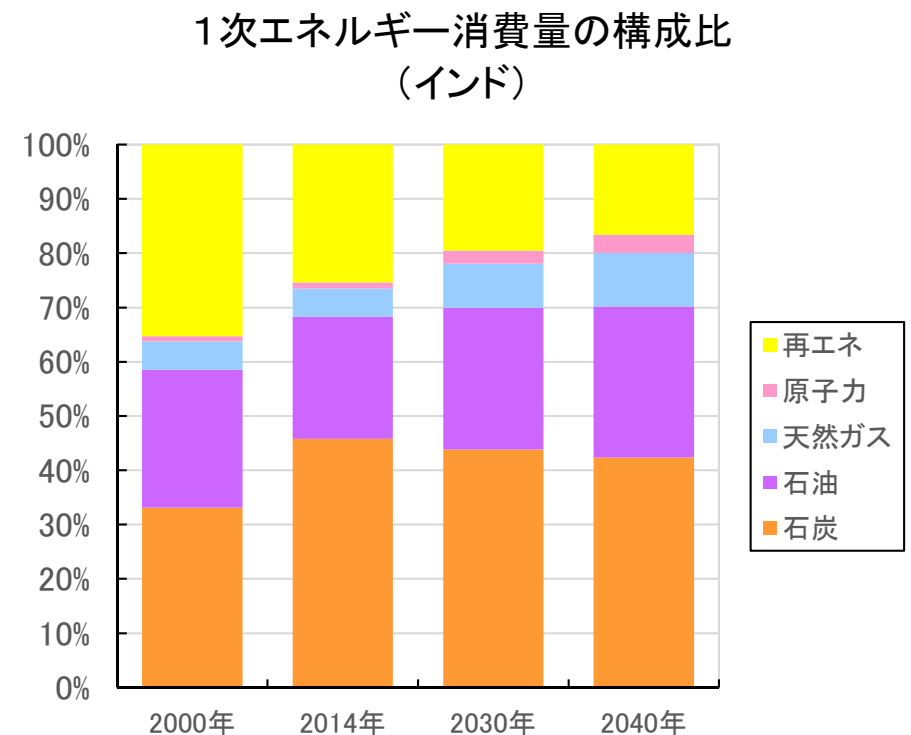
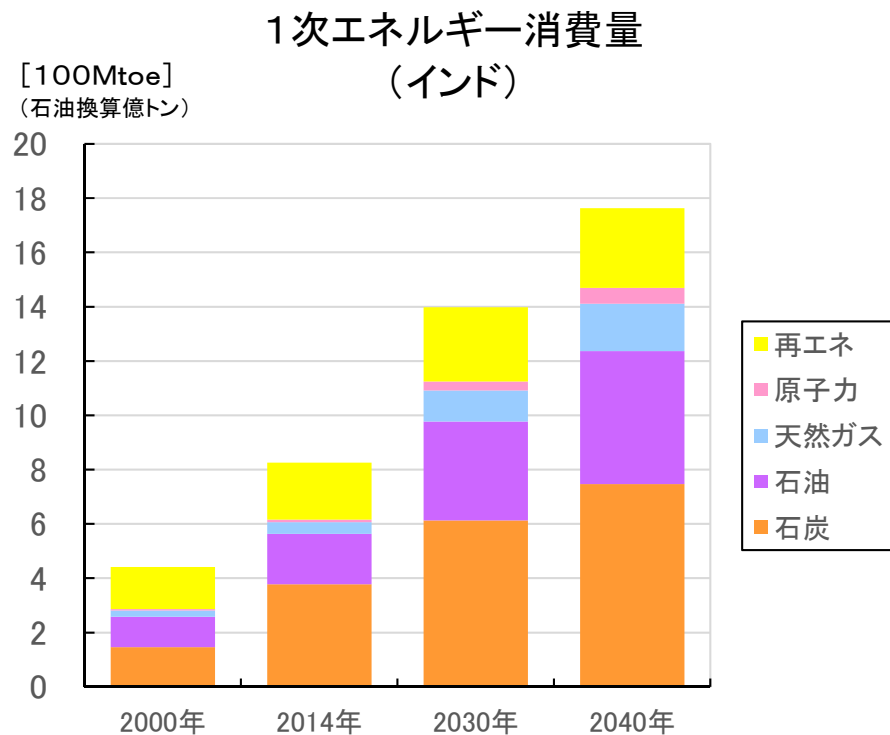
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」((一財) 日本エネルギー経済研究所 (I E E J))
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (⑦インド)

- データを見ると、インドの1次エネルギー消費量は、大きく増加する見通し。
- 構成比は、再生可能エネルギーの割合が減少し、天然ガス、原子力が増加する見通し。



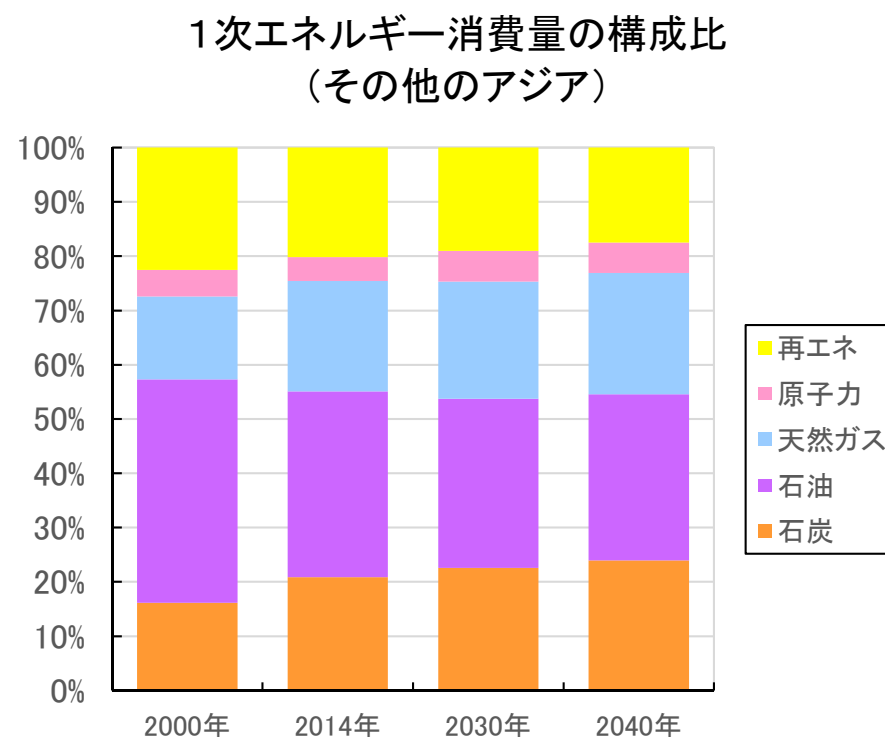
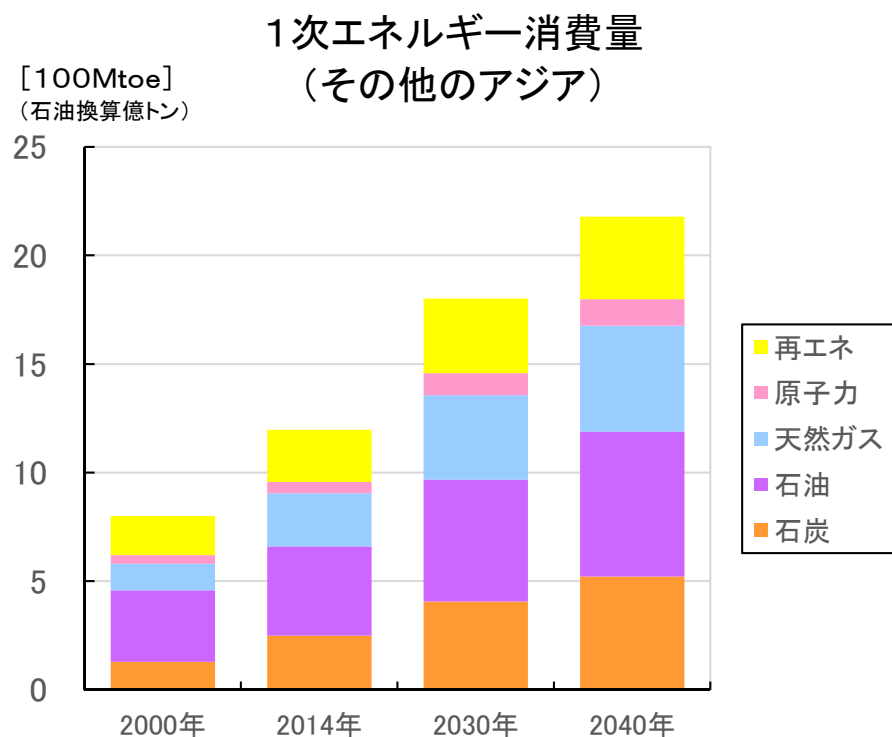
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」((一財) 日本エネルギー経済研究所 (I E E J))
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (⑧その他のアジア)

- データを見ると、その他のアジアの1次エネルギー消費量は、大きく増加する見通し。
- 構成比は、天然ガスの割合が増加する見通し。



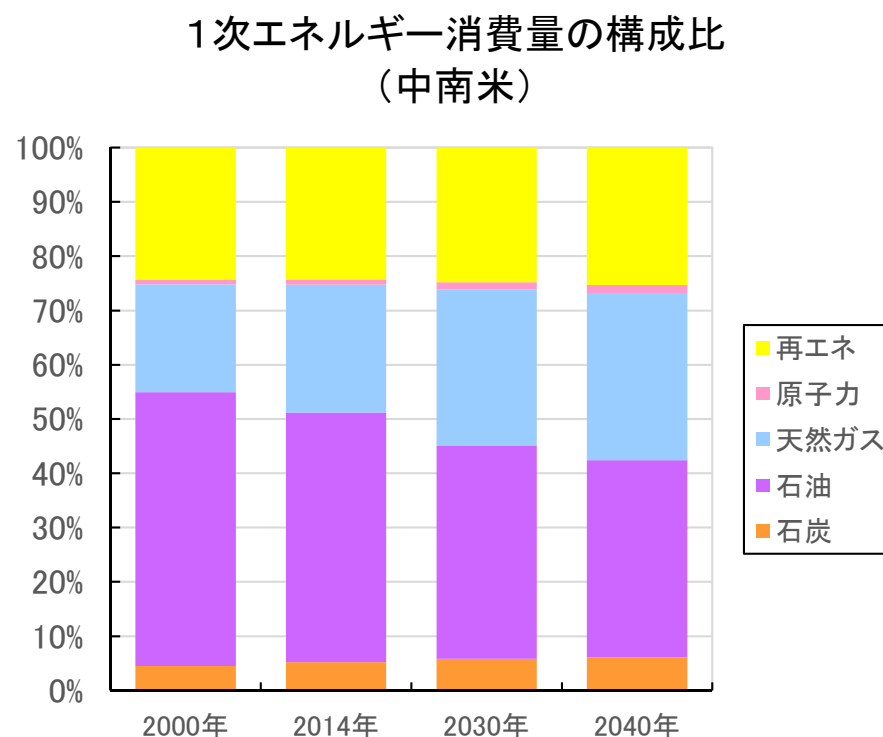
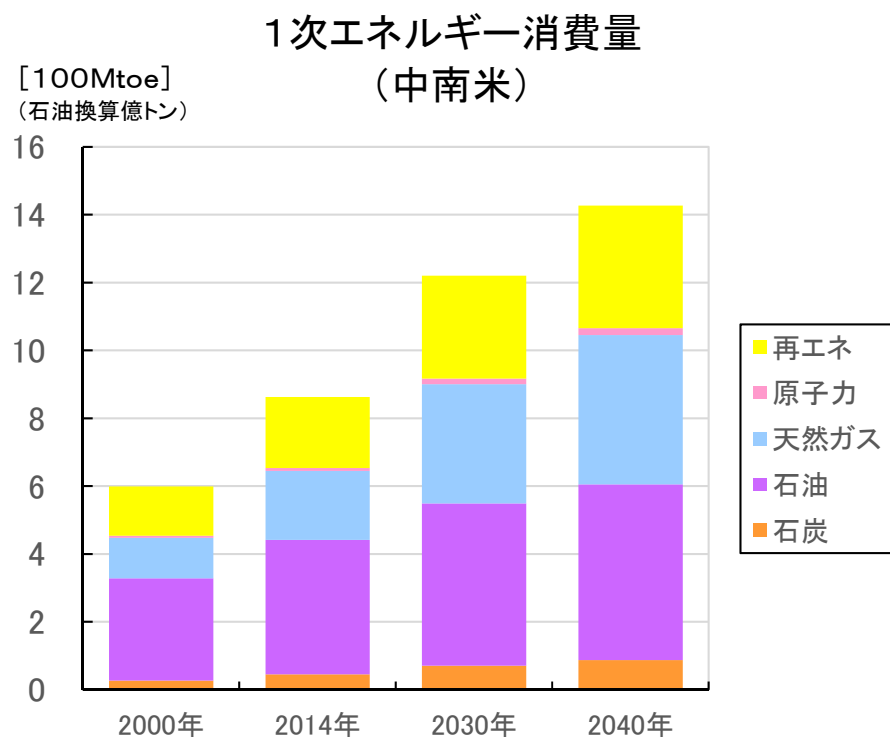
※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」(一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ)
http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

1. (1) 1次エネルギー消費量 (⑨中南米)

- データを見ると、中南米の1次エネルギー消費量は、大きく増加する見通し。
- 構成比は、再生可能エネルギーは横ばい、天然ガスは増加の見通し。



※予測はレファレンスケース

出典：「アジア／世界エネルギーアウトック2016」(一財)日本エネルギー経済研究所(IEEJ)

http://eneken.ieej.or.jp/whatsnew_op/161021teireiken.html

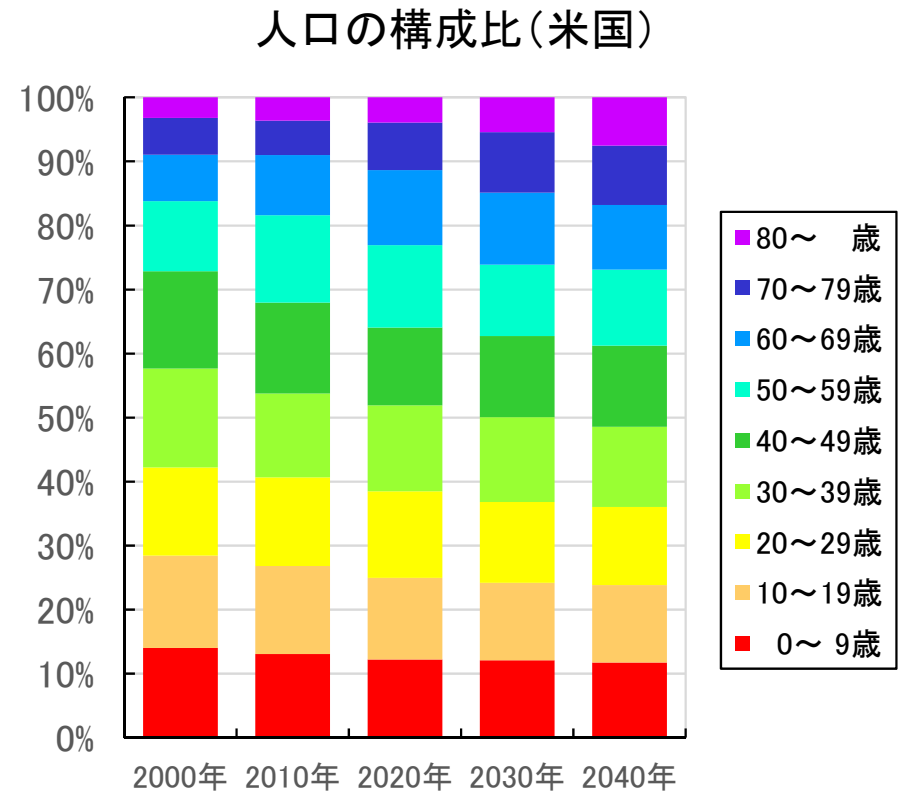
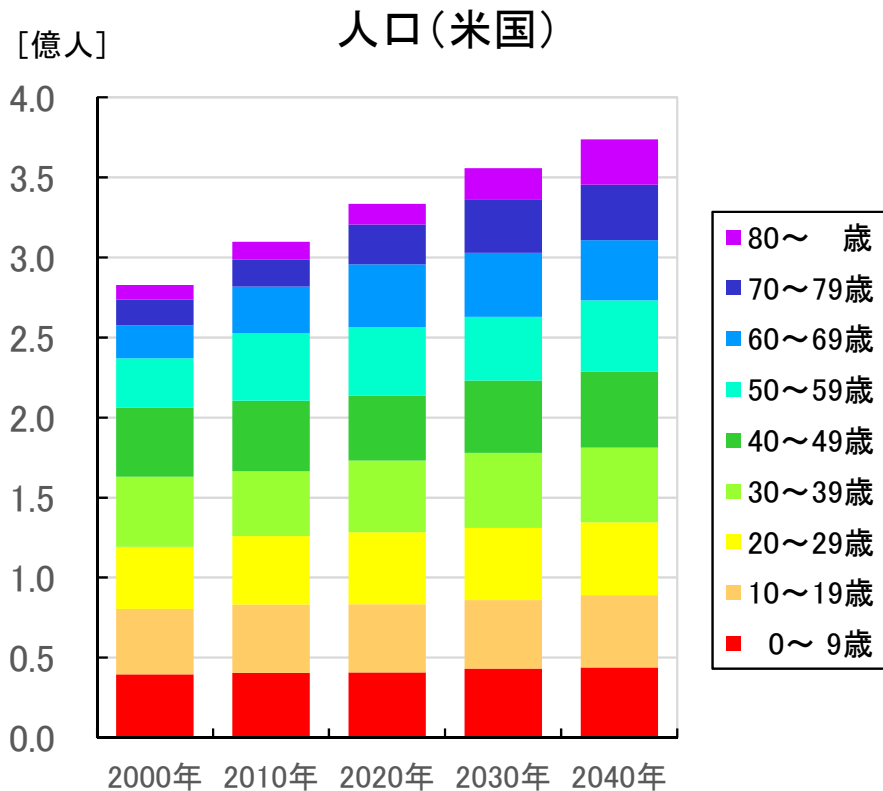
注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

【参考 2】

補足データ
(人口)

3. (1) 人口 (④米国)

- データを見ると、米国の人口は、増加する見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が3割近くになる見通し。



※予測は中位推計

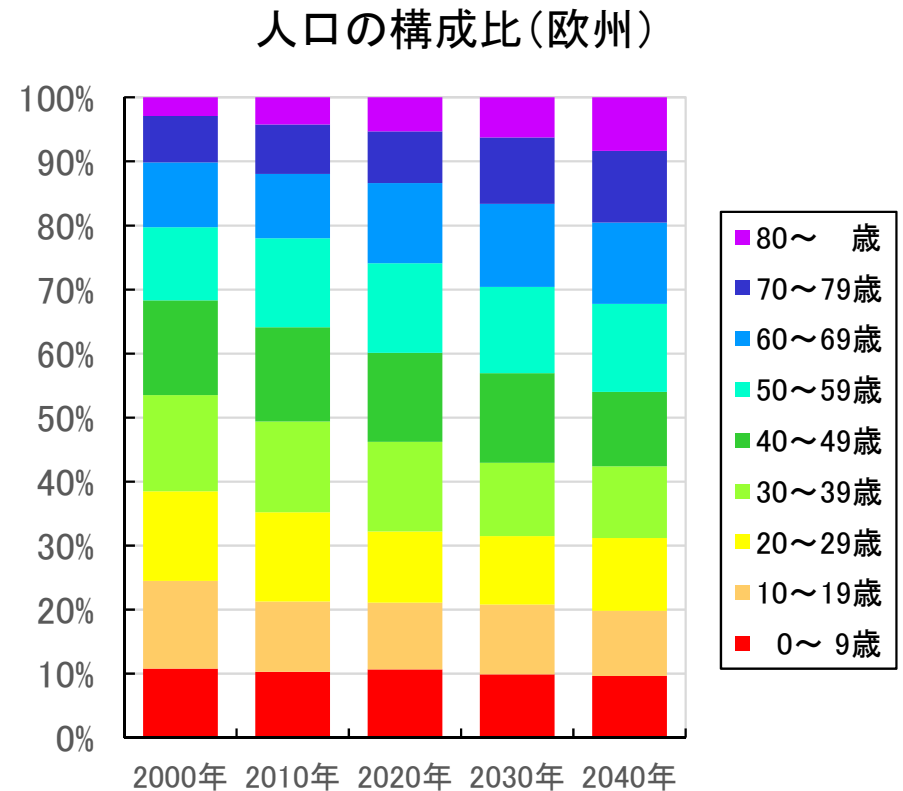
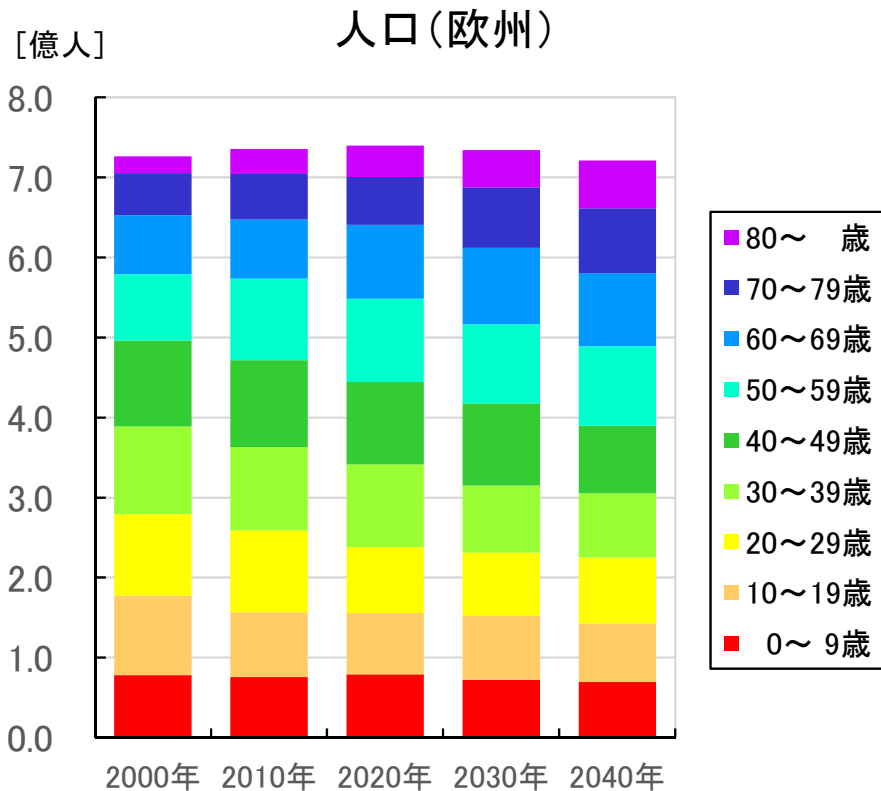
出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

3. (1) 人口 (⑤欧州)

- データを見ると、欧州の人口は、2030年までに、減少に転じる見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が3割を超える見通し。



※予測は中位推計

出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

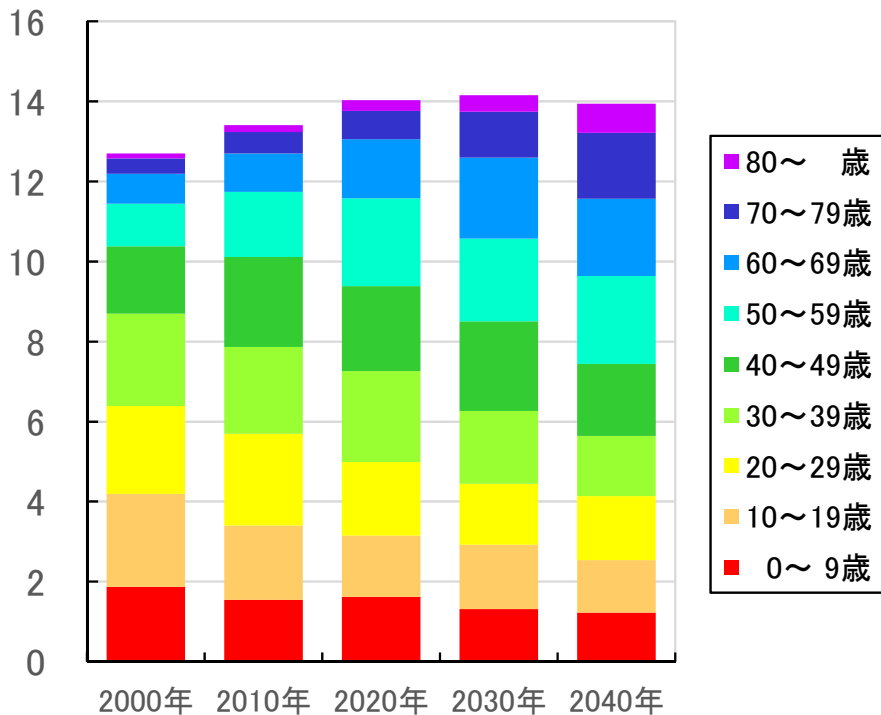
<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

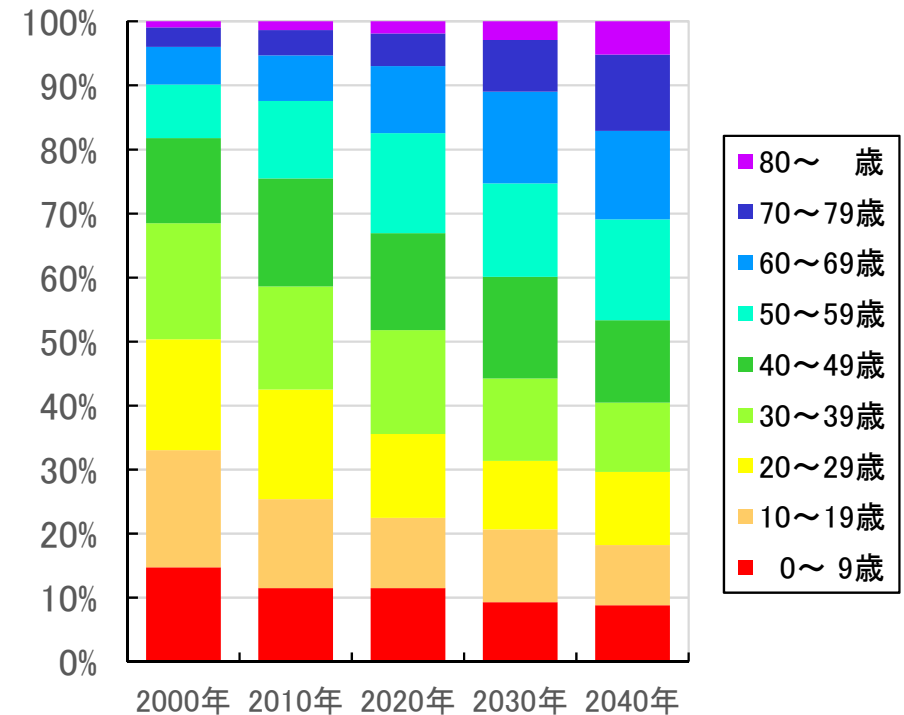
3. (1) 人口 (⑥中国)

- データを見ると、中国の人口は、2040年までに、減少に転じる見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が3割を超える見通し。

人口(中国)



人口の構成比(中国)



※予測は中位推計

出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

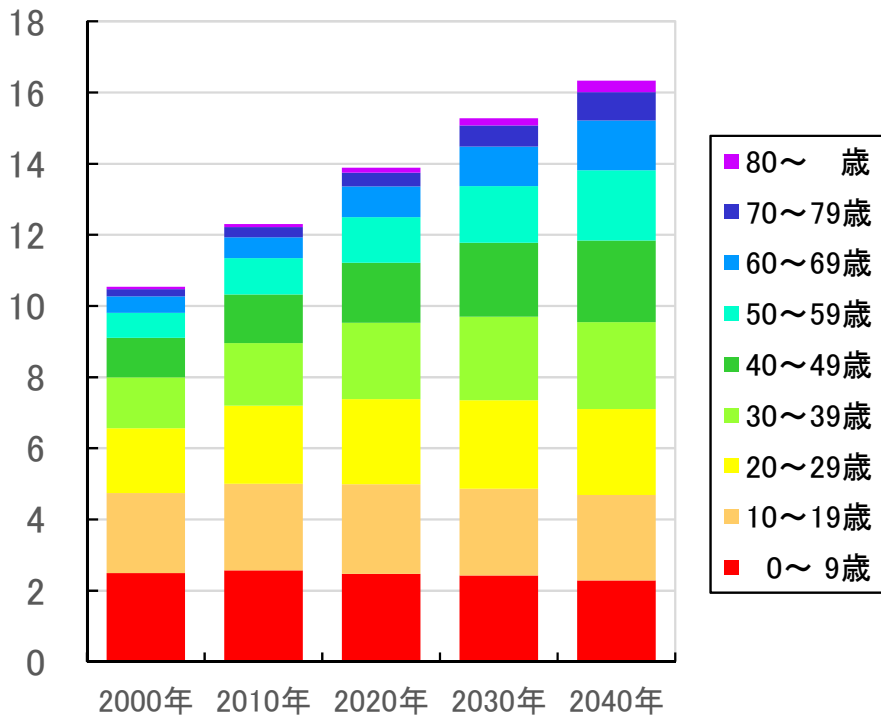
<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

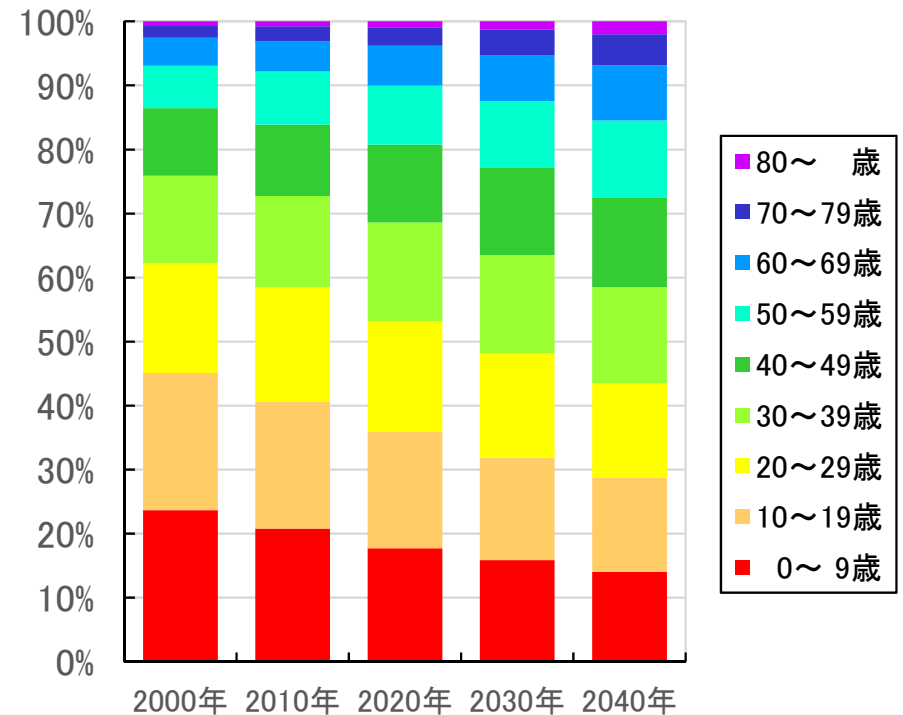
3. (1) 人口 (⑦インド)

- データを見ると、インドの人口は、増加する見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が2割未満の見通し。

[億人] 人口(インド)



人口の構成比(インド)



※予測は中位推計

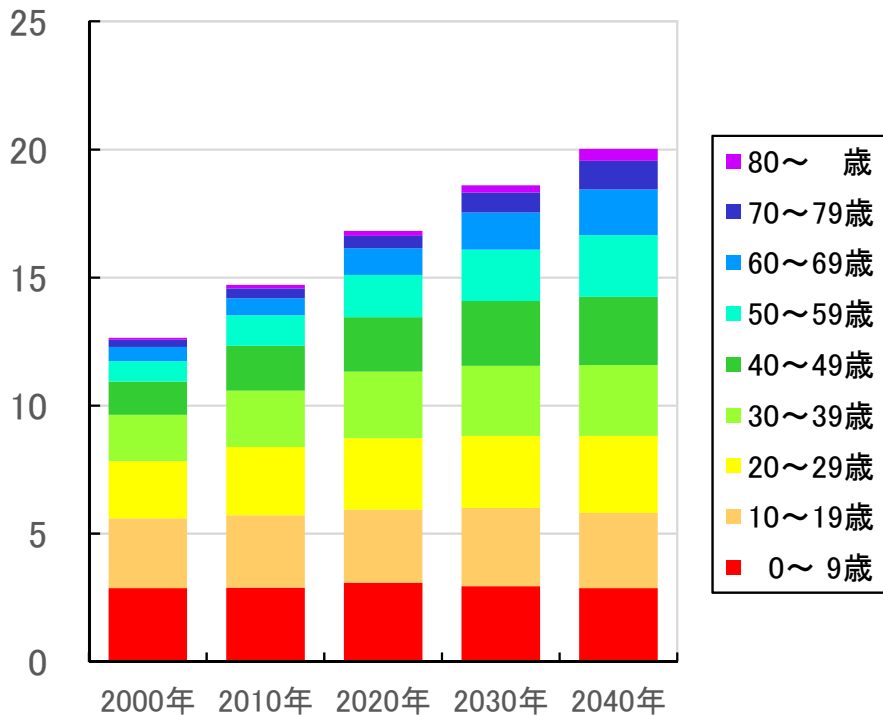
出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)
<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではない。

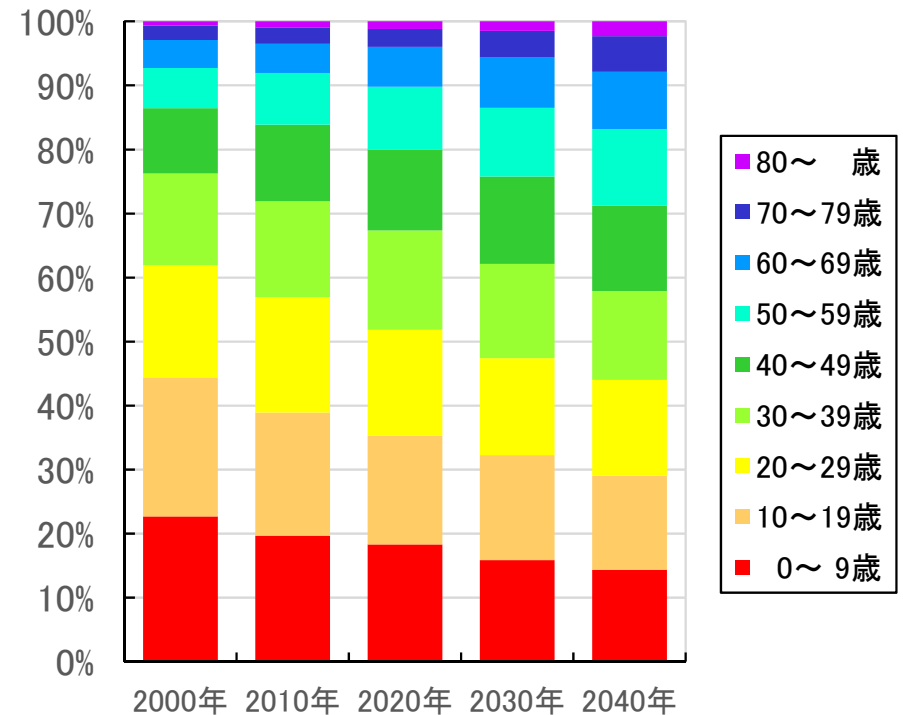
3. (1) 人口 (⑧その他のアジア)

- データを見ると、その他のアジアの人口は、増加する見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が2割未満の見通し。

[億人] 人口(その他のアジア)



人口の構成比(その他のアジア)



※予測は中位推計

出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

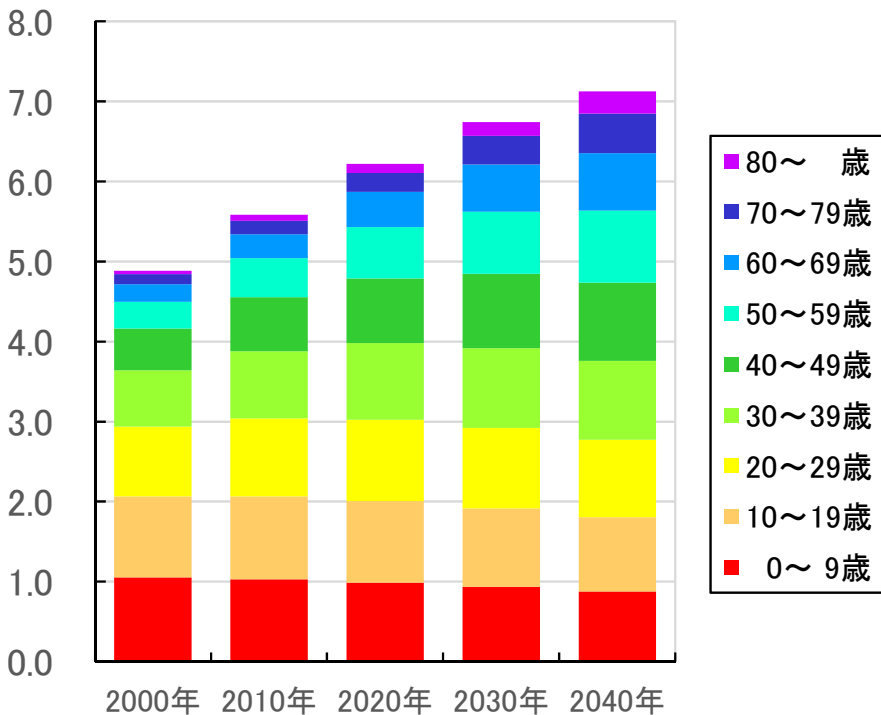
<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

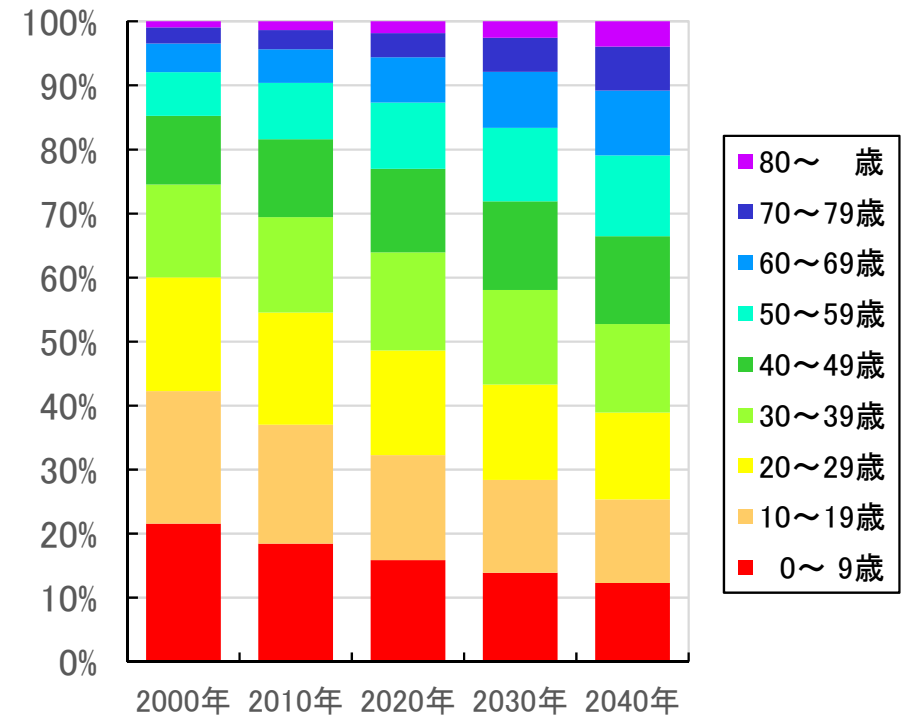
3. (1) 人口 (⑨中南米)

- データを見ると、中南米の人口は、増加する見通し。
- 構成比は、2040年時点で、60歳以上の割合が2割を超える見通し。

人口(中南米)



人口の構成比(中南米)



※予測は中位推計

出典：「World Population Prospects, the 2015 Revision」(国連)

<http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

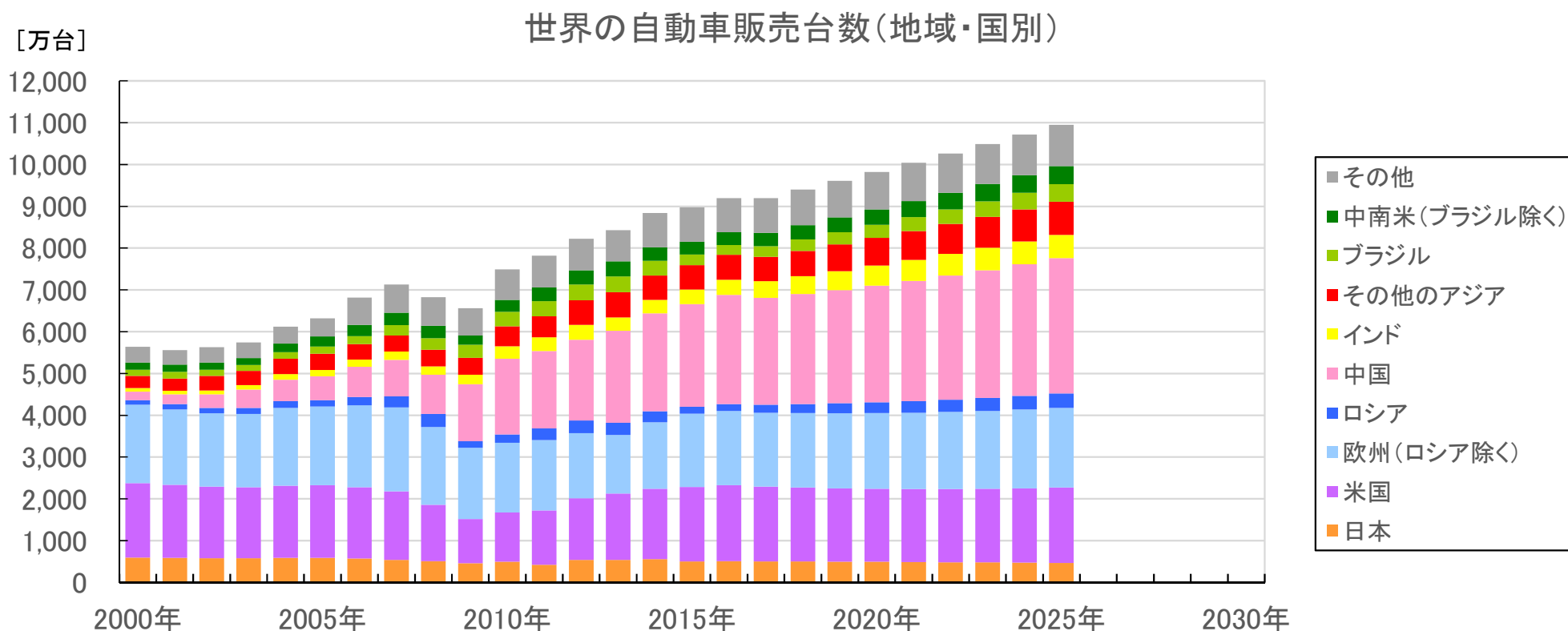
【参考 2】

補足データ

(市場トレンド (自動車分野))

4. (1) 世界の自動車販売台数 (①地域・国別の台数)

- データを見ると、世界の自動車販売台数は、増加し、2021年には1億台を超える見通し。



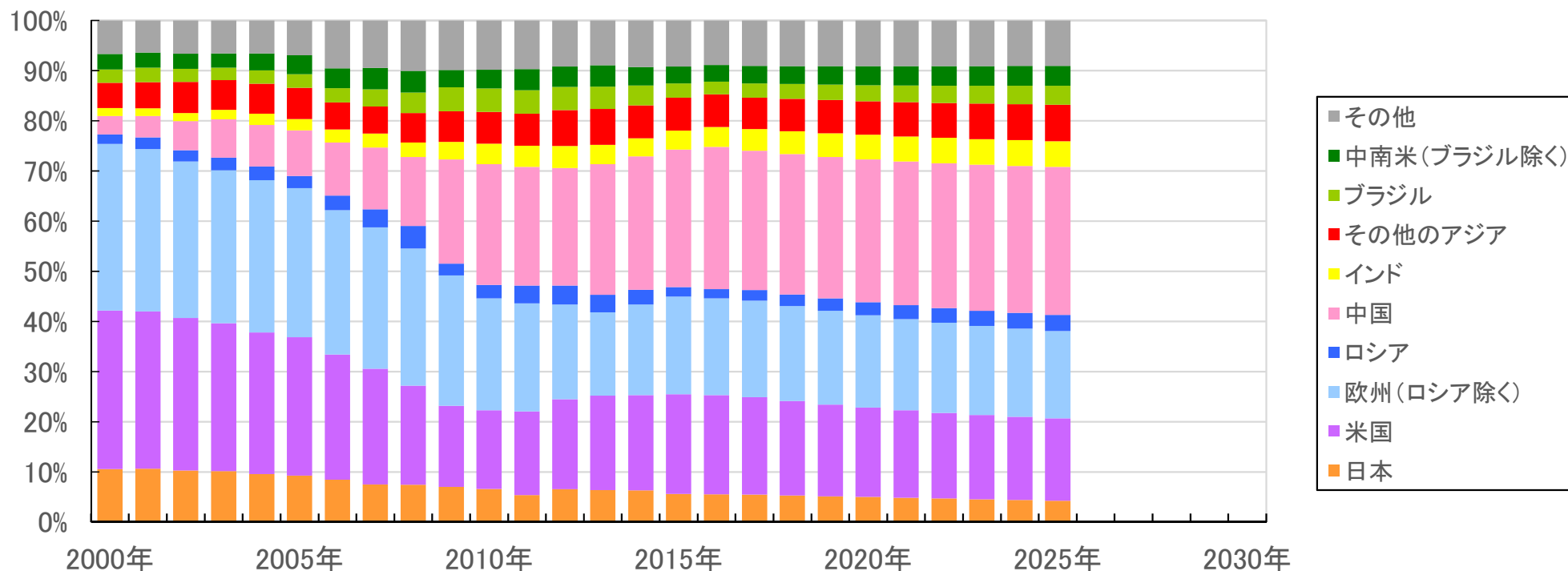
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシー)を参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (1) 世界の自動車販売台数 (②地域・国別のシェア)

- データを見ると、世界の自動車販売台数の地域・国別のシェアは、中国が大きく増加し、インド、ブラジル、ロシアなども増加する見通し。
- 一方、日本、米国、欧州は、シェアが縮小する見通し。

世界の自動車販売台数のシェア(地域・国別)



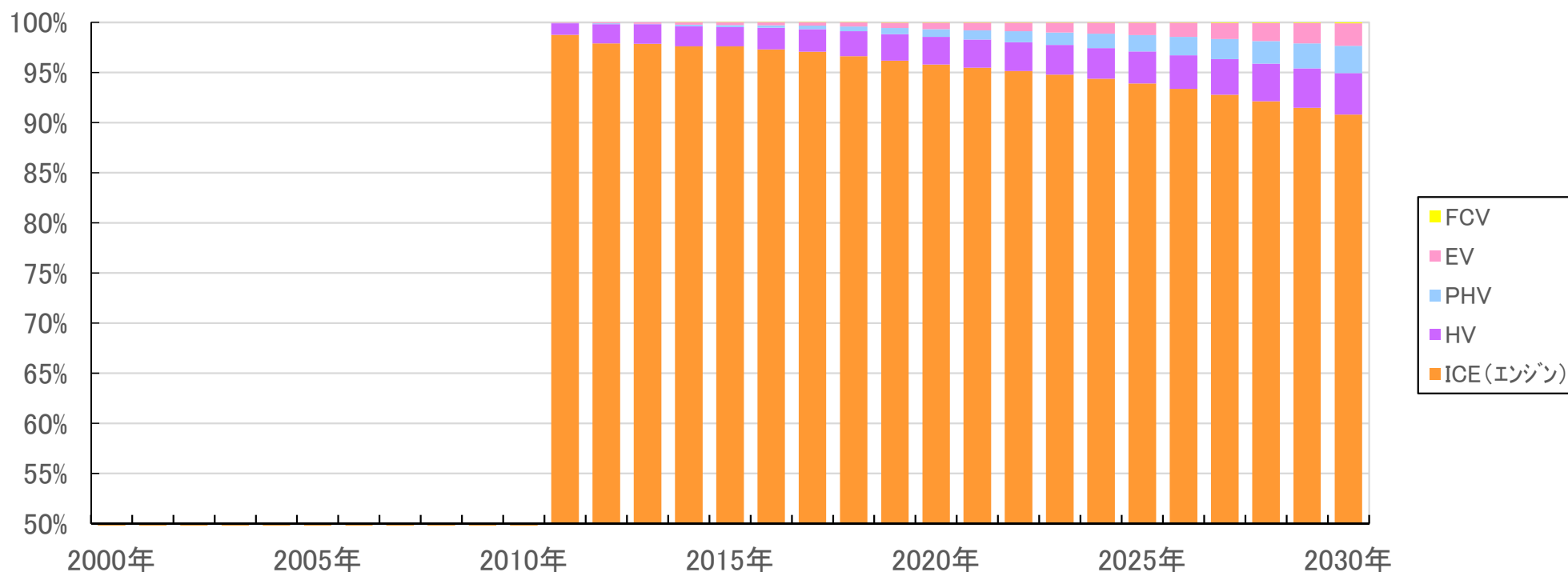
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (1) 世界の自動車販売台数 (③パワートレイン別の構成比)

- データを見ると、世界の自動車販売台数のパワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約1割の見通し。

世界の自動車販売台数の構成比(パワートレイン別)



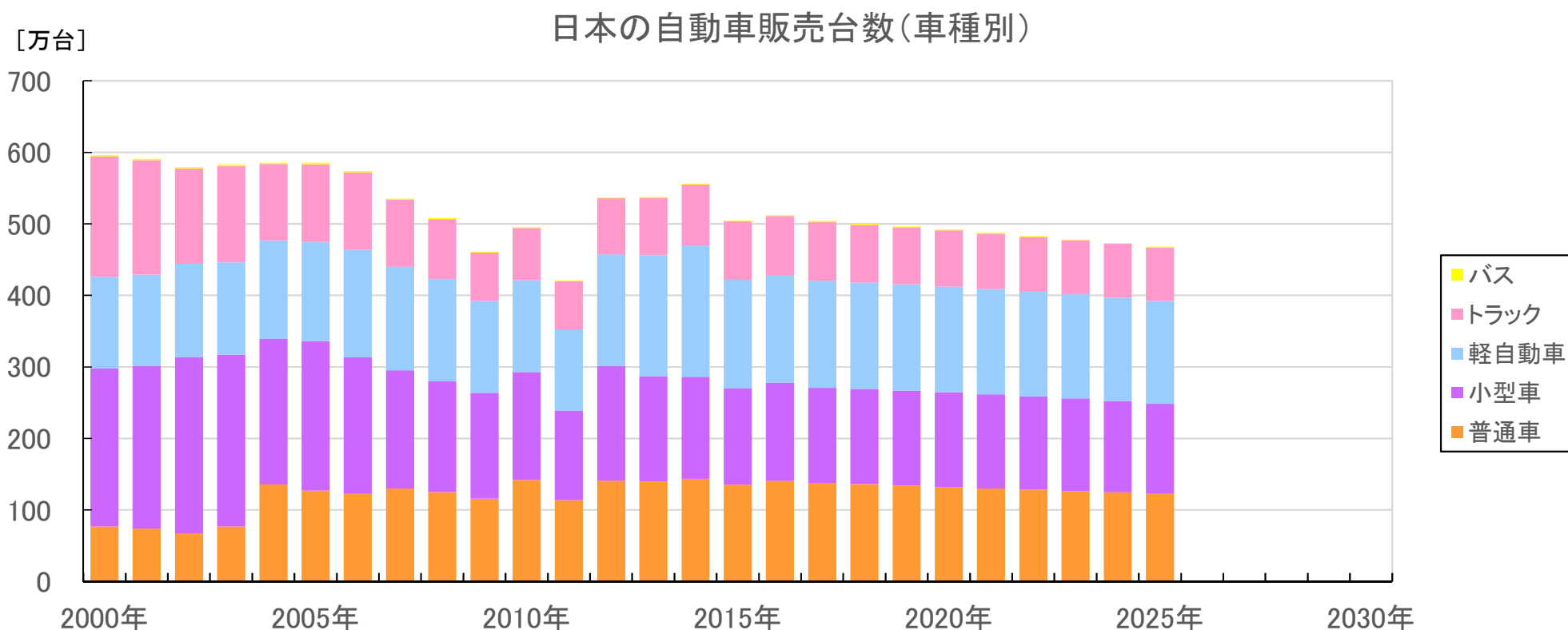
※ 2010年以前は表示していない

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (2) 日本の自動車販売台数 (①車種別の台数)

- データを見ると、日本の自動車販売台数は、長期的には減少する見通し。



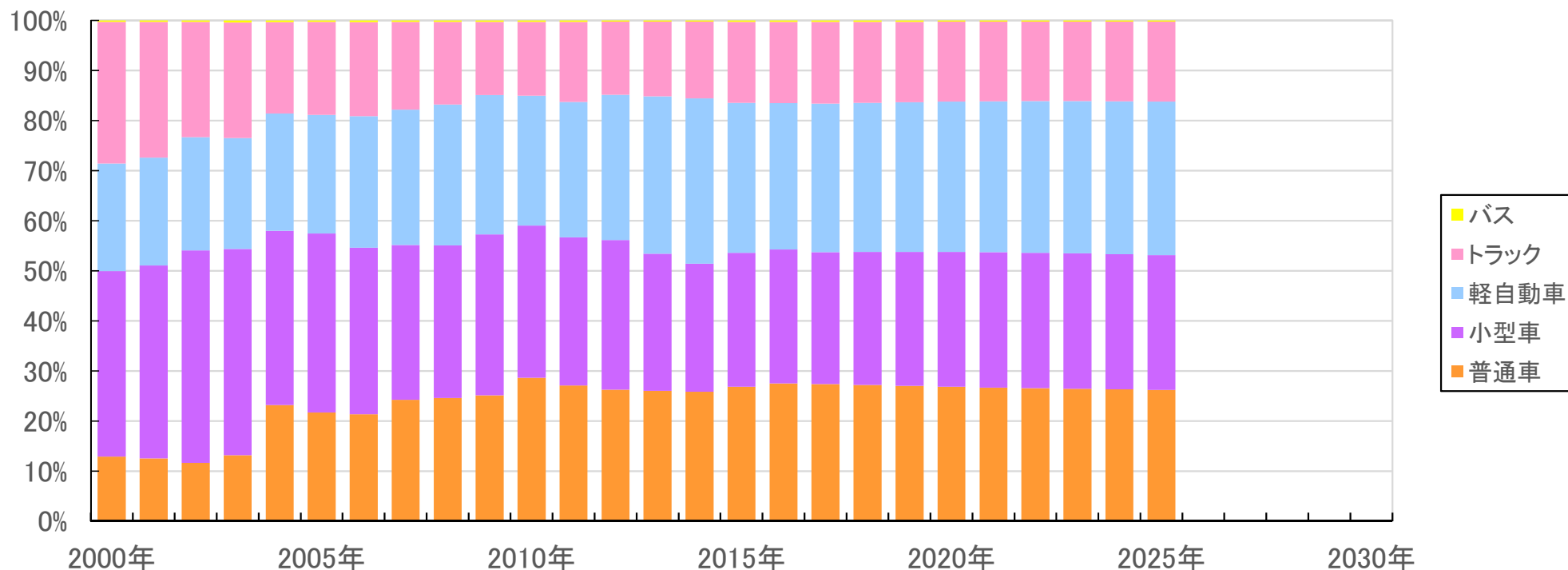
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (2) 日本の自動車販売台数 (②車種別の構成比)

- データを見ると、日本の自動車販売台数の車種別の構成比は、これまで、軽自動車、普通車の割合が増加し、小型車の割合が減少してきたものの、今後は横ばいで推移する見通し。

日本の自動車販売台数の構成比(車種別)



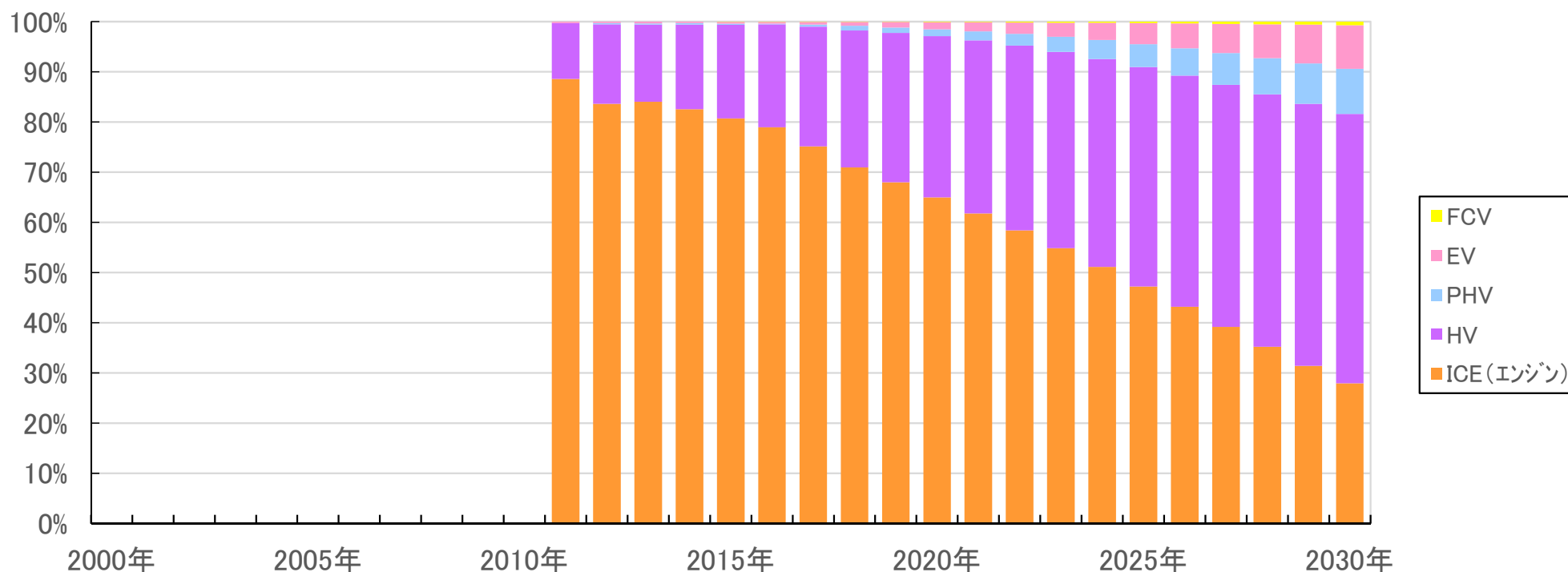
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (2) 日本の自動車販売台数 (③パワートレイン別の構成比)

- データを見ると、日本の自動車販売台数のパワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約7割まで増加する見通し。

日本の自動車販売台数の構成比(パワートレイン別)



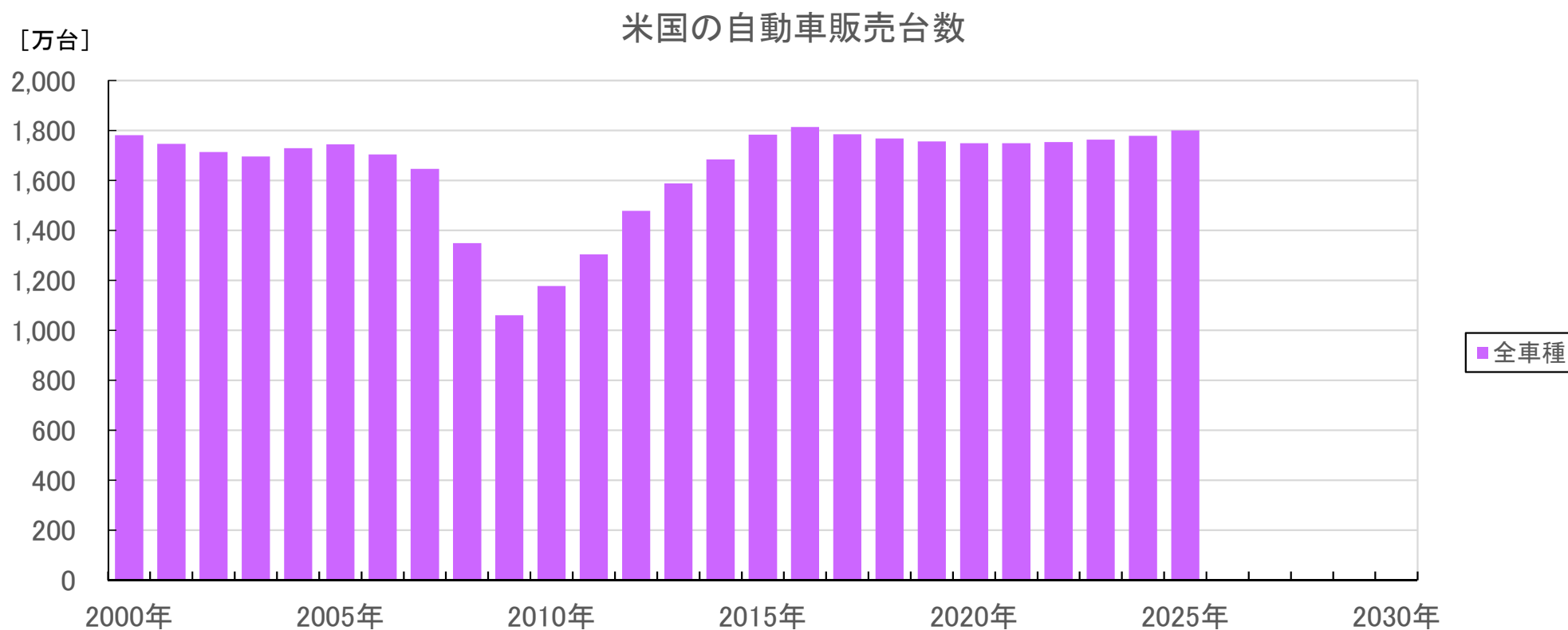
※ 2010年以前は表示していない

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (3) 米国の自動車販売台数 (①台数)

- データを見ると、米国の自動車販売台数は、横ばいで推移する見通し。



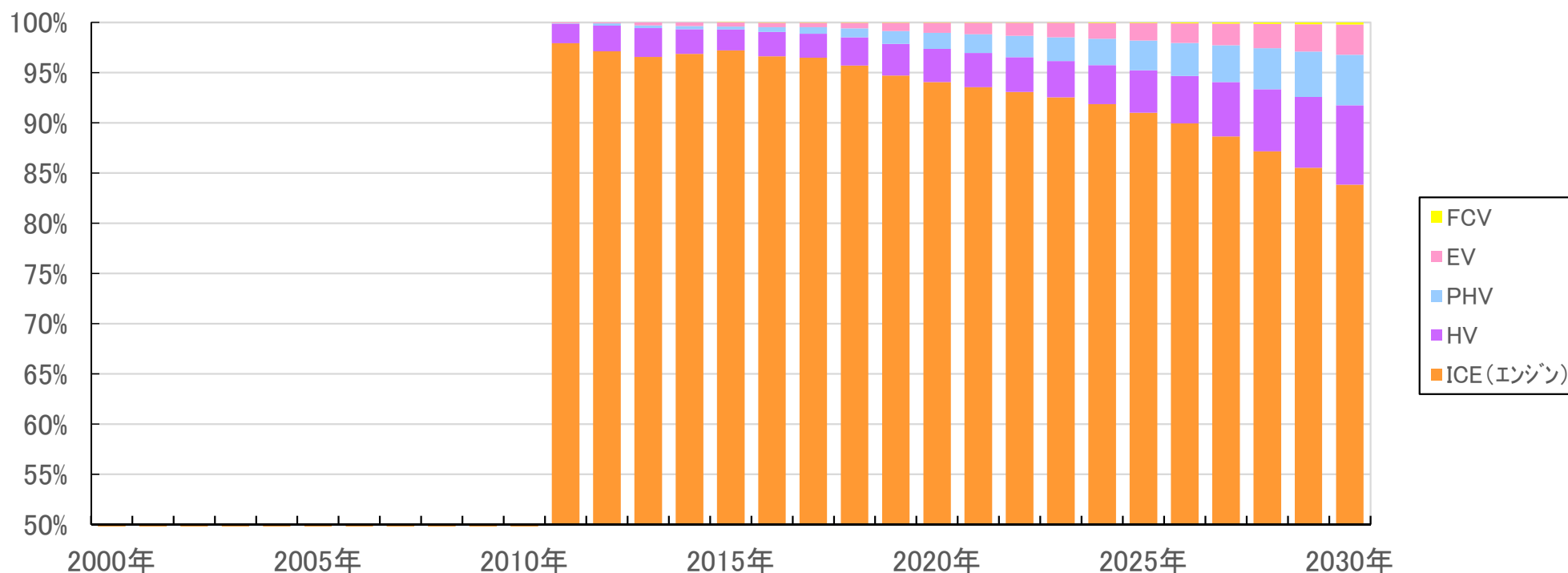
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりとまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (3) 米国の自動車販売台数 (②パワートレイン別の構成比)

- データを見ると、米国の自動車販売台数のパワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は1割強の見通し。

北米の自動車販売台数の構成比(パワートレイン別)



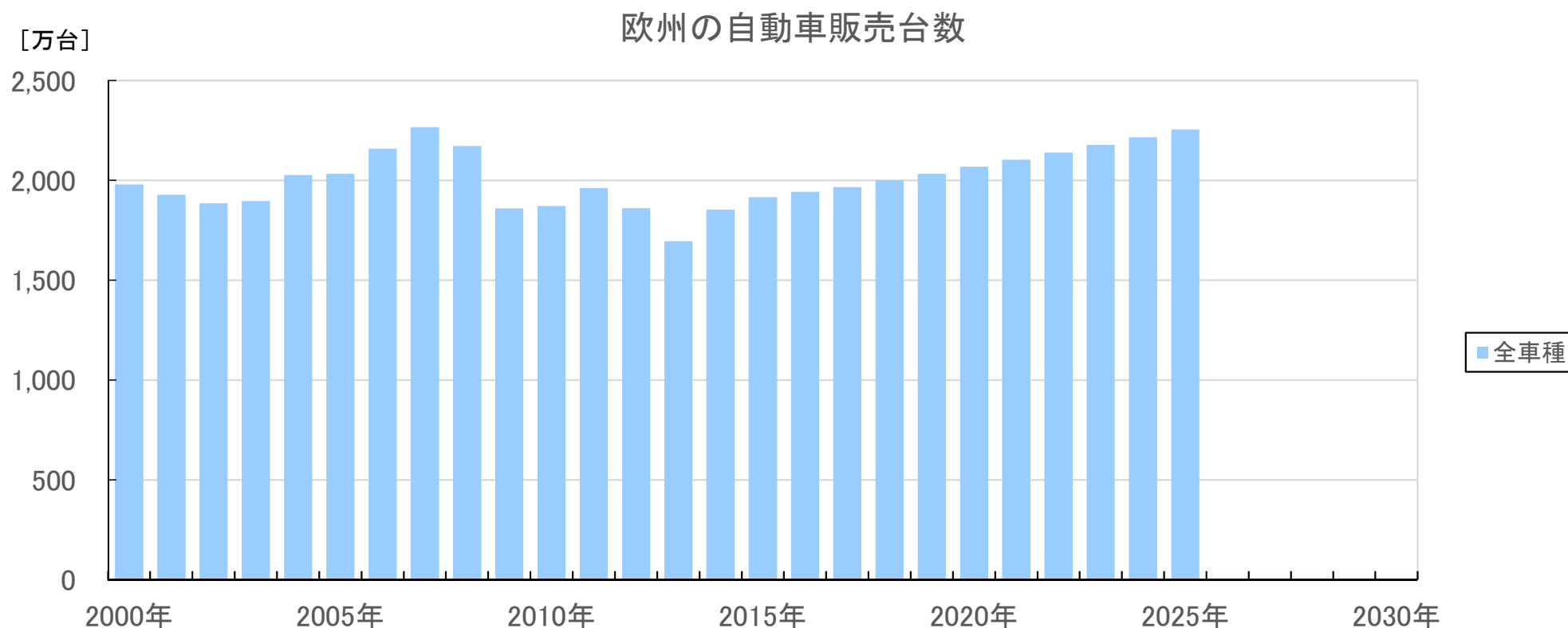
※ 2010年以前は表示していない

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (4) 欧州の自動車販売台数 (①台数)

- データを見ると、欧州の自動車販売台数は、一時、減少したものの、緩やかに増加する見通し。



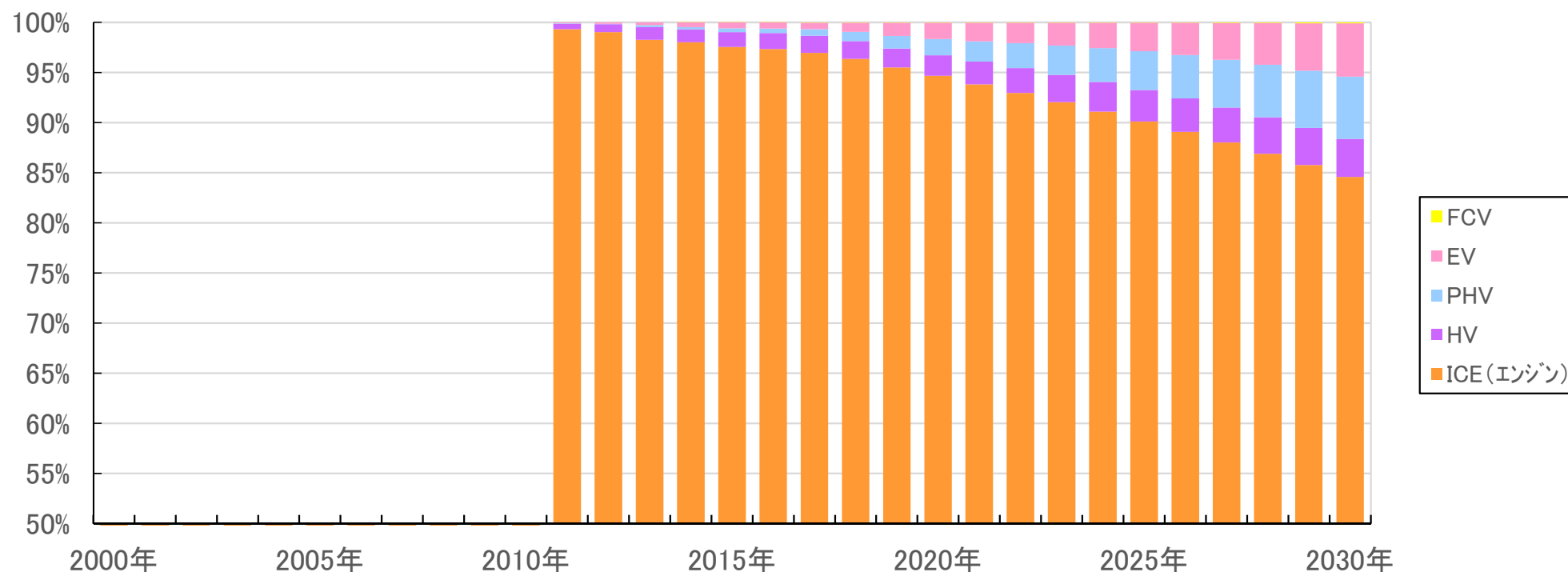
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (4) 欧州の自動車販売台数 (②パワートレイン別の構成比)

- データを見ると、欧州の自動車販売台数のパワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は1割強の見通し。

欧州の自動車販売台数の構成比(パワートレイン別)



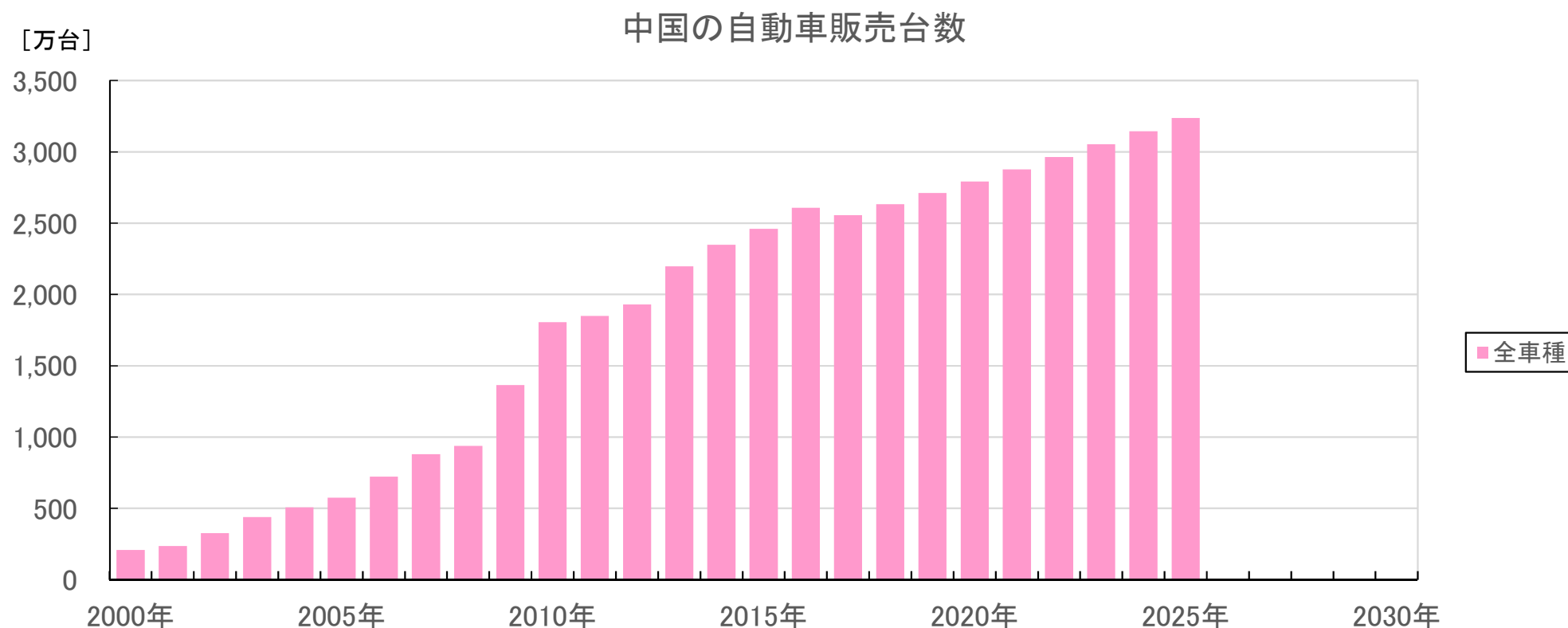
※ 2010年以前は表示していない

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (5) 中国の自動車販売台数 (①台数)

- データを見ると、中国の自動車販売台数は、増加し、2023年には、3,000万台を超える見通し。



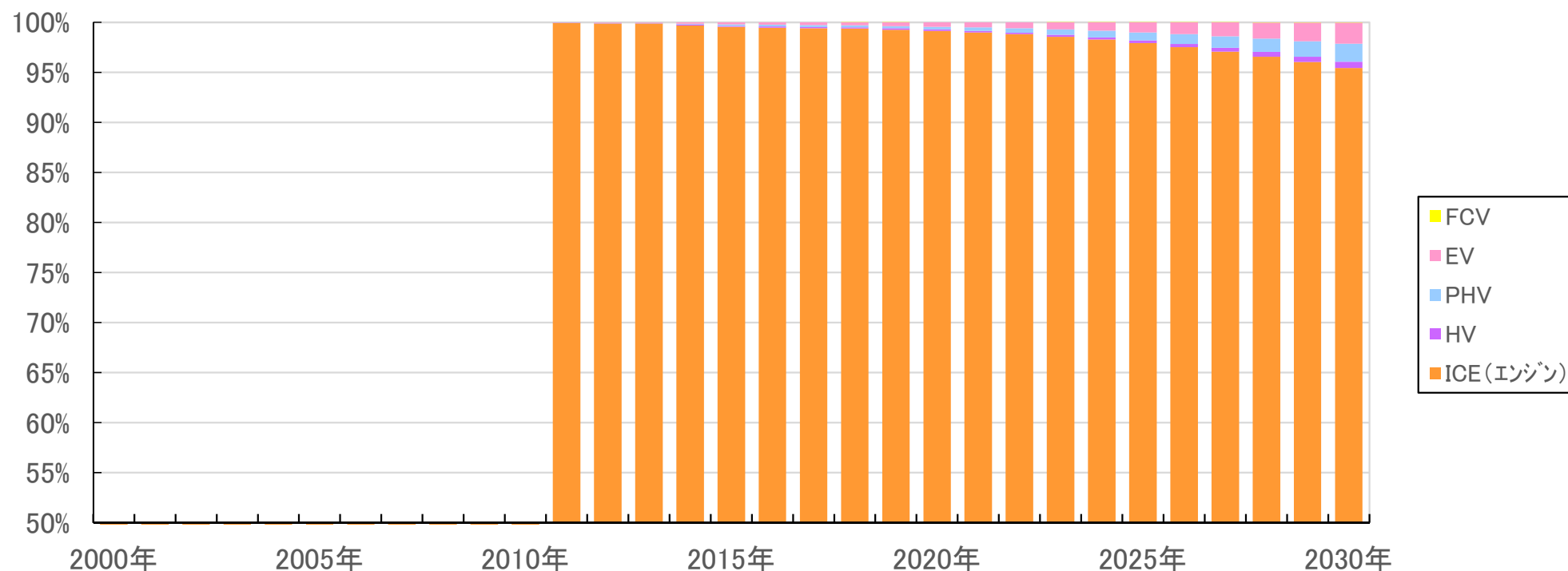
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシー)を参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (5) 中国の自動車販売台数 (②パワートレイン別の構成比)

- データを見ると、中国の自動車販売台数のパワートレイン別の構成比は、2030年時点で、電動自動車は約5%の見通し。

中国の自動車販売台数の構成比(パワートレイン別)



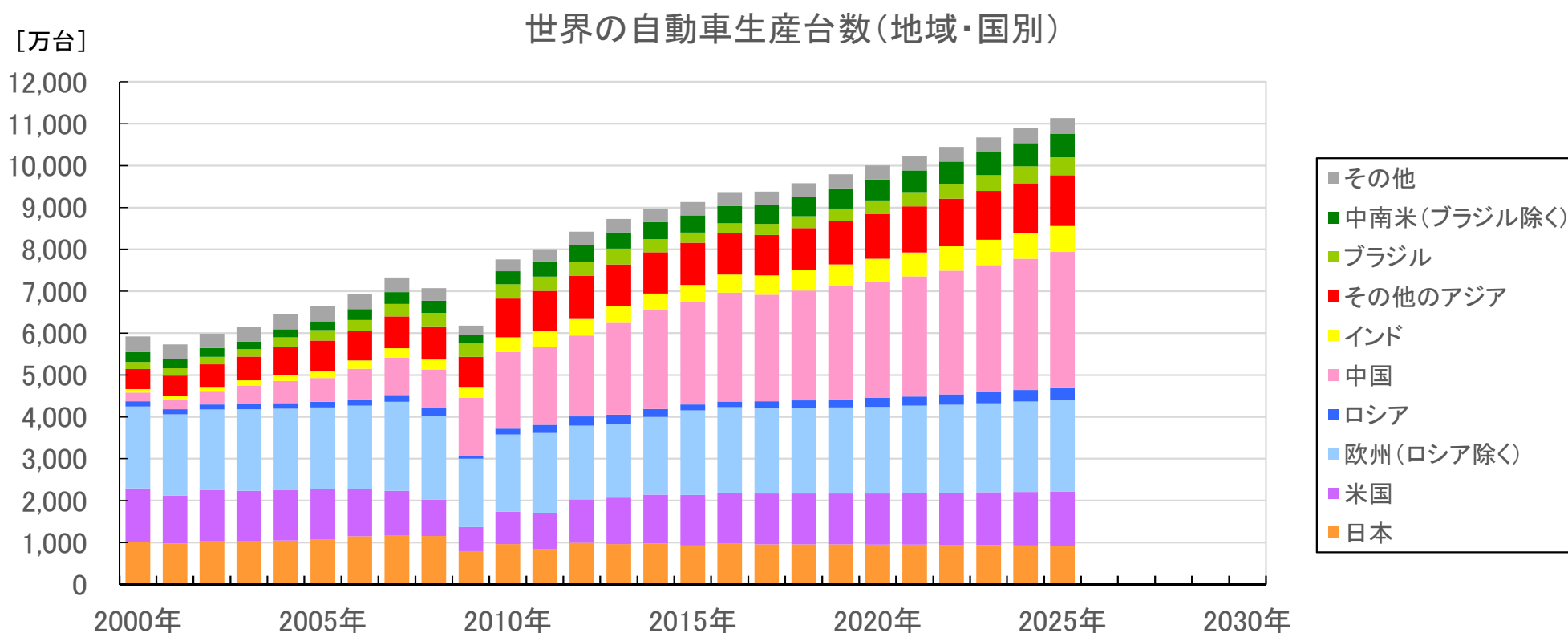
※ 2010年以前は表示していない

出典：「2015年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」(株)富士経済を参考に、中部経済産業局にて作成
<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/index/151502803.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータをとりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (6) 世界の自動車生産台数 (①地域・国別の台数)

- データを見ると、世界の自動車生産台数は、増加し、2020年時点で、1億台を超える見通し。



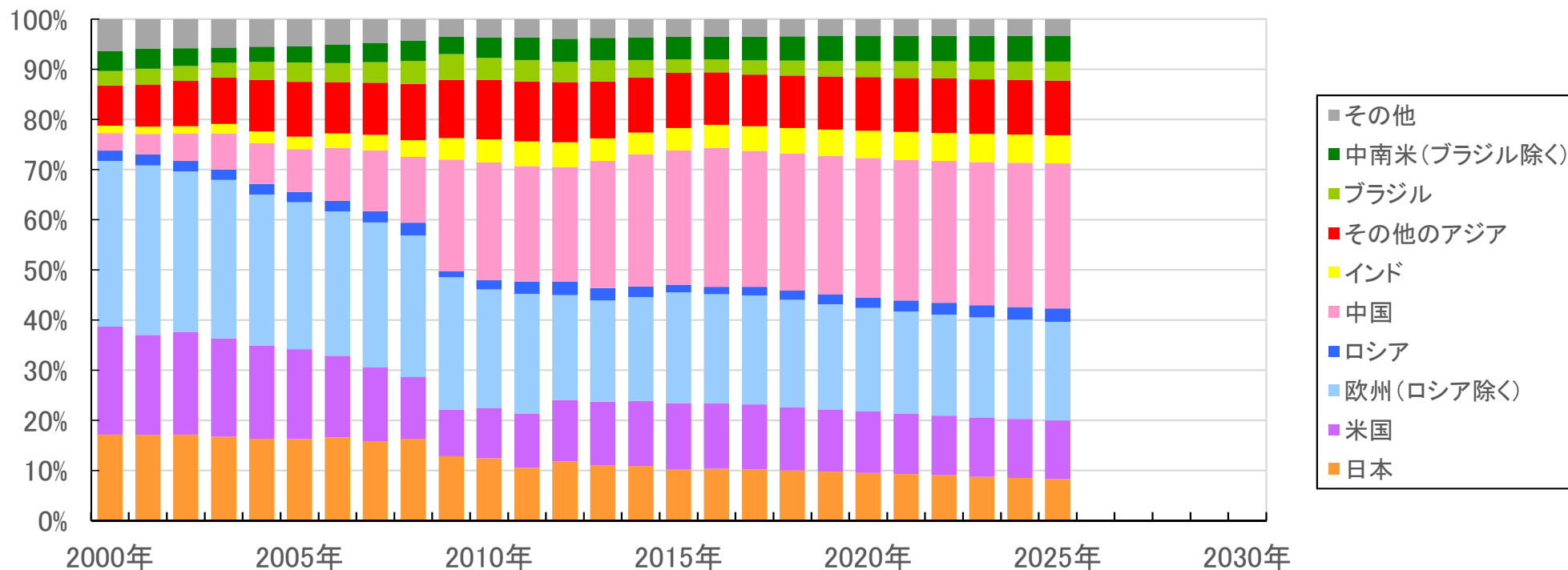
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータととりまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (6) 世界の自動車生産台数 (②地域・国別の構成比)

- データを見ると、世界の自動車生産台数の地域・国別のシェアは、中国、インド、その他のアジアを中心に、拡大する見通し。
- 一方、日本、米国、欧州は、シェアが縮小する見通し。

世界の自動車生産台数の構成比(地域・国別)



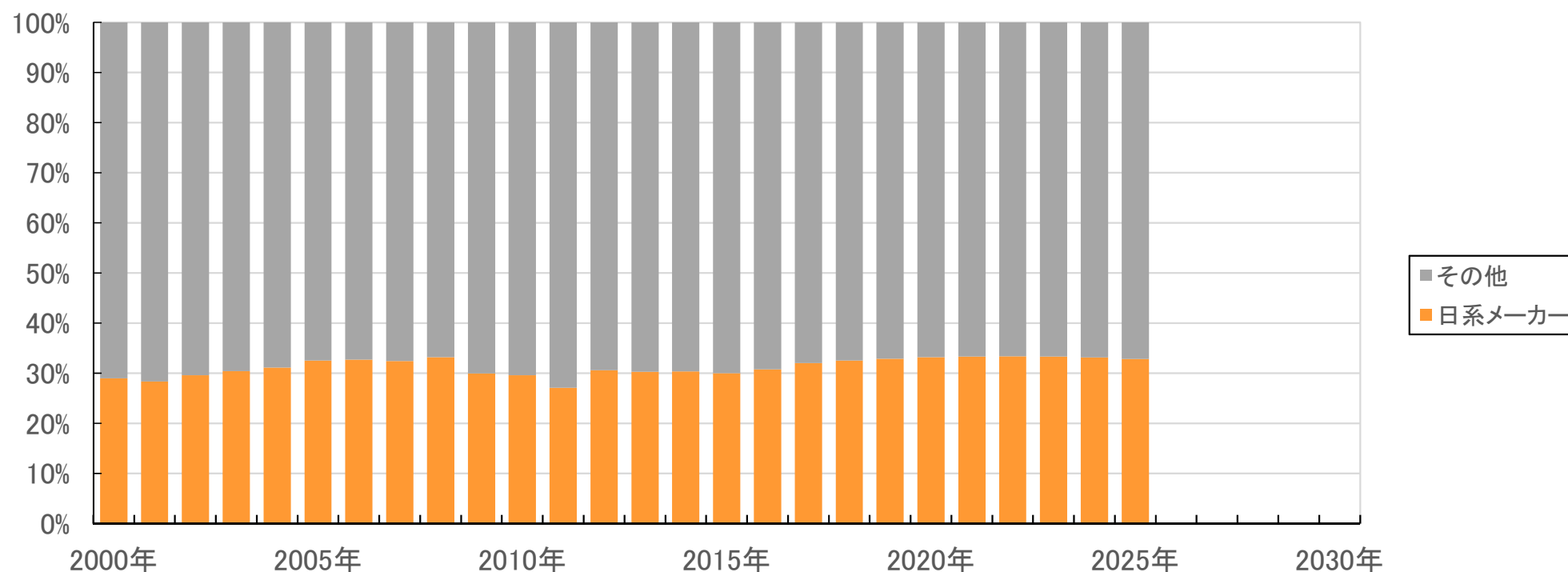
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (6) 世界の自動車生産台数 (③メーカー別のシェア)

- データを見ると、世界の自動車生産台数の日系メーカーのシェアは約3割で、横ばいで推移する見通し。

世界の自動車生産台数のシェア(メーカー別)

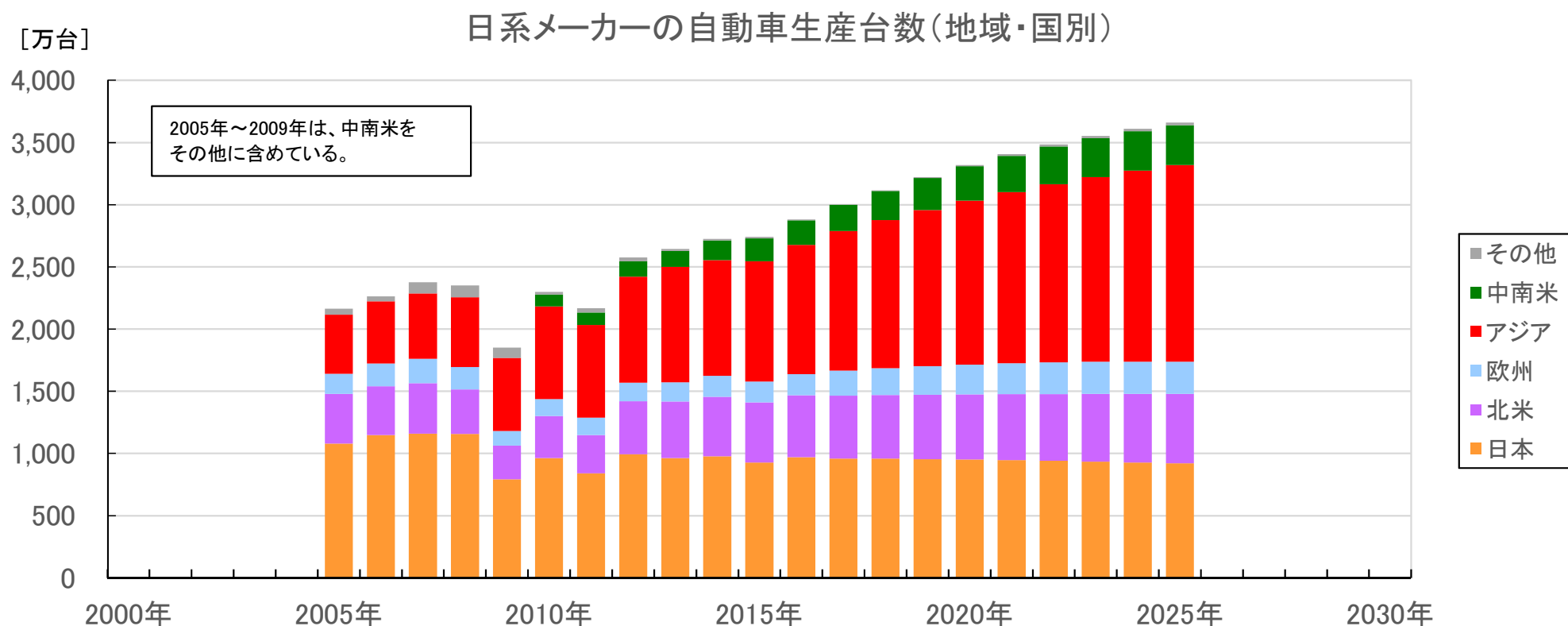


出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (7) 日系メーカーの自動車生産台数 (①地域・国別の台数)

- データを見ると、日系メーカーの自動車生産台数は、増加する見通し。



※ 2004年以前は表示していない

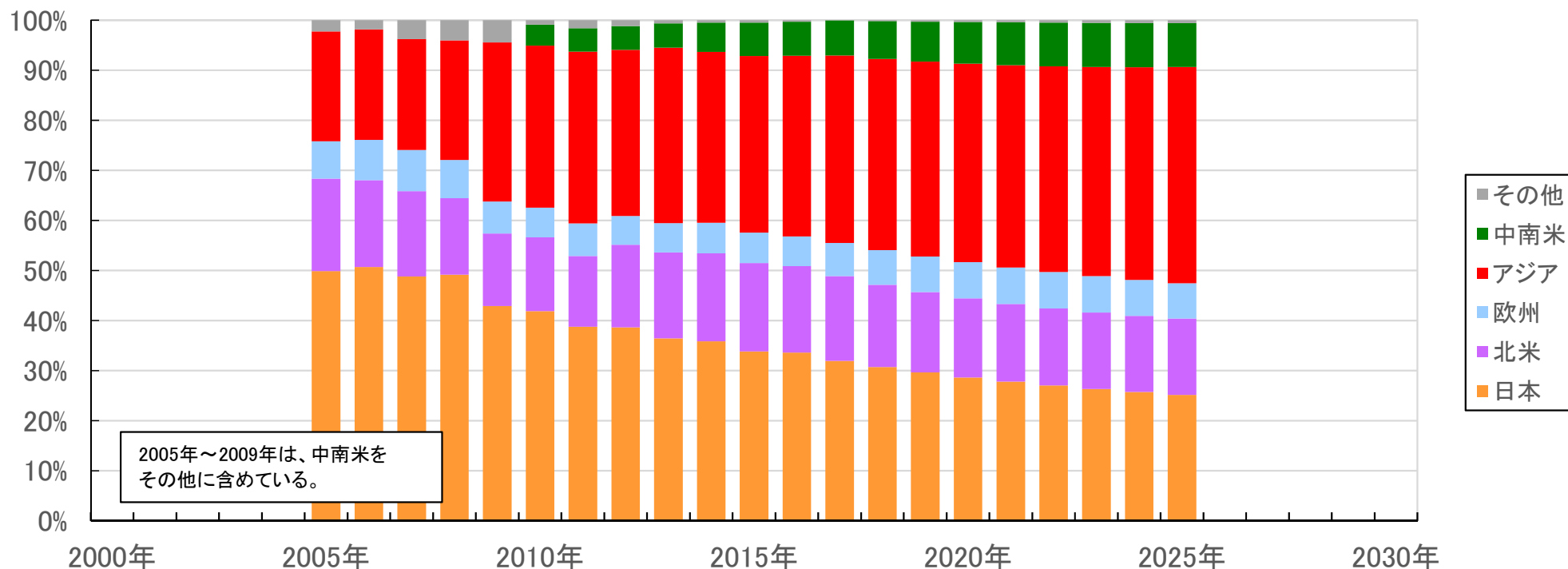
出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。

4. (7) 日系メーカーの自動車生産台数 (②地域・国別の構成比)

- データを見ると、日系メーカーの自動車生産台数の地域・国別の構成比は、アジア、中南米を中心に増加する見通し。
- 一方、国内生産比率は、2025年時点で、約25%まで減少する見通し。

日系メーカーの自動車生産台数の構成比(地域・国別)



※ 2004年以前は表示していない

出典：「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査2016年版」(株)アイアールシーを参考に、中部経済産業局にて作成
<http://www.eirc.co.jp/research/yd16.html>

注) 本資料は、各機関が公表したデータを取りまとめたものであり、中部経済産業局の見解を示したものではありません。